

令和元年度業務実績報告書

令和2年7月
独立行政法人国立美術館

目 次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	3
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	3
(1) 多様な鑑賞機会の提供	3
① 所蔵作品展	3
② 企画展	4
③ 国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会	6
④ 巡回展・巡回上映	6
(2) 美術創造活動の活性化の推進	7
① 新しい芸術表現への取組	7
② 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）	8
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	9
① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等	9
② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実	11
③ インフォメーションデータセンター（IDC）の確立	12
(4) 教育普及活動の充実	12
① 幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等）	12
② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業	15
(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信	17
① 調査研究一覧	17
② 調査研究成果の発信	18
(6) 快適な観覧環境の提供	20
① 高齢者、障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成	20
② 入場料金、開館時間等の弾力化	22
③ キャンパスメンバーズ制度の実施	24
④ ミュージアムショップ、レストラン等の充実	25
2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承	27
(1) 作品の収集	27
(2) 所蔵作品の保管・管理	29
(3) 所蔵作品の修理・修復	30
(4) 所蔵作品の貸与	32
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	34
(1) 国内外の美術館等との連携・協力等	34
(2) ナショナルセンターとしての人材育成	35
(3) 国内外の映画関係団体等との連携等	36
II 業務運営の効率化	41
1 業務運営の取組	41
2 組織体制の見直し	43
3 契約の点検・見直し	43
4 共同調達の推進	44
5 給与水準の適正化等	45
6 情報通信技術を活用した業務の効率化	45

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等	46
1 自己収入の確保	46
2 保有資産の有効利用・処分	46
3 予算	46
4 収支計画	47
5 資金計画	48
6 貸借対照表	48
7 短期借入金	48
8 重要な財産の処分等	49
9 剰余金	49
Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項	50
1 内部統制・ガバナンスの強化	50
2 施設・設備に関する計画	51
3 人事に関する計画	51
4 関連公益法人	53
5 東京国立近代美術館工芸館の移転に向けた準備	53
別表 1 所蔵作品展	54
別表 2 企画展	54
別表 3 映画上映会（国立映画アーカイブ）	56
別表 4 展覧会（国立映画アーカイブ）	57
別表 5 地方巡回展・巡回上映等	58
別表 6 調査研究一覧	58
別表 7 展覧会図録における執筆	65
別表 8 研究紀要における執筆	68
別表 9 館ニュースにおける執筆	69
別表 10 館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信	72
別表 11 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催	87
別表 12 シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築	88

（別紙 1）独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

令和元年度は、各館が多彩な企画展を開催するとともに、所蔵作品展において企画展と連動した特集展示を積極的に開催し、また、開催時期やテーマなど利用者のニーズにこたえる時宜にかなったイベントを開催するなど工夫をこらした結果、令和2年2月29日から3月末までの期間、新型コロナウイルス感染症予防対策による臨時休館を実施したものの、目標を大きく超える来館者を獲得した。

① 所蔵作品展

所蔵作品展は、研究成果、利用者のニーズ等を踏まえ、別表1のとおり実施した。

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

小企画展「解放され行く人間性」では、コレクションのなかで手薄であった女性作家による作品に光をあて、小企画展「北脇昇 一粒の種子に宇宙を視る」では、東京国立近代美術館で多数作品を収蔵する作家のひとり北脇昇の再評価を行った。また、工芸館の石川県移転を契機とし、工芸・デザインを組み入れた所蔵作品展を積極的に行い、特集展示「土」のなかに「日本」はあった？／掘り起こしたあとに、何が建ったか」や「バウハウス特集」において、工芸作品と美術作品を統一的なテーマのもとに組み合わせ展示する取り組みを実施した。

(工芸館)

「デザインの(居)場所」では、これまで収集してきたデザイン作品等を用いて、デザイン史の流れを紹介した。広報戦略として、SNSやWebメディアでの口コミに適した広報素材を準備したほか、Instagram広告を展開した結果、他の展覧会と比較して20代以下の来館者の割合が増加した。また、アンケートによると全体のうち約7割が工芸館の新規の来館者であり、新しい来館者層を獲得したと言える。また「パッション20 今みておきたい工芸の想い」では、明治以降の工芸の動向を、作品の背景にある作家の心情や作品をめぐる国内外の状況などを切り口として紹介した。来館者の能動的な鑑賞を促すための企画として、来館者自身が鑑賞のポイントを写真やメッセージでSNS等を利用して発信する企画を実施したことにより、来館者の鑑賞成果を深め、広報効果を得ることができた。

イ 京都国立近代美術館

特集展示「円山・四条派の系譜—近代京都画壇より」では、企画展「円山応挙から近代京都画壇へ」の内容と連動することで回遊性を高め、また、企画展では相対的に出品点数の少なかった近代京都画壇の作品を厚く紹介し、内容の一層の充実化を図ったことが多くの来館者に評価された。特集展示「シリーズ：検証「現代美術の動向展」1966-1970」では、京都国立近代美術館が1964年から9回にわたり開催した現代美術展シリーズを特集し、所蔵作品と併せて当時の作品調書や記録写真を展示した。本展示では、京都造形芸術大学大学院の教員・学生とともに、京都国立近代美術館が保管している現代美術展シリーズに関する過去の資料類の調査研究を進め、その成果を所蔵作品展で発表した。外部との共同研究活動の発展につながるとともに、過去のアーカイブ資料の更なる活用を促した点において有意義な企画となった。

ウ 国立西洋美術館

小企画展「内藤コレクション展「ゴシック写本の小宇宙——文字に棲まう絵、言葉を超えてゆく絵」」では、平成28年度に内藤裕史氏より寄贈を受けた中世彩飾写本零葉の約150点から、調査研究の成果を踏まえ、ゴシック期の作例53点を選んで紹介した。内藤コレクションをまとめたかたちで紹介する初めての機会であり、国立美術館の収集・保管事業の成果を広く国民に公開した。また、国内では数少ないオールド・マスター絵画の収集家から借用したサロモン・コ

ーニク《十字架降架》（1653年）と、類似主題である所蔵作品のホーファルト・フリック《キリスト哀悼》（1637年）の比較展示により、所蔵作品を新たな視点から見る機会を提供した。

エ 国立国際美術館

所蔵作品展「ジャコメッティとⅠ」及び「ジャコメッティとⅡ」では、平成30年度に購入した20世紀最大の彫刻家の一人であるアルベルト・ジャコメッティの《ヤナイハラⅠ》（1960-61年）を中心に、近代美術から現代の映像表現に至るまで国立国際美術館の幅広いコレクションを紹介する展示を実施した。その結果、コレクション展のみを観覧した入館者数の実績が、2004年の国立国際美術館中之島移転後最高を記録した。

② 企画展

企画展は、来館者のニーズに対応しつつ、以下の観点に留意して別表2のとおり実施した。

イ 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。

ロ 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。

ハ メディアアート、アニメ、建築、ファッションなど我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。

ニ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組む。

ホ その他

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

（本館）

「高畑勲展—日本のアニメーションに遺したもの」は、東京国立近代美術館における初めてのアニメーション展であり、制作ノート、メモ、絵コンテ及びレイアウト等を展示し、アニメーション映画監督高畑勲の仕事を紹介した。独自の調査研究により多数の新出資料を展示したことで、従来のアニメーション展とは一線を画す研究的な視点を織り込んだ展示となり、同分野における新しい展示形式を示すことができた。また、従来の美術ファンのみならず、アニメーションのファン層のニーズにも応え、新たな来館者層の開拓につながったことも成果といえる。

「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」では、「窓」というテーマを設定し、絵画から現代美術まで、全57作家116作品を一堂に集めて紹介した。美術と建築を関連付けて展示したことにより、双方のファン層から来館者を得て、幅広いニーズに応えることができた。また、会場内を撮影可としたほか、美術館の前庭に住宅の実物大コンセプトモデルを設置するなど、SNS等での情報拡散を意識した試みが奏功し、学生等の若年層を中心として大きな広報効果が得られた。さらに、本展の開催にあたって、新聞社以外の新たな団体から出資を受けたことも、特徴的な成果として挙げられる。

（工芸館）

「イメージコレクター・杉浦非水展」では、日本のグラフィックデザインの草分け的存在である杉浦非水について、19年ぶりに所蔵作品を一堂に展示し、作家の再評価を行った。国立映画アーカイブとの連携により作家旧蔵のフィルム等を上映したところ、研究者からも高い関心を集めた。また、杉浦非水にゆかりのある多摩美術大学など美術系大学へ重点的に周知したことで、入館者のうち20代以下の割合が3割に上るなど、若年層の来館者の獲得にも成功した。

「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクション—メトロポリタン美術館所蔵」では、世界有数の竹工芸コレクションとして知られる「アビー・コレクション」から厳選した75点と、東京国立近代美術館の近代工芸の名品を組み合わせ展示し、国内でも注目されることが少ない竹工芸の再評価を促した。富裕層の観光客をターゲットとして、都内の高級ホテル等への広報物の配布を強化したことで、他の展覧会に比べて外国人来館者の割合が高くなり、インバウンド対応の強化という政府の政策に沿うものとなった。

イ 京都国立近代美術館

「ドレス・コード？——着る人たちのゲーム」は、京都服飾文化研究財団（KCI）の衣装コレクション約90点を中心に、映画、マンガやアニメなどに描かれたファッションも含め300点を超える作品で構成されたもので、美術ファンのみならず多様な層から幅広い関心を集めた。本展は、第25回国際博物館会議（ICOM）京都大会にあわせて開催され、会議参加者に向けた特別開館を実施するなど、海外の美術館関係者・研修者の来館を促し、国立美術館の活動を海外に広く発信する機会を得たことで、本展のドイツ巡回が決定するという成果をあげた。

「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ」は、日本とのつながりの深い世界的巨匠であるニーノ・カルーソの偉業を、約90点の代表作、デザインワーク及びスケッチを通じて紹介する、世界で初の本格的な回顧展となった。本展では1階ロビーの広い空間を利用した展示を無料で開放、撮影可能としたところ、SNS上での評判が集客につながり多くの来館者を得た。

ウ 国立西洋美術館

「国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展」では、所蔵作品を核としつつ、国内外に散逸した松方コレクションの作品や、未公開の新資料もあわせて展示し、松方コレクションの形成から散逸の過程を紹介した。また、平成29年度に寄贈を受けた破損作品であるクロード・モネ《睡蓮、柳の反映》（1916年）について、損傷前の全体図を推定復元したデジタル画像を作成し、オリジナル作品とともに展示した。なお、デジタル推定復元画像の制作と展示に当たって、国立美術館初のクラウドファンディングによる資金集めを行ったことで、新しい試みとして注目を集め、国立美術館の先進的な取組を展示により示す成果をあげた。

「日本・オーストリア友好150周年記念 ハプスブルク展 600年にわたる帝国コレクションの歴史」では、日本オーストリア国交樹立150周年を記念して、ハプスブルク家のコレクションの歴史というテーマに基づいて企画を行ったところ、時宜を捉えたテーマ設定として、来館者の関心も高く、美術ファンのみならず歴史ファンをはじめとする幅広い層のニーズに応え、多くの来館者を得た。

エ 国立国際美術館

「日本・オーストリア外交樹立150周年記念 ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」では、日本オーストリア国交樹立150周年を記念して、ヨーロッパ有数の博物館として知られるウィーン・ミュージアムが誇る貴重なウィーン世紀末のコレクションを展示した。本展では300点を超える多数の作品を出品し、その内訳も絵画や彫刻のみならず、ポスター、家具、ファッションなど多様であったことから、様々な国民の多様なニーズに応えるものとなり、多くの入館者を得た。

「インボッシブル・アーキテクチャー —建築家たちの夢」では、約40人の建築家・美術家による実現しなかった先鋭的建築プランを図面、建築模型、関連資料等により紹介した。図面や建築模型のみならず、CG動画等を用いたリアリティのある映像で建築を紹介したことで、建築に関心を持つ層のみならず、一般の美術愛好家にも訴えかける内容となり、幅広い鑑賞者のニーズに応えることができた。

オ 国立新美術館

「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」では、現代フランスを代表する作家クリスチャン・ボルタンスキーを、日本における過去最大規模の展示で紹介した。国立新美術館の、2000㎡の企画展示室を活かし、作家自らが国立新美術館の展示室に合わせたインスタレーションを手掛けたことで、他では見ることでできない大規模な展示を実現した。また、一部の作品を撮影可としたところ SNS 等での情報が拡散され、大きな広報効果が得られた。

「カルティエ、時の結晶」では、カルティエ・コレクションの所蔵する作品から、個人所蔵の作品までを含めた 361 点の大規模な展示により、カルティエの初期から現代までの創作活動を網羅的に紹介した。会場デザインを国際的な評価の高い現代芸術家の杉本博司氏が率いる新素材研究所が担当し、デザイン展と美術展が融合したかつてない展示となった。また、宝飾品という美術館において珍しいジャンルを取り上げることで、多様な来館者のニーズに応え、多くの来館者を獲得した。

③ 国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会

国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会は、別表 3 及び別表 4 のとおり実施した。

取組の特徴は以下のとおりである。

上映会「オリンピック記録映画特集—より速く、より高く、より強く」では、国際オリンピック委員会の主導で復元された近代オリンピック大会の記録映画を一堂に集めて紹介した。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「オリンピック・パラリンピック」という）を控えて開催された時事性の高い企画であり、国民のオリンピック・パラリンピックに対する興味関心の高まりに応えつつ、近代オリンピックが積み重ねてきた文化的意義を広く国民に紹介する機会となった。また、無音声で作品性が薄い映画については、スポーツ史の専門家を招いてのライブ解説や音楽伴奏を付すなど、作品ごとに工夫を凝らし、幅広い鑑賞者のニーズに対応した。

上映会「映画監督 河瀬直美」では、国際的に高い評価を受けている河瀬直美監督の専門学校時代の習作短篇から、近年の劇場用長篇まで多様な作品を上映し、映画作家としての全体像を紹介した。オリンピック・パラリンピックの公式映画監督である河瀬直美監督を取り上げたことや、会期中に河瀬直美監督本人と多彩なゲストによるトークイベントを積極的に開催したことで、目標を大きく上回る来館者を獲得することができた。またバリアフリー上映や、4か国語（日本語・英語・中国語・韓国語）による多言語上映等を実施し、幅広い層の来館者に快適な鑑賞環境を提供することができた。

展覧会「キネマ旬報創刊 100 年記念 映画イラストレーター 宮崎祐治の仕事」では、映画雑誌「キネマ旬報」の創刊 100 年の時宜をとらえ、40 年以上にわたり同誌の誌面ほか第一線で活躍する映画イラストレーター宮崎祐治氏の業績を総合的に紹介した。映画文化の中で馴染み深い存在でありながら、学術的観点からは顧みられることの少ない映画イラストレーションについて、改めて見直す機会を提供したことで、今後の同分野の研究の発展に寄与した。また、国立映画アーカイブにおいて初めてとなる映画イラストレーションをテーマとした展示であり、新たな来館者層の開拓につながったことも成果といえる。

また、文化庁補助金事業として、デジタル化した映画ポスターほか映画関連資料の、館外での展示事業を実施した。本年度は東京銀座の Sony Park Ginza、大阪中ノ島の国立国際美術館地下 1 階のパブリックスペースにて展示活動を行った。新たな取組として Sony Park Ginza では活動写真弁士・音楽伴奏つきの無声映画上映も同時に開催した。

④ 巡回展・巡回上映

地方巡回展及び巡回上映等は、別表 5 のとおり実施した。

(2) 美術創造活動の活性化の推進

① 新しい芸術表現への取組

新しい芸術表現への取組については、各館以下のとおり実施した。

ア 東京国立近代美術館		
(本館)		
事業(展覧会等)名	ジャンル	取組内容
企画展「高畑勲展—日本のアニメーションに遺したもの」	アニメーション	世界的アニメーション映画監督の活動を映像、制作ノートや絵コンテなどの貴重な資料を通して紹介した。
企画展「窓展:窓をめぐるアートと建築の旅」	メディアアート, 建築	絵画, 写真, 版画, 映像, インスタレーション, 建築など, ジャンルを超えた 58 作家, 110 点余の作品により窓をめぐるアートと建築を紹介した。
所蔵作品展「MOMAT コレクション」	映像	近年収集を進めてきた, 1970 年代以降の美術動向において重要な位置を占める映像作品の中から, ビル・ヴィオラ, ロバート・スミッソン, ブルース・ナウマン, ジュリアン・オピー, 田中功起らの作品を展示した。
イ 京都国立近代美術館		
事業(展覧会等)名	ジャンル	取組内容
企画展「ドレス・コード?—着る人たちのゲーム」	マンガ, ファッション, メディア・アート	最先端のファッションのほか, 18 世紀フランスの宮廷服を題材とした人気マンガ家による描きおろしのイラストや, 演劇作家による映像インスタレーションを紹介した。
企画展「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ」	デザイン, 陶芸, 建築	空間が持つ文化的・文明的記憶を想起させる作品を制作してきたニーノ・カルーソの没後世界初の回顧展を開催し, 陶芸, デザイン, 建築等多ジャンルの作品を紹介した。
企画展「チェコ・デザイン 100 年の旅」	デザイン, メディア・アート	20 世紀の 2 回の大戦と様々な社会的情勢の変化を経験したチェコの歴史背景を踏まえつつ, 玩具やアニメを含むチェコの 100 年にわたるデザインの変遷をデザインやメディアアートなど多ジャンルの作品で紹介した。
小企画「キュレトリアル・スタディズ 13: チェコ・ブックデザインの実験場 1920s-1930s 大阪中之島美術館のコレクションより」	デザイン, メディア・アート	大阪中之島美術館所蔵の 1920 年代から 30 年代にかけてのチェコブックデザインによる展覧会。特に 6 名の作家に焦点を当て詳細な解説を行うことで, 作品を通して, デザインと芸術との境界が非常に曖昧な当時の作家のネットワークをも紹介した。
企画展「ポーランドの映画ポスター」展	デザイン	「ポーランド派」と呼ばれたグラフィック・アーティストによる先鋭的な表現を, 1950 年代から 90 年代にかけて製作された, ポーランドのみならず日本や世界各国の映画ポスター計 95 点によって紹介した。
ウ 国立映画アーカイブ		
事業(展覧会等)名	ジャンル	取組内容
「こども映画館」(地方巡回含む)	アニメーション	館内及び巡回上映企画の「こども映画館」で, 日本のアニメーションを対象にプログラムを作成・上映した。
エ 国立国際美術館		
事業(展覧会等)名	ジャンル	取組内容
企画展「 イン インポッシブル・アーキテクチャー —建築家たちの夢」	建築	20 世紀以降の国外, 国内の実現しなかった建築に焦点をあて, それらを「インポッシブル・アーキテクチャー」と称して構成した。建築の不可能性に焦点をあてることによって, 逆説的に, 建築における可能性や潜在力が浮かび上げることを想定し, そこに「建築家たちの夢」というサブタイトルを設け, 先端的な建築プランを紹介した。

オ 国立新美術館		
事業（展覧会等）名	ジャンル	取組内容
企画展「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」	インスタレーション, 写真, 映像	写真, 映像, 古着や日用品などを用いた個々のインスタレーション作品を作家の意図に即して組み合わせ, 展示会場全体が一つの大きな作品として鑑賞される構成を実現した。
企画展「話しているのは誰? 現代美術に潜む文学」	インスタレーション, 写真, 映像, パフォーマンス	作品や制作の方法論に「文学」の要素が認められる現代美術の日本の現代美術家6名のグループ展として, 写真, 映像, テキスト等を用いたインスタレーションをはじめとする現代の美術表現を, 多面的に紹介した。
企画展「カルティエ、時の結晶」	宝飾(ジュエリー), デザイン, インスタレーション	カルティエの宝飾デザインの革新性を読み解くというコンセプトに基づき, 新素材研究所(杉本博司+榊田倫之)が会場構成をデザインし, カルティエのジュエリー制作の歴史やデザインの特徴が浮上する斬新な空間構成を実現した。
企画展「古典×現代 2020—時空を超える日本のアート」	インスタレーション, 映像, 写真, マンガ, 服飾デザイン, 日本画, 仏像, 陶芸, 刀剣	江戸時代以前の日本画, 仏像, 陶芸, 刀剣等の名品と, 絵画や彫刻, マンガ, 服飾デザインなど日本の現代作家8名の作品を, 時代を超えて共通する造形要素や制作方法等に着目しながら対をなすように組合せて展示した。
イベント「六本木アートナイト 2019」	インスタレーション, 映像	アーティストのチェ・ジョンファによるワークショップ作品の展示, 開催中の「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」に関連して「クリスチャン・ボルタンスキーの可能な人生」の上映を開催した。
イベント「TOKYO ANIMA!2019」, 「インターカレッジアニメーションフェスティバル (ICAF) 2019」, 「イントゥ・アニメーション」	アニメーション, 映像	アニメーション等の新しい表現を紹介し, 若手映像作家の発表の場を提供した。
イベント「ここから4—障害・表現・共生を考える5日間」	マンガ, アニメーション, メディアアート	障害の有無にかかわらず選ばれた約20組の作家による, アート, デザイン, マンガ, アニメーションといった多様な分野にわたる作品を「いきる-共に」, 「ふれる-世界と」, 「つながる-記憶と」, 「あつまる-みんなが」, 「ひろげる-可能性を」という5つのキーワードを通じて紹介した。
		計 17 件

② 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数：計 81 団体

年間利用室数：延べ 3,166 室／年

稼働率：90.4%（目標：100%）

入館者数：1,090,575 人

- 1 公募団体等から寄せられた意見や要望も参考としつつ, 効率的な開催準備と運営を実施。
- 2 館を使用する公募団体等が実施する教育普及活動に対し, 講堂及び研修室の提供や運営管理上必要な助言, 参加者の動線の確保等のサポートを実施。また, 館ホームページへの情報掲載, 館内でのチラシの配布及びポスターの掲示等により, 普及・広報の支援を実施。
- 3 令和3年度に公募展示室を使用する80団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）を決定。
- 4 公募団体等の使用辞退, 使用取消に伴い, 展示室稼働率適正化のため, 展示室追加使用希望を照会し, 令和元年度以降に展示室を追加使用する3団体を決定。
- 5 令和元年10月12～13日の台風19号の影響による臨時休館及び令和2年2月29日以降の新型コロナウイルス感染症予防対策による臨時休館により, 6件の展覧会の開催日数が減少し, 5件の展覧会の開催を中止。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

① 情報通信技術 (ICT) を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

ア ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数 (ページビュー)	
	実績	目標
本部	857,591	5,952,350
東京国立近代美術館 (本館・工芸館)	6,634,541	11,613,099
京都国立近代美術館	4,357,945	2,360,880
国立映画アーカイブ	1,410,039	—
国立西洋美術館	3,374,023	10,242,595
国立国際美術館	2,732,752	2,547,497
国立新美術館	12,752,950	10,701,915
計	32,119,841	43,418,336

イ 所蔵作品データ等のデジタル化と公開

館名		画像データ					テキストデータ				
		デジタル化件数		累積公開 件数	公開率		デジタル化件数		累積公開 件数	公開率	
		新規	累計		実績	目標	新規	累計		実績	目標
東京国立近代美術館	本館	184	11,591	7,672	57.0%	57.2%	93	12,407	11,657	86.5%	87.4%
	工芸館	64	4,745	3,451	87.5%	33.7%	69	5,276	*14,491	113.8%	98.4%
京都国立近代美術館		80	8,613	7,695	60.4%	18.2%	563	15,773	*115,152	118.9%	100.9%
国立映画アーカイブ		—	—	—	—	—	8,027	192,810	—	—	—
国立西洋美術館		1,505	20,744	206	3.3%	3.8%	370	*26,478	4,863	78.3%	85.7%
国立国際美術館		57	8,356	4,882	61.1%	49.8%	20	9,173	*18,305	103.9%	98.7%
計		1,890	54,049	23,906	53.9%	35.2%	9,142	241,917	44,468	100.2%	94.0%

【注1】「デジタル化件数」は、各館のローカルシステムにおける画像及びテキストデータの登録件数である（国立映画アーカイブについては、ローカルシステムである NACD への映画フィルム及び映画関連資料のテキストデータ登録件数を掲載している。）。

【注2】「累計公開件数」は、「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」(<http://search.artmuseums.go.jp/>)における画像及びテキストデータの公開件数である。

【注3】上表のほか、国立映画アーカイブでは「国立映画アーカイブ所蔵映画フィルム検索システム」(<http://nfad.nfaj.go.jp/>)において日本劇映画のテキストデータ 7,654 件を、国立西洋美術館では「国立西洋美術館所蔵作品データベース」(<http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/>)において作品のテキストデータ 5,794 件及び画像データ 5,900 件を、国立新美術館では「ANZAÏ フォトアーカイブ」(<http://db.nact.jp/anzai/>)においてアーカイブズ資料のテキストデータ 3,217 件を公開している。

※1 工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載している場合があるため、テキストデータの公開率が高くなっている。

※2 国立西洋美術館では、1 作品当たり複数画像データを登録している例があるため、画像データ件数がテキストデータ件数を上回っている。

ウ 各館の特徴

(ア) 法人全体

平成 26 年 6 月に策定した「国立美術館のデータベース作成と公開の指針」に基づき、理事長のもとに国立美術館 6 館の情報担当者により組織する「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」を設置しており、各館の課題の整理と今後の事業について

継続的に協議を行っている。各館収蔵作品の歴史的データを蓄積する方法（入力仕様）の検討及び国立美術館の公開情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイシステム試行版の開発を進めた。

「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」については、新収蔵作品のテキストデータ・画像データを追加するとともに、著作権者情報の整備及び調査を行い、画像掲載許諾申請手続を継続した。また、所蔵作品の歴史情報（来歴・展覧会歴・参考文献歴）について、日英二か国語で順次公開し、国立美術館が所有する美術情報を国内外へさらに広く発信することに努めた。そのほか、所蔵作品情報の国立国会図書館「ジャパンサーチ」への提供を試行的に実施した。

(イ) 東京国立近代美術館

「東京国立近代美術館リポジトリ」を構築し、令和元年9月10日より公開した。これにより、東京国立近代美術館で刊行された紀要論文、『現代の眼』及び活動報告等の電子コンテンツへのアクセス性が向上し、研究情報等の発信力が強化された。

(ウ) 京都国立近代美術館

ホームページのリニューアル作業を完了し、令和2年1月30日から公開した。

また、SNSによる情報発信として、従来利用していた Facebook のサービスに加え、令和元年11月からは Instagram を新たに併用し、展覧会情報等の発信力が強化された。

(エ) 国立映画アーカイブ

平成25年度に開始した所蔵資料公開事業「NFAJ デジタル展示室」については、令和元年度中に「無声期日本映画のステル写真」シリーズの第9回となる「マキノプロダクション①」及び「澤村四郎五郎コレクション」の第1回の特集展示を行った。

映画関連資料については、文化庁補助金事業として、所蔵する大型の映画ポスターや、ステル写真・アルバム、技術資料等のデジタル化作業を実施した。デジタル化を実施した戦前の映画雑誌に関しては、図書室内に設置されている「デジタル資料閲覧システム」にデータを追加し、システムを充実させた。

(オ) 国立西洋美術館

海外で来歴調査に資する一次資料として重視される作品裏面の画商ラベル、展覧会ラベル及び書込み等の画像を公開し、国内外の研究発展に寄与した。

また、インターネット上で公開している「国立西洋美術館出版物リポジトリ」において、『国立西洋美術館研究紀要』23号（平成31年3月）に掲載されている論文及び『国立西洋美術館報』51号の新収作品解説等のPDF版を公開し、学術情報のオープンアクセス化に努めた。

そのほか、人気を集めている「建築ツアー」について、ホームページ上での申込プログラムを改修し、利用者の利便性を向上させた。

(カ) 国立国際美術館

ホームページ上での情報提供のほか、SNSにおいて展覧会情報やイベント情報、臨時閉館情報等について広く告知を行った。特に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった「インポッシブル・アーキテクチャー — 建築家たちの夢」展のギャラリー・トークの内容を、国立国際美術館の Facebook アカウントにおいて「バーチャル・ギャラリー・トーク」と題して連載記事として紹介し、通常の投稿の3~4倍の「いいね!」数を獲得するなど、大きな反響を得た。

(キ) 国立新美術館

日本国内の美術館、画廊、美術団体から継続的に展覧会情報を収集し、展覧会情報データベース「アートコモンズ」において公開した。令和元年度は約 3,200 件の展覧会情報を約 1,000 か所から収集し、累計で約 49,600 件の展覧会情報を収集・公開するとともに、収集した展覧会情報を国立国会図書館「ジャパンサーチ」へ試行的に提供した。

また、利用者がスマートフォンなどの端末で視聴できる無料のウェブアプリ「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC」を開発し、配信した。国立新美術館の建築の特徴や魅力を国内外に広く周知したことで、認知度の向上に寄与した。

② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

ア 図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	図書室等利用者数	
				実績	目標
東京国立近代美術館	本館	2,950	146,942	1,842	2,263
	工芸館	542	30,187	23	306
京都国立近代美術館		1,568	32,735	8	—
国立映画アーカイブ		1,149	50,069	3,529	3,681
国立西洋美術館		918	53,664	290	383
国立国際美術館		1,181	53,330	6	—
国立新美術館		3,726	158,603	27,434	24,392
計		11,936	525,432	33,132	31,025

【注1】東京国立近代美術館は本館4階、京都国立近代美術館は4階、国立西洋美術館は1階、国立国際美術館は地下1階に図録等を閲覧できる情報コーナーを設けているが、入館者が自由に閲覧できるようにしているため、当該コーナーについては利用者数を把握していない。

【注2】平成30年11月3日より京都国立近代美術館及び国立国際美術館では事前予約制による資料閲覧を開始したため、予約閲覧利用者数を「図書室等利用者数」の欄に記載している。なお本事業には、業務運営に関する目標は設定されていない。

イ 特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

特集展示「絵本のしごと：所蔵作家を中心に」（8月1日～10月19日）では、本館アトライブラリ内で東京国立近代美術館所蔵作家が手掛けた絵本に関する展示を行った。資料展示「bauhaus×MOMAT」（2月12日～6月13日、新型コロナウイルス感染症予防対策による臨時休館に伴い、会期中の2月28日で中断）では、バウハウス創立100周年を祝う「bauhaus100 japan」の関連企画として所蔵資料の中からバウハウス関連の資料を展示するとともに、過去に東京国立近代美術館で行われたバウハウス関連の展覧会の刊行物や会場写真等をパネル展示した。

また、ホームページ上のサービスについて、蔵書検索（OPAC）システムや美術資料へのアクセスを補助する「美術文献ガイド（美的工具書）」などのリニューアルを実施し、アトライブラリの英語紹介ページの情報を充実させるなど、利用者の利便性の向上につとめた。

(イ) 京都国立近代美術館

令和2年度開催予定の企画展「分離派建築会100年」において、研究及び展示に活用する資料として、『東京大正博覧会写真帖』等の関連書籍を購入したほか、教育普及事業として進めて

いる視覚障害者との鑑賞プログラム開発のため点字・触図を用いた書籍シリーズ『Collection Sensitine'raires』の『Le Pantheon』などを収集した。

また、国立情報学研究所の目録所在情報サービスに京都国立近代美術館所蔵データをアップロードし、利用者の図書資料へのアクセス性の向上につとめた。

(ウ) 国立映画アーカイブ

映画文献に関する網羅性を目指して、映画関連の新刊書と雑誌の収集を行うとともに、未所蔵の古書や戦前の雑誌など貴重な映画文献の購入にも努め、中井朝一カメラマン旧蔵の小津安二郎作品『小早川家の秋』関連資料などを購入した。

(エ) 国立西洋美術館

ジャポニスム研究関連の貴重書として、蜷川式胤『観古図説』（1876～1878年刊）（第1～5巻及びフランス語解説第1～5巻）、ジュディット・ゴーチエ、西園寺公望訳、山本芳翠挿絵『蜻蛉集』（1884年刊）を収集した。

また、東京文化財研究所より寄託を受けている図書資料の、美術商・林忠正宛書簡コレクションについて、図書館システムで所蔵情報を公開すると共に、デジタル化を実施した。

(オ) 国立国際美術館

企画展「インポッシブル・アーキテクチャー」に関する建築系の書籍や、令和2年度開催予定の「ヤン・ヴォー・オヴ・ンヤ」展に向け、入手困難資料であった『Phung Vo. 2 Février, 1861』や『Danh Vo: Blauorange 2007』を収集し、企画展に関する調査研究や資料展示等に活用していく。

また、次年度以降の展覧会で、出品を予定している貴重資料『Marcel Duchamp and John Cage by Shigeko Kubota』を、収集した。

(カ) 国立新美術館

平成31年度までに寄贈・購入により受け入れたアーカイブズ資料について整理作業を進め、特に瀬木慎一資料、田中千代資料、近藤竜男資料の整理及び編成記述を進めた。

国際交流事業としては、海外拠点4か所に日本で開催された展覧会のカタログを送付するJACプロジェクトを実施した。

③ インフォメーションデータセンター (IDC) の確立

平成20年度に、国立美術館5館（当時）全体においてVPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を導入して以降、情報ネットワークの安定化・高速化を実現している。また、平成28年度から外部データセンターが提供するサーバ機能の利用、多重化光回線によるVPNの二重化などネットワーク構成を刷新し、ネットワークの、より安定した稼働が可能となった。あわせて、電子メールやウェブ閲覧の際の情報セキュリティの確保についても外部データセンターが提供するセキュリティ機能を積極的に利用し、より安全な運用の実現に努めた。

(4) 教育普及活動の充実

① 幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等）

館名		実施回数	参加者数	
			実績	目標
東京国立近代美術館	本館	422	9,369	9,520
	工芸館	168	6,103	2,671
京都国立近代美術館		90	4,017	3,431
国立映画アーカイブ		220	18,911	13,801

国立西洋美術館	397	12,267	17,073
国立国際美術館	79	3,273	3,296
国立新美術館	77	7,657	15,823
計	1,453	61,597	65,615

各館の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

英語による異文化交流プログラム「Let's Talk Art!」は、英語ファシリテータへのフォローアップ研修によりプログラム内容を充実させ、年間で44回開催した。インバウンド対応の強化という政府の政策に沿うものであり、訪日観光客等のニーズに応える成果をあげた。

ビジネスパーソン向けの鑑賞ワークショップ「Dialogue in the Museum」は、監修者山口氏を迎えて、年間で3回実施した。2万円の参加費を設定したところ、参加者募集開始後の早い時期に定員を超える希望者が集まり、複数の新聞に記事が掲載されるなど、大きな話題となった。ビジネスパーソンを対象とした有料の教育普及プログラムは、国立美術館では初めての試みであり、新しいニーズに応え、国立美術館の役割を果たしたといえる。

また、東京都高校美術工芸教育研究会と連携し、高校生へのギャラリートークや教員研修を行ったほか、全国高等学校美術工芸教育研究大会で美術館を活用した美術教育について提言を行い、国立美術館の持つ知見を学校等に波及させることができた。

(工芸館)

所蔵作品展「パッション 20」において、制作時の作家の様子や素材技法に焦点を当てた映像を上映し、工芸の理解を深める取り組みとして、一般来館者のみならず作家を含む専門家からも好評を博した。

また教職員とボランティアガイドとともに、児童生徒による工芸鑑賞の在り方を探る「工芸作品鑑賞研究会」を開催し、それぞれの立場から児童生徒の発達段階に適した鑑賞のスタイルを検証した。その成果を所蔵作品展「みた？こどもからの挑戦状」における子供向け各鑑賞プログラムに応用し、内容を充実させることができた。

(イ) 京都国立近代美術館

企画展「円山応挙から近代京都画壇へ」に関連して実施した家族向け鑑賞プログラム「びじゅつかんでいきものさがし」では、朝の時間帯を活用し、事前申込制・先着50組で、家族向け特別鑑賞会を実施した。これにより、混雑する展覧会への来館が難しい小学生以下の子供とその保護者に鑑賞の機会を提供することができた。

また、視覚障害のある方と協働しながら、新しい美術館体験や作品鑑賞のありかたを探る「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」（平成31年度文化芸術振興費補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」）では、京都国立近代美術館の所蔵作品や建築を、手で触れ対話をしながら鑑賞を深めるプログラムを開催し、多様な感覚を用いる鑑賞活動の可能性について、障害の有無を超えて考える機会を提供した。本事業が特別支援学校等に浸透した結果、令和元年度は筑波大学附属視覚特別支援学校から要望を受け修学旅行生の受入れ支援を実施した。これは、平成29年度から本事業を継続的に実施してきた成果といえる。

(ウ) 国立映画アーカイブ

上映会と展覧会に関連し、計97回のトーク・イベント（講演会、舞台挨拶を含む）を行い、いずれも好評を博した。

また、協同組合日本映画・テレビ録音協会と共催し、映画・映像のアーカイブ活動に関する教育プログラムとして、アーカイブセミナーを開催した。

そのほか、児童生徒を対象とする教育普及事業としては、小中学生対象の「こども映画館」において弁士による説明や生演奏付きの上映、研究員による解説など、映画への興味と理解を深める工夫を行った。一般社団法人コミュニティシネマセンターとの共催による巡回上映企画「こども映画館 スクリーンでみる日本アニメーション！」では山陽、信越地域などで開催し、地方における児童生徒の鑑賞機会を充実させた。

さらに、館外での地域連携型教育普及事業として、東京国際フォーラムとの共催企画「月曜シネサロン&トーク」で「東京と鉄道」をテーマに文化記録映画の上映と専門家の講演を開催し、鉄道ファン及び専門家から好評を博したほか、山形国際ドキュメンタリー映画祭との共催企画「特集プログラム「現実の創造的劇化」：戦時期日本ドキュメンタリー再考」での上映と研究員による解説や、神戸発掘映画祭との共催企画「連携プログラム『発掘と研究』：NFAJ ボーンデジタル映画のアーカイビング」での研究員によるセミナーとフィルム上映などを実施し、好評を博した。

(ウ) 国立西洋美術館

国内外の研究者等を招へいし、シンポジウムを計5回開催した。開催にあたっては他組織とも連携しつつ、西洋美術史研究にまつわる様々な観点からの議論を、広く一般に発信した。

また、6～9歳の子どもと保護者を対象とした、ファミリープログラム「どうようびじゅつ」、美術トーク、建築ツアーなども年間を通して実施したほか、建築ツアーに関しては、時期を限定し、通常は公開していない旧館長室も含む「特別建築ツアー」を実施し、参加者から好評を博した。

そのほか、学校を対象とした鑑賞プログラム「スクール・ギャラリー・トーク」、大人数の団体に講堂で展示会の見所を画像で伝える「オリエンテーション」、児童生徒からの質問に答える「職場訪問」の3つを基本としつつ、ニーズに合わせて柔軟に対応し、適応指導教室や特別支援学校なども含めた学校団体等の受け入れを行った。

(エ) 国立国際美術館

新たに、0歳から参加できる未就学児とその保護者を対象とした美術鑑賞プログラム「ちっちゃなこどもびじゅつあー ～絵本もいっしょに～」を開催した。各回で定員を大きく上回る参加応募があり、結婚出産育児を機に美術館から遠ざかっている保護者等から好評を博した。国際児童文学館の研究者をはじめ絵本選書の専門家と協力し、未就学児が慣れ親しむ絵本から作品鑑賞に入る効果的な流れを作ったことで、参加者の満足度も高まった。

また、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授の伊藤亜沙氏を講師に迎え、「視覚を超えた鑑賞探求ワークショップ「見れば見るほど見えなくなる ジャコメッティ《ヤナイハラ I》」を徹底的に鑑賞しよう」を実施した。平成30年度に購入した彫刻作品であるアルベルト・ジャコメッティ《ヤナイハラ I》(1960-61年)を3Dプリンターで再現し、視覚障害者を含めた鑑賞者に、触って観察してもらい、それを粘土によって再現するプログラムであり、視覚を超えた作品鑑賞の在り方を探るとともに、所蔵作品の活用という面でも新たな取組となった。

そのほか、通年で小中高特別支援学校教員とともにコレクション作品の鑑賞プログラムを開発する「美術館と学校がつながる学習プログラム開発研究会 一国立国際美術館コレクションの活用1 アルベルト・ジャコメッティ《ヤナイハラ I》と」を実施した。また、大阪府教育センター、大阪市教育センターと連携して、美術館の活用を促進し、学校での鑑賞教育を深めていくことを目的に夏季研修を実施したことにより、鑑賞教育への理解を広めるとともに、学校関係者との協力体制を強化することができた。

(オ) 国立新美術館

前年度好評だった事業のうち、2件のワークショップについて、内容を充実させ「マイ・こいのぼりなう！2019」及び「手ぶらでブラっと工作室 2019 オリジナル缶バッジを作ろう！」と題して開催した。

また、例年好評を博している「建築ツアー」に関連して、より多くの利用者に国立新美術館の建築の特徴や魅力を伝えるため、利用者がスマートフォンなどの端末で視聴できる無料のウェブアプリ「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC」を開発及び配信し、国立新美術館の建築の注目度を高める成果をあげた。

そのほか、毎年参加希望者が定員を超える「夏休みこどもたんけんツアー」について、回数を増やし参加希望者のニーズに応えたほか、いくつかのプログラムを夏休み時期に集中して開催をしたことで、美術館が夏休みの課題研修などの場となり、地域社会のニーズに応える成果をあげた。

② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア ボランティアによる教育普及事業

館名		ボランティア登録者数	ボランティア参加者数(延べ人数)	教育普及事業参加者数
東京国立近代美術館	本館	40	632	7,057
	工芸館	27	593	3,224
京都国立近代美術館		37	—	—
国立西洋美術館		49	833	6,821
国立国際美術館		12	2	60
国立新美術館		62	54	2,163
計		227	2,114	19,325

各館の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

本館では、ボランティアガイドスタッフによる所蔵品ガイド、スクールプログラム、団体対応、親子や小学生向けのワークショップを実施した。また、夏季夜間開館時の「フライデー・ナイト・トーク」を行ったことで、仕事帰りのビジネスパーソンなどの来館を促進した。

工芸館では、夏期の子ども向け鑑賞プログラムにおいてボランティアスタッフが、企画立案から参加し、積極的な活動を展開した。

(イ) 京都国立近代美術館

京都市内博物館施設連絡協議会及び京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」の受講・修了者が所属する京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」から継続してボランティアを受け入れており、来館者へのアンケート調査回収、集計に携わってもらうことでボランティアの経験の蓄積、知識の向上等に協力した。

(ウ) 国立西洋美術館

ボランティアにより「スクール・ギャラリートーク」「どようびじゅつ」「美術トーク」「金曜ナイトトーク」「建築ツアー」「ボランティアアート」等のプログラムが実施された。

また、国立西洋美術館研究員や外部講師による、所蔵作品解説、講義、ワークショップ等の研修を年20回以上実施し、ボランティアの経験の蓄積、知識の向上等に協力した。

(エ) 国立国際美術館

ボランティアを大学生・短期大学生から広く募り、主に教育普及プログラムのサポート（スクールプログラムの準備、個人向けプログラムの運営補助、資料発送等）など美術館運営の補助業務に従事することを通じて、美術館活動に関するボランティアの経験の蓄積、知識の向上等に協力した。

(オ) 国立新美術館

ボランティアであるサポート・スタッフは、講演会、ワークショップ、コンサート等の運営補助に携わった。特に「国立新美術館建築ツアー」では、有志のサポート・スタッフが研修を受け、ツアーでのガイド役を務めるなど積極的に活動し、美術館の普及活動にも貢献した。

イ 支援団体等の育成と相互協力による事業

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

- ・三菱商事株式会社との連携により、障害者のための鑑賞プログラムとして、企画展「高畑勲展 日本アニメーションに遺したもの」の障害者特別鑑賞会を実施した(1件1回, 参加人数 105人)。

(イ) 京都国立近代美術館

- ・京都市立芸術大学との共催によるコンサート「京都国立近代美術館ホワイエコンサート」を実施した(1件2回, 参加人数 224人)。
- ・株式会社 FUKUMI SHIMURA, 株式会社求龍堂との共催により, 新作能「沖宮」上映会を開催した(1件1回, 参加人数 105人)。
- ・アンスティチュ・フランセ関西, 読売新聞社との共催により「2019年 音楽の祭日 観て! 聴いて! ドビュッシー」を開催し, 音楽専攻の学生によるピアノ演奏にあわせ, ドビュッシー作曲『前奏曲集 I, II』をイメージして制作した伊砂利彦氏の型絵染を展示した(1件1回, 参加人数 400人)。
- ・京都市及びアンスティチュ・フランセとの共催により「ニューイ・ブランシュ KYOTO 2019」を開催し, フランスなど各国で活躍した世界的舞踏家室伏鴻氏のドキュメンタリー映画を上映した(1件1回, 参加人数 47人)。
- ・京都市内 4 館連携協力協議会「京都ミュージアムズ・フォー」の連携事業として, 講演会「河井と川勝一友情が生んだ珠玉のコレクション」を実施した(1件1回, 参加人数 58人)。

(ウ) 国立西洋美術館

- ・文化庁主催「上野の森バレエホリデイ 2019」に協力し, ズーラシアンブラス, サキソフォックス, 東京藝術大学サキソフォンカルテットによるコンサートを開催した(1件2回, 参加人数 452人)
- ・東京都交響楽団メンバー(弦楽四重奏)によるナイト・ミニコンサートを実施した(2件4回, 参加人数 483人)。
- ・東京文化会館との共催により, 「まちなかコンサート 芸術の秋, 音楽さんぽ」を実施した(1件2回, 参加人数 267人)。
- ・台東区教育委員会主催「学びのキャンパスプランニング」を実施した。
- ・昭和音楽大学との共催により, 「日本・オーストリア友好 150 周年記念 ハプスブルク展 600年にわたる帝国コレクションの歴史」の開催にあわせ, トーク&ミニコンサート「ナポリバロックとハプスブルク」を実施した(1件1回, 参加人数 137人)。
- ・凸版印刷との共同事業であるモネ《睡蓮, 柳の反映》デジタル推定復元に関して, 凸版印刷の担当者を招き, 特別講演「クロード・モネ《睡蓮, 柳の反映》デジタル推定復元について」を実施した(1件1回, 参加人数 142人)。
- ・大原美術館主任学芸員を招き, 上野ミュージアムウィーク記念トーク「美術館誕生—松方コレクションと大原コレクション」を実施した(1件1回, 参加人数 64人)。
- ・上野文化の杜新構想実行委員会及びアーツカウンシル東京との連携により, トークイベント「西美×トーハク 松方コレクションにみる西洋美術と浮世絵版画」を実施した(1件1回, 参加人数 140人)。

(エ) 国立国際美術館

- ・ダイキン工業現代美術振興財団との共催により、「ミュージアム・コンサート」を実施した（1件1回，参加人数 216 人）。
- ・「日本・オーストリア外交樹立 150 周年記念 ウィーン・モダン クリムト，シーレ 世紀末への道」関連イベントとして，読売新聞社の主催で，特別内覧会及びコンサート「名画と弦楽四重奏で学ぶウィーン・モダン展」を館内で実施。（1件1回，参加人数 167 人）
- ・中之島地区の地域連携として，以下の取り組みを実施した。
 - 一中之島まちみらい協議会主催企画「鉄道芸術祭 vol.9」と連携し，「コレクション特集展示 ジャコメッティと II」展のナイトミュージアムツアー及びトークを実施した（1件1回，参加人数 27 人）。
 - 一京阪ホールディングス株式会社，中之島高速鉄道株式会社主催のアートイベント「キテ・ミテ中之島 2019」と連携し，「親子で美術館探検& 駅なかツアーワークショップ」で館内紹介及び作品鑑賞対応を実施した（1件1回，参加人数 18 人）

(オ) 国立新美術館

- ・企業協賛金を活用して，以下の教育普及事業を実施した。
 - 一JAC（Japan Art Catalog）プロジェクトにより，海外の日本美術研究拠点（4 箇所）に国内で開催された展覧会図録を寄贈した（鹿島建物総合管理，三井不動産，東レ，三菱電機，住友化学）。
 - 一ワークショップや建築ツアー等のプログラム、鑑賞ガイドの作成及び建築ガイドアプリの開発を行った（株式会社日本設計，キヤノン株式会社）。
 - 一託児サービスを提供した（32 回）（三菱商事）。
- ・株式会社日本設計の協力により，国立新美術館建築ツアー（2 件 6 回，参加人数 158 人），夏休みこどもたんけんツアー（1 件 3 回，参加人数 67 人）の実施及びスタッフの研修を行った。
- ・認定 NPO 法人ミュージックシェアリングと連携し，「楽器指導支援プログラム参加校による合同コンサート」を開催した。（1 件 1 回，200 人）
- ・NPO 法人視覚障害者と作る美術鑑賞ワークショップと連携し，「話しているのは誰？現代美術に潜む文学」展の鑑賞ワークショップを行った。（1 件 2 回，24 人）

(カ) その他（各館共通）

東京の美術館・博物館等 95 施設が参加する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス 2019」及び関西の美術館・博物館等 96 施設が参加する「ミュージアムぐるっとパス・関西 2019」に参加し，所蔵作品展観覧料の無料化又は割引や，企画展観覧料の割引などを実施し，全体の利用者は延べ 15,234 人であった。

(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信

① 調査研究一覧

各館において，下記のとおり調査研究を実施した。個々の調査研究については別表 6 を参照。

館名	調査研究件数	
東京国立近代美術館	本館	32
	工芸館	15
京都国立近代美術館		14
国立映画アーカイブ		27
国立西洋美術館		12
国立国際美術館		17

国立新美術館	25
計	142

特記事項

ア 東京国立近代美術館

- ・長名大地（研究員）が執筆した、「第二次世界大戦下におけるピエール・マティス画廊の役割：ヨーロッパとアメリカの美術交流を中心に」（『鹿島美術研究：年報別冊』36号所収）が、第27回鹿島美術財団賞選考委員会において優秀賞に選ばれた。
- ・平成30年度から令和元年度年まで東京国立近代美術館、韓国国立近現代美術館及びナショナル・ギャラリー・シンガポールを巡回した「Awakenings: Art in Society in Asia 1960s-1990s」展が、令和元年11月の上海アートウィークにおいて、アジア・アート・パイオニア（Asia Art Pioneer）賞のその年一年の最も優れた展覧会に贈られる「Exhibition of the year」を受賞。

イ 京都国立近代美術館

- ・牧口千夏（主任研究員）が平成29年度に担当した企画展「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」展が、国際的かつ先進的な調査内容に基づく企画として評価され、第7回ジャポニスム学会展覧会賞を受賞した。

ウ 国立西洋美術館

- ・企画展「国立西洋美術館開館60周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へーピュリスムの時代」の企画と構成が評価され、村上博哉（副館長兼学芸課長）が第14回西洋美術振興財団賞・学術賞に選ばれた。

エ 国立新美術館

- ・平成28年度に国立新美術館と森美術館の2館で同時開催した企画展「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」が、イギリスでのアジアの現代美術の普及を目的とする団体 Platform Asia から評価され、本展を担当した米田尚輝（主任研究員）が本団体から招聘を受けて、イギリスの一つの大学と二つの美術館で日本とアジアの現代美術に関する研究成果を伝える講演を行った。

② 調査研究成果の発信

ア 館の刊行物による調査研究成果の発信

各館において、下記のとおり展覧会図録、研究紀要、館ニュース等を刊行し、研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表7～9を参照。

館名		展覧会図録		研究紀要	館ニュース	パンフレット・ガイド等	その他
		実績	目標				
東京国立近代美術館	本館	5冊	5冊程度	1	4	5	3
	工芸館	3冊	4冊程度			12	0
京都国立近代美術館		8冊	6冊程度	1	7	3	2
国立映画アーカイブ		1冊	1冊程度	0	4	13	0
国立西洋美術館		5冊	4冊程度	1	4	4	2
国立国際美術館		5冊	4冊程度	0	6	1	2
国立新美術館		6冊	6冊程度	1	—	4	1
計		33冊	30冊程度	4	25	42	15

【注】「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット、子供向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

イ 館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

各館において，下記のとおり学会，学術雑誌等において研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 10 を参照。

館名		学会等発表 件数	論文等発表件数			
			学術書籍，研究 報告書等の発行	学術誌論文掲載 【査読有り】	学術誌論文掲載 【査読無し】	その他
東京国立近代美術 館	本館	21	4	2	19	28
	工芸館	21	4	0	6	16
京都国立近代美術館		17	0	2	13	8
国立映画アーカイブ		23	6	0	4	8
国立西洋美術館		14	3	0	2	10
国立国際美術館		2	1	0	7	7
国立新美術館		5	0	3	5	12
計		103	18	7	56	89

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

- ・『研究紀要』及び美術館ニュース『現代の眼』の収録論文，ホームページ上及びインターネット上の東京国立近代美術館リポジトリを通じて公開した。

(イ) 国立映画アーカイブ

- ・「NFAJ デジタル展示室」において，「無声期日本映画のステル写真」シリーズの第 9 回となる，「マキノプロダクション①」及び「澤村四郎五郎コレクション（1）」(通算第 19～20 回)を公開した。

(ウ) 国立西洋美術館

- ・『研究紀要』の収録論文をインターネット上の国立西洋美術館出版物リポジトリを通じて公開した。

(エ) 国立国際美術館

- ・『国立国際美術館ニュース』の収録論文をホームページ上で公開した。

(オ) 国立新美術館

- ・『平成 30 年度活動報告』をホームページ上で公開した。

エ 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

館名		開催回数
東京国立近代美術 館	本館	0
	工芸館	3
京都国立近代美術館		1
国立映画アーカイブ		2
国立西洋美術館		0
国立国際美術館		0
計		6

※詳細については別表 11 を参照。

(6) 快適な観覧環境の提供

館名		観覧環境に対する満足度調査における「良い」以上の回答率
東京国立近代美術館	本館	82.9%
	工芸館	80.4%
京都国立近代美術館		75.5%
国立映画アーカイブ		87.2%
国立西洋美術館		73.0%
国立国際美術館		76.9%
国立新美術館		75.2%

① 高齢者、障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成

※多言語化に向けた取組件数：66件（施設ごとにカウント。以下、多言語化に向けた取組には下線を付する。）

〈令和元年度の新規実施事項〉

- ・多言語による所蔵作品展チケットのオンライン販売を実施【東京国立近代美術館（本館）、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館】
- ・バリアフリー上映の後に、聴覚障害者向けの手話通訳及びUDTalk（音声認識システムを使用してトーク内容をリアルタイムで文字化し投影する）を用いたバリアフリーのトークを実施【国立映画アーカイブ】
- ・所蔵作品上映における字幕投影による英語、韓国語、中国語字幕付き上映を実施【国立映画アーカイブ】
- ・利用者がスマートフォン等の端末で視聴できるウェブアプリ「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC」を配信【国立新美術館】

〈各館共通の継続実施事項〉

- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット、ミュージアムカレンダー等の配布
- ・英語による館内放送の実施（一部の放送を除く）
- ・所蔵作品展・企画展における展示解説（章解説パネル・キャプション・作品リスト等）の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語に対応）
- ・所蔵作品展・企画展における音声ガイドの多言語化（原則として日本語のほか英語・中国語・韓国語に対応）
- ・多目的（身体障害者用）トイレ、エレベータ（エスカレータ）、スロープ（手摺り）の設置
- ・車椅子の貸出、ベビーカー（国立西洋美術館は除く）の貸出
- ・身体障害者用駐車スペース（国立国際美術館は除く）の提供
- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・盲導犬、介助犬の同伴による観覧
- ・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
- ・オストメイト（人工肛門、人工膀胱保有者）対応の設備を設置
- ・無料Wi-Fiの提供

〈各館ごとの継続実施事項〉

- ・国立美術館6館紹介パンフレットの多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）【法人本部】

- ・電話による展覧会情報案内（ハローダイヤル）の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語）【東京国立近代美術館，国立映画アーカイブ，国立西洋美術館，国立新美術館】
- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売【東京国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館，国立新美術館】
- ・クレジットカードによる観覧券の窓口販売【京都国立近代美術館，国立国際美術館】
- ・QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を開始【東京国立近代美術館，国立映画アーカイブ，国立西洋美術館，国立国際美術館，国立新美術館】
- ・多言語対応の案内用デジタルサイネージの設置【東京国立近代美術館（本館），京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館，国立新美術館】
- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し，外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引【東京国立近代美術館，国立映画アーカイブ，国立西洋美術館】
- ・地下鉄の対象の乗車券の提示により割引等を実施するサービス「ちかとく」の英語版に参加【東京国立近代美術館，国立西洋美術館】
- ・授乳室の設置【京都国立近代美術館，国立国際美術館，国立新美術館】
- ・常設の電子アンケート（日本語・英語）を導入【東京国立近代美術館】
- ・館内サインの拡大，所蔵作品展における「重要文化財」のキャプション表示の追加，ホームページ上の重要文化財作品の特設解説ページ設置，所蔵作品展・企画展における小中学生向けこどもセルフガイドの配布，自主企画展における無料音声ガイドアプリの提供，所蔵作品展におけるスマートフォンアプリによる4ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説の提供，訪日外国人に向けた，英語による鑑賞・異文化交流プログラム「Let's Talk Art！」の実施【東京国立近代美術館（本館）】
- ・作品名・作家名にふりがなを入れた会場キャプションの設置及び作品リストの配布，夏季所蔵作品展における児童生徒を対象とした「セルフガイド」（日本語・英語）及び一般観覧者向けの「鑑賞カード」の作成・配布【東京国立近代美術館（工芸館）】
- ・美術館ニュース『見る』の配布，免震装置付有機 EL 照明による展示ケースの設置，【京都国立近代美術館】
- ・特集展示「NFAJ コレクションでみる 日本映画の歴史」における児童生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」の配布，所蔵作品上映におけるバリアフリー上映を実施（聴覚障害者向け字幕付き DCP での上映，聴覚障害者向け磁気ループシステム使用及び視覚障害者向け音声ガイドの使用），企画上映における整理券制度の導入及び前売券の販売，長瀬記念ホール OZU での企画上映について，前売券の販売【国立映画アーカイブ】
- ・企画展における児童生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布，館広報物（館ニュース『Zephyros』の最新号及びバックナンバー）の配布及びホームページ掲載，「建築探検マップ」を全面改定版した「世界遺産パンフレット」（日本語・英語・中国語・韓国語）の作成・配布，グーグル「Arts&Culture」による主要所蔵作品解説（日本語・英語・中国語・韓国語）の無料配信の実施，建築音声ガイドの多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語），企画展におけるスマートフォンアプリによる3ヶ国語（英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説の提供【国立西洋美術館】
- ・安全仕様のキッズルーム（地下1階）の設置，同所における幼児向け絵本常設【国立国際美術館】
- ・点字ブロック（正門から正面入口，地下鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベータ内ほか）の設置，補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機10台），ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示，託児サービスの実施，文字を大きくし見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布，企画展における児童生徒向け鑑賞ガイドの配付及び子ども向け施設ガイド『てくてくマップ』の配布及びホームページ掲載，地域の学校を対象として休館日の展示室を無料で開放する「かようびじゅつか

ん」を実施、外国人来館者向けの翻訳サービス「SMILE CALL」を活用、場外券売所誘導係員に「ポケットク」を導入、講演会・シンポジウム等における手話通訳の導入【国立新美術館】

② 入場料金、開館時間等の弾力化

〈令和元年度の新規実施事項〉

- ・5月1日に、天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位を記念して所蔵作品展の観覧料を無料化【京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館】
- ・5月1日に、天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位を記念して全館無料開館を実施【東京国立近代美術館、国立国際美術館】
- ・10月22日に、即位礼正殿の儀を記念して所蔵作品展の観覧料を無料化【京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館】
- ・10月22日に、即位礼正殿の儀を記念して全館無料開館を実施【東京国立近代美術館（工芸館）】
- ・10月22日に、即位礼正殿の儀を記念して所蔵作品展及び企画展「映画雑誌の秘かな愉しみ」の観覧料を無料化【国立映画アーカイブ】
- ・10月22日に、即位礼正殿の儀を記念して企画展「話しているのは誰？ 現代美術に潜む文学」の観覧料を無料化【国立新美術館】
- ・「関西文化の日プラス」（9月1日）における所蔵作品展の観覧料を無料化【京都国立近代美術館、国立国際美術館】
- ・企画展「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」及び企画展「「鏑木清方 幻の《築地明石町》特別公開」」において、共通チケットを販売し、観覧料割引を実施【東京国立近代美術館】

〈各館共通の継続実施事項〉

- ・文化の日（11月3日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・所蔵作品展、自主企画展及び国立映画アーカイブの展覧会における高校生以下及び18歳未満の観覧料を無料化
- ・所蔵作品展及び企画展における夜間開館（毎週金曜・土曜日20時まで）を実施

〈各館ごとの継続実施事項〉

ア 東京国立近代美術館

- ・毎月第一日曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎週土曜、日曜に優待券を提示した高校生以下の子供を連れた家族に所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・「東京マラソン2020」イベントガイド持参者に対する所蔵作品展・自主企画展の観覧料（個人一般）割引を実施
- ・JAF会員証提示による観覧料（個人一般）割引を実施
- ・千代田区ミュージズ&シアターマップ2019の提示による所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施
- ・企画展（「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」、「高畑勲展—日本のアニメーションに遺したもの」、「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」、「ピーター・ドイグ展」）において、各種観覧料割引を実施。
- ・年始は1月2日から開館し、所蔵作品展の観覧料を無料化、図録やオリジナルグッズをプレゼント
- ・所蔵作品展における夜間開館時の観覧料を割引
- ・アートフェア東京2020特別協力美術館の期間中（令和元年3月19日～3月22日）に、所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・通訳案内士の所蔵作品展及び企画展の観覧料を無料化

- ・7月5日から10月4日まで、金曜・土曜の夜間開館を21時まで延長
- ・以下のとおり臨時開館及び開館時間延長を実施
 - 桜花期に臨時開館を実施（4月1日）
 - 年始に臨時開館を実施（1月2日）
 - 令和元年皇居乾通り一般公開及び大嘗宮一般参賀に合わせ臨時開館を実施(12月2日)

イ 京都国立近代美術館

- ・企画展を開催しない土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・「関西文化の日」（11月16～17日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館とで組織する「京都ミュージアムズ・フォー」において、各館の友の会と相互割引を実施
- ・奈良国立博物館、国立民族学博物館及びMIHO MUSEUMの友の会と相互割引を実施
- ・近隣の京都市美術館、細見美術館と連携し、相互割引を実施
- ・JAF会員証提示による企画展及び所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会、京都新聞トマト倶楽部、阪急阪神カード及び京阪カードの情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・上記割引のほか、企画展（「川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎」、「トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」「ドレス・コード？——着る人たちのゲーム」、「円山応挙から近代京都画壇へ」、「チェコ・デザイン 100年の旅」）において、各種観覧料割引を実施
- ・所蔵作品展及び自主企画展（「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ」）における夜間開館時の観覧料を割引
- ・7月5日から10月12日まで、金曜・土曜の夜間開館を21時まで延長

ウ 国立映画アーカイブ

- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎週土曜、日曜に優待券を提示した高校生以下の子供を連れた家族に展覧会観覧料割引を実施
- ・上映会において原則平日19時からの夜間上映を実施
- ・毎月末金曜（プレミアムフライデー）において、展覧会の夜間開館（20時まで）を実施

エ 国立西洋美術館

- ・第二・第四土曜日及び毎週金・土曜日の17時以降における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎月第三土曜、日曜に優待券の提示による所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・地下鉄の対象乗車券提示で割引等を実施するサービス「ちかとく」による所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・「UENO WELCOME PASSPORT—上野地区文化施設共通入場券—」を発行し、各種観覧料の割引と無償化を実施（国立西洋美術館における合計販売部数561冊）。
- ・上記のほか、企画展（「国立西洋美術館開館60周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代」、 「国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展」、 「日本・オーストリア友好150周年記念 ハプスブルク展 600年にわたる帝国コレクションの歴史」）において、各種観覧料の割引を実施
- ・ゴールデンウィーク中の金曜・土曜・日曜・祝日、6月14日から9月26日までの金曜・土曜及び毎月末金曜（プレミアムフライデー）は夜間開館時間を21時まで延長
- ・以下のとおり臨時開館を実施
 - ゴールデンウィーク（4月29日）
 - お盆期間（8月13日）
 - 会期末の会場内の混雑緩和（9月17日）

オ 国立国際美術館

- ・所蔵作品展及び自主企画展における夜間開館時の観覧料割引を実施
- ・原則毎月第一土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・「関西文化の日」（11月16～17日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・大阪観光局が発行する「大阪周遊パス」による所蔵作品展の観覧料無料化及び企画展観覧料割引を実施
- ・京都国立博物館、奈良国立博物館及び国立民族学博物館の友の会等と相互割引を実施
- ・近隣の大阪市立東洋陶磁美術館及び大阪大学適塾記念センターと連携し、相互割引を実施
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会、大阪市高速電気軌道株式会社、大阪大学カード、OSAKA メセナカード、京阪カード、阪急阪神カード及びみずほプレミアムクラブの情報誌・ホームページに展覧会情報等を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・近隣ホテルとの連携を強化し、ホテル利用者に入場割引券を配布し、展覧会広報を行うとともに観覧料割引を実施。また、提携ホテルでの展覧会の半券持参等による特典を提供
- ・上記割引のほか、企画展「日本・オーストリア外交樹立 150 周年記念 ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」において、各種観覧料割引を実施
- ・7月5日から9月28日まで、金曜・土曜の夜間開館を21時まで延長
- ・ゴールデンウィーク中の4月30日に臨時開館を実施

カ 国立新美術館

- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・共催展において、高校生無料観覧日を設定（「トルコ文化年 2019 トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」4月27日～29日 計3日間、「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」8月10日～12日 計3日間、「カルティエ、時の結晶」11月2日～4日 計3日間、「日本・ハンガリー外交関係開設 150 周年記念 ブダペスト国立西洋美術館 & ハンガリー・ナショナル・ギャラリー所蔵 ブダペストヨーロッパとハンガリーの美術 400 年」令和2年1月11日～13日 計3日間）
- ・共催展において、政府による美術品補償制度の還元策として、高校生の無料観覧を実施（日本・オーストリア外交樹立 150 周年記念 ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」6月12日～24日 計12日間）
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引を実施（特に自主企画展において、65歳以上の割引料金として大学生団体料金を適用し、高齢者の観覧料を低廉化）
- ・隣接する政策研究大学院大学との連携を深めるため、自主企画展において同大学の学生の観覧料の無料化若しくは学生証の提示による観覧料の弾力化を実施
- ・上記割引のほか、企画展において、各種観覧料割引を実施
- ・以下のとおり臨時開館及び開館時間延長を実施
 - ―会場内の混雑緩和を図るため、4月30日に臨時開館を実施
 - ―会場内の混雑緩和を図るため、開館時間を20時まで延長
4月28日、4月29日、4月30日、5月1日、2日、5日（企画展「トルコ文化年 2019 トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」、「日本・オーストリア外交樹立 150 周年記念 ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」）
 - ―「六本木アートナイト 2019」（5月25日～5月26日）の開催に伴い、開館時間を22時まで延長（5月25日、「日本・オーストリア外交樹立 150 周年記念 ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」）

③ キャンパスメンバーズ制度の実施

国立美術館全体の事業として実施している、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、令和元年度は10校の新規加盟と1校の退会があり、前年度比9校の増加となった。

また、学生に対する広報を強化するため、外部媒体（マイナビ「学生の窓口」）を活用し、イラストレーターのチャキ氏による連載「都内ヒマつぶし図鑑」の番外編としてキャンパスメンバーズの記事をインターネット上に掲載した。また、2月から3月の春休み期間に合わせ、SNS上で前述の記事へ誘導する告知を行うなどの取り組みを実施した。

④ ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、企業との連携等により各館所蔵作品の図版等を活用したオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなどの広報宣伝を行った。レストランについては、企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。令和元年度の各館の特徴的な取組は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

- ・ミュージアムショップにおいて、「MOMAT サマーフェス」の期間中にヤードセールを実施し、展覧会図録のバックナンバーを廉価で提供したところ、一日あたり100冊以上売上げるなど、来館者から好評を博した。また、「美術館の春まつり」にあわせ、花を主題とした作品をモチーフに新商品を開発したほか、エントランスホールに特設ショップを出店し、美術館イベントの盛り上げに寄与した。
- ・レストランにおいて、「ラー・エ・ミクニ」プロデュースのキッチン・カーを前庭に配置し、「美術館の春まつり」の期間中は、特製お花見弁当や軽食、ワイン・ビールなどの各種ドリンクを提供し、前庭に桜を眺めながら休憩ができる床几台を設置した。「MOMAT サマーフェス」の期間中は、金曜・土曜の夜もオープンし、各種ドリンクや軽食の提供に加え、夜はビアバーとしても来館者に楽しんでもらえるようにした。また、「MOMAT サマーフェス」終了後も、金曜・土曜・日曜（金曜・土曜は夜間開館時間も対応）はキッチン・カーを前庭に配置し、手軽なメニューを来館者に提供した。

(工芸館)

- ・ミュージアムショップにおいて、企画展「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクションメトロポリタン美術館所蔵」にあわせ、竹工芸商品を販売し、本館の常設ショップでも同商品を取り扱うことで、本館工芸館相互の送客につなげた。また、所蔵作品展では展覧会のイメージや内容に応じて、所蔵作家が監修したプロダクト製品を販売し、とくに「パッション20」展においては、出品作品と関連を持たせる等の工夫を行った。

イ 京都国立近代美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、「川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎展」にあわせ、京都国立近代美術館所蔵作品のオリジナルグッズとして絵はがき、一筆箋、クリアファイル、マスキングテープ、マルチクロス、トートバッグなどを開発し、所蔵作品の知名度を高めた。また、企画展において、それぞれの内容に合わせ関連書籍及びグッズのコーナーを設け、来館者の知的関心に応えた。
- ・レストランにおいて、周辺地域のライトアップイベントへの協力や吊り苔玉の制作のワークショップを実施したほか、観光客のニーズに応えるため抹茶体験を実施し、花見シーズンと秋の行楽シーズンには、和菓子と緑茶セットも販売し、好評を博した。

ウ 国立西洋美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、所蔵作品をあしらったグッズ（おりがみ、ハンカチ、ドアサインプレート、トートバッグ）を開発・販売した。また、開館60周年を記念し、(株)海洋堂が造形企画制作を担当したロダン《考える人》のフィギュアを販売したほか、小企画展「内

藤コレクション展「ゴシック写本の小宇宙——文字に棲まう絵、言葉を超えてゆく絵」にちなみ、内藤コレクションの彩色写本リーフをモチーフとした新商品を開発・販売した。

エ 国立国際美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、企画展「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」に合わせ、関連グッズ及び関連書籍の特設コーナーを設置し、来館者のニーズや知的関心に応えた。

オ 国立新美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、アーティストによるワークショップを実施したほか、美術館の宣伝のため表参道に期間限定店舗を出店した。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1) 作品の収集

館名		購入点数	購入金額（円）	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託品数
東京国立近代美術館	本館	48	664,551,649	80	13,471	204
	工芸館	19	139,253,200	20	3,946	90
京都国立近代美術館		59	511,096,600	64	12,746	951
国立西洋美術館		27	1,113,997,092	7	6,214	249
国立国際美術館		10	578,440,550	19	7,994	112
計		163	3,007,339,091	190	44,371	1,606

館名		令和元度の収集方針
東京国立近代美術館	本館	<ul style="list-style-type: none"> ・1970年代以降の日本と海外の作品の収集 ・日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集 ・1900－1940年代の日本画作品の収集
	工芸館	<ul style="list-style-type: none"> ・日本工芸の近代化を示す作品の補充 ・戦後から現代にいたる伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集 ・近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集
京都国立近代美術館		<ul style="list-style-type: none"> ・美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作の積極的収集、優れた写真作品の収集、前衛的傾向を示す海外の美術作品の収集 ・京都を中心とする関西ないし西日本の地域性に立脚した所蔵作品の充実
国立西洋美術館		<ul style="list-style-type: none"> ・15～20世紀ヨーロッパ絵画等の収集 ・ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心としたヨーロッパ版画のコレクションの充実 ・国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集
国立国際美術館		<ul style="list-style-type: none"> ・1945年以降の日本の現代美術作品の系統的収集の継続 ・国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集の継続

特記事項

ア 東京国立近代美術館

(本館)

〈購入〉

鏑木清方《築地明石町》（1927年）、《新富町》（1930年）、《浜町河岸》（1930年）を購入した。帝国美術院賞を受賞した清方の代表作であり、40年以上にわたり行方がわからなかったが、多年にわたる調査と交渉により、収蔵が実現した。この収蔵の成果を広く国民に公開するため企画展「鏑木清方 幻の《築地明石町》特別公開」を開催し、57,684人の来場者を迎えた。また、1960年代からグラフィック・デザイナーとして活躍する横尾忠則の《宮崎の夜一眠れない家》を購入した。横尾忠則は、現代を代表する画家の一人として、国内外で高い評価を得ているが、東京国立近代美術館では初期の版画作品しか収蔵できていなかった。本作の購入によりコレクションの欠落を補い、より多面的に作家の活動を紹介することができるようになった。

〈寄贈〉

鏑木清方《鶴八》（制作年不詳）及び《註文帖画譜》（1935年）を受贈した。鏑木清方と文学作品との関係を示す作例であり、既に所蔵する清方の主要作品と比較展示が可能となっ

た。東京国立近代美術館が、鏑木清方の代表作である《築地明石町》（1927年）を購入し、広く公開したことで、個人の所蔵家からの寄贈の申し出を受けることができた。収集活動の積み重ねを、次の収集につなげた好事例といえる。また、日本における抽象絵画のパイオニアである恩地孝四郎の《リック No.12 たよりない希望》（1952年）を受贈した。所蔵作品のなかで手薄であった恩地孝四郎の戦後期の作例であり、すでに収蔵する戦前の作品と併せて展示をすることで、作家の創作活動を展観することが可能となった。

（工芸館）

〈購入〉

日本と米国で活躍する陶芸家である金子潤の《Untitled (13-09-04)》（2013年）を購入した。高さ約3メートルの大型作品であり、石川県金沢市に令和2年4月に竣工した東京国立近代美術館工芸館（通称：国立工芸館）のシンボルとして中庭に設置された。また、明治期を代表する彫金師二代横山彌左衛門（孝純）の《菊花文飾壺》（1886-89年）を購入した。1889年のパリ万国博覧会の出品作品であり、資料としての価値も高く、この収蔵によって工芸館の明治工芸のコレクションとともに、同時期の日本の工芸の研究に活用することができる。明治期の金工作品は、海外からの注目度も高く、散逸・海外流出を防いだ点で国立の美術館としての役割を果たせたことも成果といえる。

〈寄贈〉

戦後の沖縄工芸を代表する金城次郎の《線彫魚文抱瓶》（1970年代以降）を含む陶芸作品12点を一括で受贈した。昭和60年に沖縄で初めてとなる重要無形文化財保持者「琉球陶器」に認定されるなど戦後の沖縄工芸の発展に寄与した作家であり、国立美術館として初めて作品を収蔵することができた。また、重要無形文化財「蒔絵」保持者松田権六の《金胎蒔絵花瓶》（1970年）を受贈した。工芸館では松田の作品収集を継続的に行い、30点以上の作品を収蔵しているが、類例の少ない本作によって更にコレクション充実させることができた。

イ 京都国立近代美術館

〈購入〉

ピピロッティ・リスト《永遠は終わった、永遠はあらゆる場所に》（1997年）を購入した。世界で活躍する女性アーティストの代表作であり、この収蔵によって国立美術館の国際的な発信力を高めるとともに、京都国立近代美術館の現代美術や女性作家の所蔵作品と組み合わせることで、より厚みを持った展示が可能となった。本作家の国際的な評価の高さに比して国内で作品の収蔵実績は少なく、重要な作家の国内での鑑賞機会を確保したことも成果といえる。また、5名の帝室技芸員（柴田是真、加納夏雄、石川光明、高村光雲、香川勝廣）と工芸・彫刻家の3名（旭玉山、加納鐵哉、大谷光利）による合作の飾り棚《福祿封侯図飾棚》（1883年）を購入した。明治工芸を代表する作家たちの技術を結集した優品であり、京都国立近代美術館が体系的に収集している明治の工芸作品と比較することで、より多面的な展示が可能となった。明治の工芸作品は国内外で評価が高まっており、散逸・海外流出を防いだことはもとより、国内外への貸出を通じて国立美術館の発信力を高める成果が見込まれる。

〈寄贈〉

優れた染織作品の寄贈を数多く受けることができた。企画展「京都の染織」の開催を機に、出品作家より中井貞次《藍の空間》（1969年）ほか21点を受贈したことや、ローザンヌ国際タペストリー・ビエンナーレ出品作である吉村正太郎《フレームクロス A. B. C.》（1985年）の受贈などが特筆される。また、現代京都画壇を代表する日本画家であり2018年に逝去した岩倉寿の《芭蕉》（1958年）をはじめとする初期から晩年までの作品17点を受贈した。この受贈により、すでに所蔵する作品とあわせて、作家の画業を回顧することが可能となった。

ウ 国立西洋美術館

〈購入〉

松方幸次郎旧蔵作品であり、絵画史のうえでも重要な、エドゥアール・マネ《嵐の海》(1873年)を購入した。長らく行方不明となっていたが、平成26年にナチスの略奪品売買に関与した画商グルリットの遺産の中から発見され、グルリット・コレクションを管理するベルン美術館との協議により購入が実現した。開館60周年という記念の年に本作を収蔵したことは国内外で話題となり、国立西洋美術館の注目度を高める成果を上げた。また、フランシスコ・デ・スルバランの初期の重要作品である《聖ドミニクス》(1626-27年)を購入した。17世紀スペイン絵画を代表する本作家の作品を、国内の国公立美術館の中で最初に収蔵することができたのは、大きな成果である。

〈寄贈〉

イタリア初期バロックの画家ルドヴィーコ・カラッチ《ダリウスの家族》(1591-92年頃)をはじめ、国内に残されていた旧松方コレクションの重要な絵画3点の寄贈を受けた。長らく個人所蔵家の手元にあったが、今回の受贈により所蔵作品展等で紹介することが可能となった。また、《ポワティエのペトルス著『キリスト系図史要覧』断片》(1270-80年頃)はじめ写本リーフ4点の寄贈を受けた。平成27年度に内藤裕史氏から一括寄贈を受けた中世彩飾写本コレクションを補完する作品であり、国立西洋美術館の写本コレクションをより充実させることができた。

エ 国立国際美術館

〈購入〉

20世紀の造形芸術に重要な役割を果たしたエルズワース・ケリーの晩年の代表作である《斜めの黒いレリーフ》(2010年)を購入した。本作品は抽象芸術と20世紀後半以降のインスタレーション様式とを結びつける作品であり、収蔵により20世紀美術を新たな視点から紹介することが可能となった。また企画展「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」の開催を機に、作家の代表作である《モニュメント》(1986年)を購入した。国立国際美術館が所蔵する作家の初期作品と併せることにより、作家の表現をより深く示す展示が可能となった。現代美術の典型的な方法論を提示することができるという点においても意義深い収蔵ということができる。

〈寄贈〉

カリン・ザンダーによる作品《見せる：国立国際美術館のコレクションを巡るオーディオ・ツアー》(2018年)を受贈した。現存する国立国際美術館の所蔵作家から集めた作品や制作過程についての音や音声を、音声ガイドのヘッドフォンを使って聞くことができるようにした作品であり、平成29年度から平成30年度にかけて開催した「開館40周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」展において、作家によって制作された。鑑賞者がそれぞれ音から得たイメージの集合体によって、国立国際美術館のコレクションを認識することができるユニークな作品であり、開館40周年を記念する貴重な作品を収蔵することができた。

(2) 所蔵作品の保管・管理

① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア 法人全体

収蔵庫等保管施設の狭隘・老朽化の抜本的な改善を図るため、各館で横断的に活用が可能な形態や方法について、既存の施設との連携を図りながら検討を進め、法人及び各館ごとの対応方針を策定した。

イ 東京国立近代美術館

(本館)

収納率：約160%

従来どおり、館外の倉庫2か所に作品の一部を預け、年間約200点の作品貸与と年間約800点の所蔵作品展示により作品を収蔵庫外に出すことで収蔵スペースを確保している。

(工芸館)

収納率：約 190%

データベースを活用し、外部倉庫を含めた収蔵庫内の管理作業を円滑化させ、保存環境改善に努めた。

ウ 京都国立近代美術館

収納率：約 185%

民間倉庫を引き続き利用するほか、収蔵作品保存環境等整備事業により十分な収蔵スペースの確保に努めている。大型作品については引き続き民間倉庫で一時保管しているが今後、中型作品も民間倉庫へ移行していく予定である。

エ 国立西洋美術館

収納率：約 90%

収蔵庫内の状況の確認・記録を行い、別々に保管されている作品と額を一緒にする等の処置を行い、スペースを確保した。

オ 国立国際美術館

収納率：約 120%

収納棚の棚板を増設して収納スペースの拡充に努めた。絵画ラックについては、隙間を有効活用するため、作品の安全を考慮しながら配置換えを行い、可能な限り多くの作品を収納するよう努めた。また、過密な収納状態による作品への負担を軽減するため、劣化を抑制する梱包材を活用して適切な保管環境を保っている。

② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

東京国立近代美術館本館では、令和2年3月23日に消防訓練を実施した。工芸館では、令和元年10月24日に火災発生を想定した避難訓練を実施した。

京都国立近代美術館では、令和元年11月18日に火災発生を想定した消防避難訓練を実施した。

国立映画アーカイブでは、令和元年7月23日に京橋本館の地下3階収蔵庫に設置されている二酸化炭素消火設備の操作方法について訓練をおこなった。相模原分館においては、令和元年5月28日(火)に火災発生を想定した避難訓練及び水消火器による消火訓練、11月19日(火)に火災発生を想定した避難訓練及び消火栓による放水訓練を実施した。

国立西洋美術館では、令和元年12月16日に火災発生を想定した避難訓練を実施した。

国立国際美術館では、令和元年9月24日～25日、令和2年3月9日～10日に収蔵庫の消火設備の点検を行った。また、令和元年6月4日に隣接する大阪市立科学館と合同で津波発生を想定した避難訓練を実施した。そのほか令和元年6月17日に水害発生を想定した防潮扉開閉訓練を実施し、令和元年11月18日に火災発生を想定した避難訓練を実施した。

国立新美術館では、令和元年9月24日に不特定者による館内放火火災発生を想定した消火活動と避難誘導訓練を実施した。また、令和2年2月25日に自衛消防訓練を実施した。

(3) 所蔵作品の修理・修復

館名		修理・修復点数
東京国立近代美術館	本館	31点(絵画20点, 水彩1点, 彫刻5点, 写真5点)
	工芸館	5点(工芸1点, デザイン4点)

京都国立近代美術館	19点（絵画16点，工芸3点）
国立西洋美術館	166点（絵画16点，版画90点，彫刻2点，工芸3点，書籍55点）
国立国際美術館	17点（絵画4点，水彩2点，素描9点，版画1点，彫刻1点，）

特記事項

ア 東京国立近代美術館

（本館）

貸出依頼が多い山下菊二《あけぼの村物語》（1953年）は、キャンバスの補強、絵具の剥落止めなどの処置により、貸出対応が可能な状態とした。平櫛田中《永寿清頌》（1944年）は木彫の彩色部分に古い時期の汚れやカビ跡が残り、鑑賞するうえで支障があったが、これを除去し国立美術館巡回展で公開した。

（工芸館）

戦後日本のグラフィックデザイン史における貴重なポスター作品20点について、2ヶ年計画の修復を開始した。裏打ちの変形修正を施すとともに、裏打ちを除去し、亀裂箇所を接着、補彩をし、今後の展示等に活用できる状態とする。

イ 京都国立近代美術館

久保田米僊《水中落花蝶図》を修復し、第5回所蔵作品展で公開した。受贈時に傷んだ状態であった田中竜児《無題》及び受贈時に額装されていなかった下村良之介《くるみ》を修復・新規額装し、令和2年度所蔵作品展での展示を予定している。

また、画面や額装に問題がありながら修復の機会がなかった小林柯白《新緑》《湖畔初夏》、真道黎明《宇宙のロマン》及び大野俣嵩《雑草》を修復した。《宇宙のロマン》について、これまで星だと思っていた箇所の多くがカビであったことが判明し、作品の修復が作品研究につながった。

ウ 国立西洋美術館

松方コレクションの保存修復作業を行い、企画展「国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展」に出品した。「松方コレクション展」に関連する保存修復作業については、「松方コレクション展と作品修復」と題した一般向けの講演会を行い、保存修復の役割や重要性を広く発信した。

また、ヘルマン・ファン・スワーネフェルト《ヴィーナスとローマの神殿及びコンスタンティヌス凱旋門の見えるローマの景観》（1634年）など、劣化のため展示や貸出の機会がなかった作品の額縁について、構造改修や保存修復を行い、展示公開が可能な状態とした。

さらに、屋外彫刻オーギュスト・ロダン《考える人（拡大作）》（1881-82年（原型），1902-03年（拡大），1926年（铸造））とエミール＝アントワーヌ・ブールデル《弓をひくヘラクレス》（1909年（原型））の保存修復作業を行い、来館者が鑑賞をしやすい状態を保った。

そのほか、平成28年度に寄贈された彩飾写本の保存修復については、3期に分けて行う保存修復作業が全て完了し、寄贈された彩飾写本全ての安全な展示と閲覧が可能になった。

エ 国立国際美術館

森千裕《冷たい頭》（2003年）など近年の購入作品や、今村源／松井智恵《「近作展8」のためのドローイング（8月18日）》（1989年）など、これまで展示する機会に恵まれなかった素描の額などを新たに用意し、所蔵作品展に出品した。また、白髪一雄《地捷星 花項虎》（1961年）、《地稽星 操刀鬼》（1962年）について、絵具層に多数の大きな亀裂が生じており、展示が困難だったが、修復により大館當代美術館（中国、香港）で開催する展覧会『言葉が通じない』（They do not understand Each Other）へ出品が可能となった。

(4) 所蔵作品の貸与

館名		貸出		特別観覧	
		件数	点数	件数	点数
東京国立近代美術館	本館	56	239	205	475
	工芸館	10	48	30	134
京都国立近代美術館		57	549	85	251
国立西洋美術館		16	61	111	239
国立国際美術館		12	63	20	51
計		151	960	451	1,150

特記事項

ア 東京国立近代美術館

(本館)

台北市立美術館（台湾，台北）で開催された「東アジアにおける女性画家の抽象展」に、草間彌生、田中敦子、辰野登恵子らの作品 8 点を貸与し、各作品の国際的な認知度を高めることができた。また国立台湾美術館（台湾，台中）で開催された、戦前の日本に留学していた台湾の前衛詩人たちの活動を跡付ける展覧会「共時的星叢」に、当時の日本の前衛美術の代表作として、村山知義《コンストルクチオン》（1925 年）と古賀春江《海》（1929 年）を貸し出した。国内では「東山魁夷展」（市川市東山魁夷記念館）に 34 点、「平福百穂展」（宮城県美術館）に 4 点、「岡本太郎美術館開館 20 周年展」（川崎市岡本太郎美術館）に 4 点など、各作家を回顧する際に欠かせない作品を貸与し、開催に協力するとともに地方での鑑賞機会の提供に努めた。

(工芸館)

バウハウス設立 100 周年を記念し開催された展覧会「開校 100 年 きたれ、バウハウス—造形教育の基礎—」（新潟市美術館ほか日本国内全 5 会場）にデザイン・工芸作品 9 点を貸与した。国内の収蔵例が少ないバウハウスの関連作品を貸与したことで、学術的意義の高い展覧会の開催に寄与し、国立美術館としての役割を果たしたといえる。

イ 京都国立近代美術館

国内では、「おかえり 美しき明治」展（府中市美術館）に京都国立近代美術館が所蔵する充実した明治期の水彩画から、梅原龍三郎《三十三間堂》（1906 年）ほか 37 点を貸与したほか、「ミュシャと日本、日本とオルリク」展（千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館）に京都国立近代美術館のウィーン分離派をはじめとする 19 世紀末の充実したコレクションから、コロマン・モーザー《月次絵》（1899 年頃）ほか版画・資料 25 点を貸与し、展覧会の開催に寄与した。また、京都国立近代美術館所蔵作品を中心とした展覧会「京都の工芸 近代から現代まで～京都国立近代美術館所蔵作品を中心に」（金沢市立中村記念美術館）に二代木村表斎《鶯宿梅蒔絵吸物椀》（明治中期）ほか工芸品 26 点を貸与し、地方における国立美術館の知名度の向上に寄与した。

また、海外に対しては、台北市立美術館（台湾，台北）で開催された「東アジアにおける女性画家の抽象展」に、田中敦子作品《作品 ‘63’》（1963 年）ほか 3 点を貸与し、作品の国際的な認知度を高めることができた。

ウ 国立西洋美術館

オルセー美術館（フランス・パリ）とナショナル・ギャラリー（アメリカ・ワシントン D.C）を巡回した展覧会「Degas at the Opera」にエドガー・ドガ《舞台袖の 3 人の踊り子》（1880-85 年頃）を貸与した。世界的に有名なふたつの美術館の展覧会に作品を貸与したことで、国立美術館の国際的な影響力の拡大に寄与したといえる。また国内では、「古代への情熱-18 世紀ローマ・南イタリアにおける考古学と芸術の出会い」（静岡県立美術館）にフランチェスコ・ピラネ

ージ、ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ《パエストゥムの古代遺跡の景観》（1778年）を中心とする20点の作品を貸与し、展覧会の内容をより充実させることに寄与した。

エ 国立国際美術館

「岡崎乾二郎 視覚のカイソウ」（豊田市美術館）に、岡崎乾二郎《あかさかみつけ》（1987-89年）等、海外、彫刻合わせて9点を貸与した。多彩なジャンルで活躍する国内作家の回顧展に、代表作を出品して寄与した。また、「ニューヨーク・アートシーン」（鳥取県立博物館、和歌山県立近代美術館、徳島県立近代美術館、埼玉県立美術館）に、バーネット・ニューマン《夜の女王 I》（1951年）等計9点を貸与し、海外作家の作品を中心として構成された大規模な国内巡回展に寄与した。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 国内外の美術館等との連携・協力等

① 国内外の美術館関係者との研究会の開催や研究者との交流等

- シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

館名		国内外の研究者の招へい等に基づく セミナー・シンポジウムの開催回数
東京国立近代美術館	本館	7
	工芸館	3
京都国立近代美術館		12
国立映画アーカイブ		1
国立西洋美術館		5
国立国際美術館		5
国立新美術館		13
計		46

※詳細については別表 12 を参照。所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催については 20 ページ及び別表 11 を参照。

特記事項

- ・ ICOM 京都大会 2019 に柳原正樹（理事長）をはじめとする役職員が出席したほか、ブースを出展し、各国の博物館・美術館関係者に国立美術館の活動を発信した。

② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア 東京国立近代美術館

(本館)

前年度に開催した「アジアにめざめたら：アートがかわる，世界がかわる1960－1990年代」を韓国国立現代美術館（韓国・ソウル）及びナショナル・ギャラリー・オブ・シンガポール（シンガポール）へ巡回し，2019年11月の上海アートウィークにおいて，アジア・アート・パイオニア（Asia Art Pioneer）賞のその年一年の最も優れた展覧会に贈られる「Exhibition of the year」を受賞した。

イ 国立西洋美術館

東京国立近代美術館及び京都国立近代美術館等の出品協力のもと，日本ギリシャ外交関係樹立 120 周年を記念し，ギリシャ近代文化博物館（ギリシャ・アテネ）において「明治の工芸／平成の工芸—150 年の時代を超えた日本のわざと装飾の美—」を開催した。

ウ 国立新美術館

バーゼル美術館（スイス・バーゼル）と共同開催した企画展「イケムラレイコ 土と星 Our Planet」を再構成し，巡回展「イケムラレイコ 新しい海へ」として，バーゼル美術館において開催した。また，2015 年度に開催した「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」以来，継続して開催しているマンガやアニメの展覧会の企画・運営のノウハウを生かして，大英博物館（イギリス・ロンドン）において，展覧会「The Citi exhibition Manga」を共同開催した。

③ 全国の美術館等との人的ネットワークの形成等

ア 地方巡回展の開催（再掲）

地方巡回展及び巡回上映等は，別表 5 のとおり実施した。

イ 企画展・上映会等の共同主催・共同研究

館名		共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館	本館	5	5
	工芸館	4	2
京都国立近代美術館		4	10
国立映画アーカイブ		11	11
国立西洋美術館		4	4
国立国際美術館		2	3
国立新美術館		3	6
計		33	41

ウ 国内外の美術館等との保存・修復に関する連携・協力等

東京国立近代美術館本館において、東京文化財研究所とともに、酵素を用いた日本画作品の新しい修復方法について共同研究を行った。

東京国立近代美術館工芸館において、文化庁、東京文化財研究所、東京国立博物館及び東京藝術大学の保存・調査分析担当者を交えて、明治の金属工芸の成分調査について意見交換会を行った。

国立国際美術館において、以下の取組を実施した。

- ・東京都現代美術館で開催された全国美術館会議 保存研究部会第53回会合において、収蔵・展示施設の改修について情報交換を行った。
- ・東京藝術大学が主催する韓国国立現代美術館清州館視察会において、新設された修復センター及び公開収蔵庫について情報交換を行った。

国立西洋美術館において、以下の取組を実施した。

- ・半年間にわたり、大英博物館及び英国内他美術館・博物館において、保存修復マネジメントに関する調査研究を行った。運営管理者や現場スタッフと意見交換を重ね、大英博物館コレクション・ケア部門のメンバーに対して本研究のまとめのプレゼンテーションを行うとともに、情報共有を行った。
- ・東京文化財研究所が主催する「文化財修復処置に関するワークショップーゲルを使用した修復処置ー」において、参加者らと情報交換を行った。
- ・国立文化財機構文化財活用センターが主催する「保存環境調査・管理に関する講習会ー資料保存用資材としての中性紙ー」において、参加者と意見交換を行った。
- ・東北大学学術資源研究公開センター植物園、東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻、絵画保存修復家及び国立西洋美術館の共同研究「ルカス・クラナハ（父）の板絵作品の樹種特定及び年輪年代学調査、またそれらに立脚した美術史的調査」を行った。
- ・文化財保存活用センターが主催する講習会「北川式検知管による空気環境調査と評価」及び「保存環境調査・管理に関する講習会ー資料保存用資材としての中性紙ー」において、参加者と意見交換を行った。
- ・NPO法人太陽の船復元研究所/東日本国材大学からの依頼による、エジプト・クフ王第二の船プロジェクト出土試料中に残存している可能性のあるタンパク質、植物ガム、油脂、樹脂、ロウの同定について、ゲッティ研究所（アメリカ・ロサンゼルス）、筑波大学、奈良女子大学及び国立西洋美術館で意見交換を行った。

(2) ナショナルセンターとしての人材育成

① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

ア 教育普及活動の充実に資する教材やプログラムの開発

鑑賞教材「国立美術館アートカード」について、各館から学校へ貸し出しを行うほか、教員の研修などの機会をとらえて紹介するなど、国立美術館全体として取り組んだ。

イ 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施等

14年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、令和元年度、国立国際美術館、大阪大学中之島センターで実施し、78名が研修を修了した。また、本研修の記録はウェブサイトで公開しており、研修についてより多くの情報を伝えるとともに、視認性の向上に努めた。なお、本研修は令和元年度「教員免許状更新講習」としても実施した。

- ・修了者数：78名（小学校教諭名17名，中学校教諭27名，高等学校教諭8名，中高一貫校1名，指導主事7名，学芸員16名，その他2名）
- ・会期：令和元年7月29日，7月30日（2日間）
- ・会場：国立国際美術館（7月29日），大阪大学中之島センター（7月30日）
- ・教員免許状更新講習：受講者13名（全員に履修証明書を交付）
- ・参加者の満足度：100%（目標：96.6%）

東京国立近代美術館工芸館では、工芸館における鑑賞活動を児童生徒の工芸文化への関心及び創造力の育成につなげることをねらいとして、「工芸作品鑑賞研究会」を実施し、28名が参加した。

京都国立近代美術館では、京都市図画工作教育研究会、京都市立中学校教育研究会美術部会と連携して、美術館を活用した鑑賞授業の実践力向上に向けた教員対象の講座を実施し、46名が参加した。

国立西洋美術館では、学校における美術館利用、連携を推進することを目的として小学校及び中学校の教員を対象とした研修会を2回実施し、計32名が参加した。

国立国際美術館では、大阪府教育センターと連携して、美術館における鑑賞活動を児童生徒の学びにつなげることをねらいとして、研修会を2回実施し、計39名が参加した。また、通年で小中高特別支援学校教員とともにコレクション作品の鑑賞プログラムを開発する「学校と美術館がつながる学習プログラム開発研究会 ―国立国際美術館コレクションの活用1 アルベルト・ジャコメッティ《ヤナイハラ I と》」を実施し、計199名が参加した。

国立新美術館では、板橋区小学校図工研究部会の研修会と連携して、鑑賞ガイダンスを実施し22名が参加した。

② 今後の美術館活動を担う中核的人材の育成

館名		キュレーター研修 受入人数	インターンシップ 受入人数	博物館実習 受入人数
東京国立近代美術館	本館	2	4	—
	工芸館	0	2	0
京都国立近代美術館		0	4	—
国立映画アーカイブ		—	1	12
国立西洋美術館		2	5	—
国立国際美術館		2	7	—
国立新美術館		1	9	—
計		7	32	12

(3) 国内外の映画関係団体等との連携等

① 映画フィルムの収集については、国立映画アーカイブにおいて以下のとおり実施した。

館名	購入本数	購入金額（円）	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託本数
国立映画アーカイブ	154	138,959,578	2,120	83,109	19,322

館名	令和元年度の収集方針
国立映画アーカイブ	<p>映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお、収集にあたっては、自主製作映画等企業の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし、受贈については、デジタル素材の受入れも視野に入れながら、映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているプリントやフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、作品レベルでの網羅性を向上させるとともに、映画史の調査研究に資する幅広い種類の資料の収集を行う。加えて、本年度は特に次の点について留意する。</p> <p>ア 歴史的に重要な映画作品のデジタル復元を実施する。</p> <p>イ フィルム、デジタルともにオリジナルフォーマットを優先した収集を行う。</p>

特記事項

〈購入〉

企画上映に伴う映画フィルム等の購入では、平成 29 年 1 月 1 日から平成 30 年 12 月 31 日の間に逝去された映画人の代表的作品を取り上げて追悼する上映企画「逝ける映画人を偲んで 2017-2018」に関連して、『どろ犬』（1964 年）等 20 作品、20 本のフィルムと、『私は猫ストーリーカー』（2009 年）等 4 作品のデジタル上映用及び保存用素材を購入した。また、大規模な上映企画を開催した河瀬直美監督作品については、『殞の森』（2007 年）等 9 作品、14 本のフィルム（5 本は英語字幕付）と、8mm フィルム原版から作成した『かたつもり』（1994 年）等 7 作品及びデジタル原版から作成した『きゃからばあ』等 21 作品の計 28 作品（10 作品は英語字幕付）のデジタル上映用及び保存用素材を購入した。また戦後ドキュメンタリー作品として、『小内内ダム』（1958 年）等 13 作品、16 本のフィルムと、1 作品のデジタル上映用及び保存用素材を購入した。

〈受贈〉

映画フィルムは平成 30 年度から大幅に増加し 40 件、2,120 本を受贈した。『生木が立枯れていくごたる あぶら症』（岡田道仁監督、1976 年）や『くずれる沼 あるいは 画家・山下菊二』（野田眞吉監督、1977 年）等、戦後のドキュメンタリー映画を代表する作品の寄贈を受けたことが大きな特徴である。原版類の寄贈を受けた『草とり草紙』（福田克彦監督、1985 年）については、上映・保存用のプリントを作成したのちに、『生木が立枯れていくごたる あぶら症』や『くずれる沼』等とともに、上映企画「戦後日本ドキュメンタリー映画再考」で披露された。また、1936 年に製作された『舗道の囁き』（鈴木傳明監督）の戦後改題版である『思ひ出の東京』の可燃性オリジナルネガや、大阪で帝国キネマ演芸株式会社（略称帝キネ、1931 年に新興キネマに改組）を設立した山川吉太郎の葬儀フィルム『山川家葬儀実況 昭和九年四月廿四日』（1934 年）等、希少価値の高い戦前の映画に関してコレクションの欠落を補うことができた。

- ② 映画フィルムの保管・修復・復元については、国立映画アーカイブにおいて以下のとおり実施した。

館名	修理・修復本数
国立映画アーカイブ	49 本（映画フィルムデジタル復元 2 本、ノイズリダクション等 16 本、不燃化作業 18 本、映画フィルム洗浄 13 本）

特記事項

映画フィルムのデジタル復元については、現存する最古の長篇記録映画『日本南極探検』（1910 - 1912 年）の二度目のデジタル復元を行った。平成 27 年度に実施した前回の復元では、南極探検隊後援会の常任幹事であった村上俊蔵氏の遺族宅に残存していた 35mm の可燃性染調

色フィルムを復元素材としたが、今回は国立映画アーカイブ旧蔵の短縮版にしか含まれていなかった複数のフッターを新たに挿入するとともに、映画完成当時の字幕台本を参照して、本作品に欠落していた字幕をデジタル・データ上で再現・挿入する等、映画完成時の形を可能な限り甦えらせることができた。この復元の成果はイタリアの第38回ポルデノーネ無声映画祭で公開された。

また、戦前の1935年に日本を訪問したA1 Film Companyのニープ監督が、P.C.L.の協力を得て完成させた日本とビルマ（現ミャンマー）初の合作映画『日本の娘』（1935年、ニープ監督）のデジタル復元を行った。フィルムが失われ長く幻の映画となっていたが、1992年に当館が所蔵するアメリカからの返還映画から発見された。ミャンマー本国へはこの当てもビデオテープを贈呈しテレビ放映が実現したが、今回はあらためて当館所蔵の35mインターネガをもとにデジタル復元を行い劇場用のDCPを作成した。新たなデジタル復元版は「日メコン交流年2019」と2020年の「ミャンマー映画生誕100年」を記念して当館の特別上映会で公開された。また、文化庁などの主催による国際交流事業への協力を通して、ミャンマーでも上映会が行われるとともに、上映用のDCPと保存用のDSMがミャンマーへ贈呈され、両国の文化交流の発展に寄与した。

映画関連資料については、ポスター、雑誌、写真アルバムなどの専門家による修復に着手するとともに、アーカイブ用の資料保存ケースを購入して保存を図った。また、公開・貸出頻度の高いと思われる日本映画ポスターなどへの和紙を用いた簡易修復、脆弱なシナリオ等冊子に対する中性紙保存ケースの作成、接着したスチル写真の剥離作業やクリーニングなどの措置を講じた。

③ 映画フィルム等の貸与等については、以下のとおり実施した。

● 映画フィルム

館名	貸出		特別映写観覧		複製利用	
	件数	本数	件数	本数	件数	本数
国立映画アーカイブ	85	173	64	294	30	62

● 映画関連資料

館名	貸出		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数
国立映画アーカイブ	6	132	37	469

特記事項

映画フィルムの貸与については、サンフランシスコ無声映画祭、アヌシー国際アニメーション映画祭、ベルギー王立シネマテーク、ドイツ映画博物館、アーセナル（ドイツ）、フィルモテカ・デ・カタルーニャ（スペイン）、アジア・フィルム・アーカイブ（シンガポール）、バービカン・センター（英国）、韓国シネマテーク協会など海外の映画祭やフィルム・アーカイブ、上映施設等を中心に、数多くの日本映画のコレクションを提供した。国内では、東京国際映画祭、京都国際映画祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭等の映画祭、神戸映画資料館、鎌倉市川喜多映画記念館、川崎市市民ミュージアム等の上映施設、新文芸坐、神保町シアター、シネマヴェーラ渋谷、ラピュタ阿佐ヶ谷、シネ・ヌーヴォ等の名画座その他の団体に貸与を通して協力を行った。

映画フィルムの特別映写については、日本映画撮影監督協会等の映画関連団体の他、国立歴史民俗博物館や一般財団法人住総研、東京大学大学院、明治学院大学、早稲田大学、名古屋大学、山形大学等の研究教育機関から申請を受けるとともに、海外からはイェール大学やスミソニアン協会（米国）、帝国戦争博物館（英国）等の幅広い機関からの申請に対応した。

映画フィルムの複製利用については、著作権者等によるデジタル化やテレビ番組のための部分使用に加え、広島市現代美術館「アカルイカテイ」展等、展示施設での上映展示に対する利用許可も目立った。また特筆すべき事例として、NHK 大河ドラマ『いだてん～東京オリンピック噺～』に対しては、『昭和の帝都 昭和五年三月』（1930年）、『朝日は輝く』（1929年）、『學徒出陣』（1943年）等、三作品の部分利用許可を行い、それぞれオープニングタイトル（前半の第1～24回）、第30回「黄金狂時代」、第38回「長いお別れ」で活用され、多くの国民の目に留まることとなった。

映画資料の貸出については、日本でも数少ない常設の映画関連展示施設である鎌倉市川喜多映画記念館への貸出が案件の数として目立っている。令和元年度は、京都国立近代美術館などへのポスターの貸与も特筆される。資料の特別観覧については、出版社・教育機関・テレビ局などの要望に対し、資料画像の提供や研究者による熟覧などの形で所蔵資料へのアクセスに応じている。

「所蔵映画フィルム検索システム」については、令和元年度中に日本劇映画の作品情報 103 件を新たに公開し、公開件数は累計 7,654 件となった。

- ④ 令和元年 10 月 27 日に、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント『日本の娘』〔デジタル復元版〕特別上映会を開催した。
- ⑤ 海外における共催上映については、以下のとおり実施した。
 - ・フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャとの共催により「第 33 回チネマ・リトロバート映画祭」（会期：令和元年 6 月 22 日～6 月 29 日）で上映企画「発掘と復元」（会場：パゾリーニ広場及びマストロヤンニ劇場（イタリア・ボローニャ））を開催し、世界的にも貴重な作品を含む小宮登美次郎コレクションから、『除夜の悲劇』と『サタン』の 2 作品を上映した。上映は、ステファン・ホルンのピアノと、フランク・ボッキアスのドラムによる伴奏付で行われ、満席の盛況となった。
 - ・チネテカ・デル・フリウリとの共催により、第 38 回ポルデノーネ無声映画祭（会期：令和元年 10 月 5 日～10 月 12 日）で、『忠臣蔵』〔デジタル復元・最長版〕、『日本南極探検』〔デジタル復元・最長版〕、『オセロ』、『燈台守』上映会（会場：ジュゼッペ・ヴェルディ市立劇場（イタリア・ポルデノーネ））を開催し、4 作品を上映した。上映はすべて生演奏・英語字幕及びイタリア語付で、地元のイタリア人をはじめ欧米各国から集まった観客に、国立映画アーカイブの活動及び日本映画について紹介した。
- ⑥ 映画フィルムの保存・修復等に関する協力等については、『日本南極探検』のデジタル復元作業に際して、字幕台本を所蔵する早稲田大学演劇博物館や、映画完成当時の資料を数多く保管している白瀬南極探検隊記念館からの協力を得て実施した。また、『日本の娘』のデジタル復元に際し、同作を製作したミャンマーの映画会社 A1 Film Company とミャンマーの映画保存団体 Save Myanmar Film の協力を得て実施した。そのほか、令和元年 10 月に発生した台風 19 号による川崎市市民ミュージアムの浸水被害に際し、川崎市からの要請により、国立文化財機構とも連携しながら、映画フィルム及び映画関係資料のレスキュー活動と修復作業への助言、並びに現場での救援活動を行った。さらに、研究員が、文化庁の「アーカイブ中核拠点形成モデル事業（撮影所等における映画関連の非フィルム資料）」の検討委員として、検討委員会での提言やシンポジウムへの参加を通じ、京都における映画関連資料のアーカイビングについての協力を行った。
- ⑦ 各種映画祭や映画・映像に関する研究会等への協力については、国内団体との連携として、駐日欧州連合代表部及び EU 加盟国大使館・文化機関との共催企画「EU フィルムデーズ 2019」、一般社団法人 PFF、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパンとの共催企画「第 41 回 ぴあフィルムフェスティバル」を開催した。館外上映においては、東京国際フォーラムとの共催企画「東京国際フォーラム＋国立映画アーカイブ 月曜シネサロン&トーク」を開催した。

- ⑧ 国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校（国立映画アーカイブ利用校）が、国立映画アーカイブの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行う「国立映画アーカイブ・大学等連携事業」については、計3回の講義を実施した。
- ⑨ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」に対しては、公開データベースへの接続に関する協力を行った。
- ⑩ FIAF の正会員として、第 76 回 FIAF 会議（スイス・ローザンヌ）に研究員 2 名が参加した。また FIAF 加盟機関であるアメリカ議会図書館と共催した「アメリカ議会図書館 映画コレクション」や、オリンピック文化遺産財団の特別協力を得た企画「オリンピック記録映画特集—より速く、より高く、より強く」を開催した。
- ⑪ 映画関連資料に関する情報収集については、研究員が鎌倉市川喜多映画記念館や尾道市のおのみち映画資料館を訪問するなど、各地の映画資料館・専門図書館・研究機関とノンフィルム資料の保存に関する情報収集や情報交換を行った。また研究員が文化庁事業「アーカイブ中核拠点形成モデル事業（撮影所等における映画関連の非フィルム資料）」に参加、関西における映画関連資料のアーカイビングについて提言を行った。
- ⑫ 近隣関係施設と連携・協力し「東京アート&ライブシティ」を構成して、展覧会や上映企画等を掲載したイベントマップへの参加や、アートによる地域連携活動を行った。

II 業務運営の効率化

1 業務運営の取組

(1) 一般管理費及び業務経費の削減状況

(単位：千円)

区分	前中期目標期間 最終年度	当中期目標期間	削減率
	平成 27 年度	令和元年度	
一般管理費	679,240	568,761	△16.3%
業務経費	2,790,837	2,721,535	△2.5%

特記事項

当中期目標期間終了年度において、前中期目標期間の最終年度と比べて、一般管理費 15%、業務経費 5%を削減することを目標としている。(ただし、美術作品購入費、美術作品修復費、土地借料等の特殊要因経費はその対象外。)

令和元年度において、一般管理費については平成 27 年度比で 16.3%削減し、業務経費については 2.5%削減している。

(2) 省エネルギー

● 使用量の削減割合 (対平成 27 年度比)

館名		使用量		
		電気	ガス	合計
東京国立近代 美術館	本館	85.1%	103.3%	92.2%
	工芸館	102.8%	—	102.8%
京都国立近代美術館		138.2%	192.6%	149.5%
国立映画 アーカイブ	京橋本館	104.5%	—	104.5%
	相模原分館	98.4%	—	98.4%
国立西洋美術館		100.0%	102.9%	101.1%
国立国際美術館		102.4%	—	102.4%
国立新美術館		94.9%	99.0%	96.0%
計		98.2%	103.1%	99.4%

※東京国立近代美術館工芸館・国立映画アーカイブ京橋本館・相模原分館及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。

※使用量は、電気は一般電気事業者からの昼間買電に 9.97GJ/千 kWh、夜間買電に 9.28GJ/千 kWh、特定規模電気事業者からの買電に 9.76GJ/千 kWh を乗じて得た熱量及び都市ガスに 45GJ/千 m³ を乗じて得た熱量の合計に 0.0258kl/GJ を乗じて得た原油換算量を、各施設の延床面積で除した値(原単位)を基礎とする(エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づく)。

特記事項 (増減の理由等)

国立美術館全体においては、業務の特殊性から展覧会場や美術作品収蔵庫において一定の温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの、引き続き、美術作品のない区画における空調機の設定温度の適格化(夏季 28℃、冬季 19℃)、夏季における服装の軽装化、不使用設備機器類の停止及び職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき、エネルギー管理統括者のもとで、省エネルギー計画策定等を行い、各館において可能な箇所から施設設備の改修を行い、省エネルギー効果を高めた。特に、国立新美術館においては、引き続き、BEMS (Building and Energy Management System) により、詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い、その情報を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し、省エネルギー対策に生かすなどの取組を行っている。

具体的内容は以下のとおり。

(1) 設備・機器等の使用抑制

① 空調に係る節電

- ・部分的な運用，時間的な運用など柔軟に対応
- ・設定温度夏季 28℃，冬季 19℃を徹底（展示室及び収蔵庫等を除く）
- ・節電にも役立つ服装の励行
- ・ブラインドを調節し，夏季は直射日光を遮光，冬季は暖気を確保
- ・空調機のフィルター清掃

② 照明に係る節電

- ・執務室の照明は，最低基準の照度を確保しつつ大幅削減
- ・廊下，ロビー，階段等は，安全確保を優先し極力消灯
- ・昼休みの消灯を徹底
- ・白熱電球の原則使用禁止（代替品のない場合を除く）

③ エレベータ，エスカレータ

- ・必要最小限度の運転，階段利用の促進

④ 衛生設備に係る節電

- ・給湯室，洗面台，電気温水器等の利用時間，設定温度の変更
- ・自動販売機の消灯，設定温度の変更
- ・暖房便座，温水洗浄の停止
- ・便所温風器（手乾かし器）の停止

⑤ OA 機器等

- ・一定期間使用しない場合の電源の切断
- ・節電モードでの使用を徹底
- ・プリンタ，コピー機等の使用制限

⑥ その他

- ・ノー残業デーの推進
- ・冷蔵庫，電気ポット等，家電機器の使用制限
- ・冬季のハロゲンヒーター等の暖房機器の個人使用の禁止
- ・各テナントへの節電の協力要請
- ・サーバ室等個別空調機器の適切な温度設定

(2) 夏季休暇等の確実な取得

業務効率の維持等に留意しつつ，次の取組を推進

- ・夏季休暇の完全取得，夏季における年次休暇の計画的長期取得

(3) その他

- ・超過勤務の一層の縮減
- ・中長期の節電にも資する設備の設置等の検討及び着手
- ・夏季及び冬季における全館一斉休業日の実施

京都国立近代美術館の電気及びガス使用量は，平成 27 年度に工事のため 1 ヶ月半休館していたために使用量が少なかったことから，対平成 27 年度では例年増加傾向にある。

なお、法人全体については、国立西洋美術館において目標を大きく上回る来館者があったこと、京都国立近代美術館及び国立国際美術館において展覧会の開催に当たり通常より厳密な空調管理を求められたことなど、快適な観覧環境の提供及び作品保護等に取り組む一方で、省エネルギーへの取組、工事休館及び新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館等により、電気及びガスの使用量は減少し、エネルギー使用量は平成 27 年度に対し 99.4%と横ばいになっている。

2 組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、適宜組織体制を見直し、その強化に努めた。

3 契約の点検・見直し

(1) 調達等合理化の推進

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、事務・事業の特性を踏まえ、PDCAサイクルにより、公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むため、令和元年度独立行政法人国立美術館調達等合理化計画を策定した。

① 令和元年度の調達実績

ア 令和元年度の調達全体像

(単位：件、千円)

	平成30年度		令和元年度		比較増△減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(26.7%) 66	(19.5%) 1,845,669	(24.0%) 65	(25.6%) 1,925,002	(△1.5%) △1	(4.3%) △79,333
企画競争・公募	(13.4%) 33	(7.4%) 701,876	(9.6%) 26	(2.6%) 196,610	(△21.2%) △7	(△71.4%) △505,267
競争性のある契約(小計)	(40.1%) 99	(26.9%) 2,547,545	(33.6%) 91	(28.2%) 2,121,612	(△8.1%) △8	(△16.9%) △425,934
競争性のない随意契約	(59.9%) 148	(73.1%) 6,918,276	(66.4%) 180	(71.8%) 5,399,365	(21.6%) 32	(△22.0%) △1,518,911
合計	(100%) 247	(100%) 9,465,821	(100%) 271	(100%) 7,520,976	(9.7%) 24	(△20.6%) △1,944,845

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 比較増△減の()書きは、令和元年度の対平成30年度伸率である。

イ 令和元年度の一者応札・応募状況

(単位：件、千円)

		平成30年度	令和元年度	比較増△減
2者以上	件数	55 (55.6%)	58 (63.7%)	3 (△5.5%)
	金額	1,291,546 (50.7%)	1,589,729 (75.0%)	298,183 (23.3%)
1者以下	件数	44 (44.4%)	33 (36.3%)	△11 (△25.0%)
	金額	1,256,000 (49.3%)	531,883 (25.0%)	△724,117 (△57.9%)
合計	件数	99 (100%)	91 (100%)	△8 (△8.1%)
	金額	2,547,545 (100%)	2,121,612 (100%)	△425,933 (△16.9%)

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 合計欄は、競争契約(一般競争, 指名競争, 企画競争, 公募)を行った計数である。

(注3) 比較増△減の()書きは、令和元年度の対平成30年度伸率である。

複数年度にわたり同一業者による一者応札が継続し、改善が見込めない案件については、慎重に検討のうえ、公募への切替えを実施することとしている。

② 契約監視委員会の審議状況

監事及び外部有識者で構成される契約監視委員会を2回実施（書面審査1回含む）し、令和元年度調達等合理化計画策定及び令和元年における契約の点検見直しを行ったところ、指摘事項はなかった。

- ・一者応札の検証実施件数：58件

③ 調達等合理化検討チームによる点検

新たに随意契約（少額随契を除く。）を締結することになった案件について、本部事務局長を総括責任者とする調達等合理化検討チームにおいて事前点検（緊急の場合は事後点検）を行った。

- ・事前点検：2件

④ 内部監査の実施件数

令和元年度は、本部事務局、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を対象として監査員による内部監査を行った。

- ・内部監査実施件数：7件

⑤ 会計検査院による実地検査

会計検査院からの、平成28・29年度に実施した国立西洋美術館建築設備改修工事の予定価格の積算に係る不当事項の指摘を受け、理事長名による「適正な予定価格の算定について」を發出するとともに、館長等会議及び運営管理会議において、適正な会計事務の履行について周知した。

(2) 民間委託の推進

① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 会場管理業務、(イ) 設備管理業務、(ウ) 清掃業務、(エ) 保安警備業務、(オ) 機械警備業務、(カ) 入金等集配業務、(キ) レストラン運営業務、(ク) アートライブラリー運営業務、(ケ) ミュージアムショップ運営業務、(コ) 美術情報システム等運営支援業務、(サ) ホームページサーバ運用管理業務、(シ) 電話交換業務、(ス) 展覧会アンケート実施業務、(セ) 省エネルギー対策支援業務、(ソ) 展覧会情報収集業務、(タ) 映写等請負業務

② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 情報案内業務、(イ) 広報物等発送業務、(ウ) 交通広告等掲載、(エ) ホームページ改訂・更新業務、(オ) 特設サイト等、(カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務、(キ) 講堂音響設備オペレーティング業務、(ク) 画像貸出業務

4 共同調達の推進

国立西洋美術館は周辺の機関と連携し、コピー用紙及びトイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買契約について共同調達を実施し、東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立新美術館はトイレットペーパーの共同調達を実施した。東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立新美術館は周辺の機関と連携し、コピー用紙の共同調達を実施した。京都国立近代美術館及び国立国際美術館は、それぞれ周辺の機関と連携し、コピー用紙の共同調達を実施した。

また、東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立新美術館は新たに電気の共同調達を実施した。

5 給与水準の適正化等

① 人件費決算

決算額 995,2556 千円（対平成 30 年度比較 101.4%）

※人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

② 給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成 18 年 4 月から俸給表の水準を全体として平均 4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の 4 分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。なお、令和元年度においては、国家公務員の給与改定に準拠し、人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、俸給水準及び諸手当にかかる給与改定を実施した。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けると同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給していることを前提に、これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与水準等の公表（平成 30 年度）」総務省公表資料を参照）。

ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

（国及び他の独立行政法人との比較）平成 30 年度実績

項目	国	全独立行政法人	国立美術館
平均年間給与額	6,213 千円	7,001 千円	6,080 千円
ラスパイレス指数 ※1		102.4	97.9

※1 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

（国及び他の独立行政法人との比較）平成 30 年度実績

項目	国	全独立行政法人	国立美術館
平均年間給与額	9,367 千円	9,361 千円	8,924 千円
ラスパイレス指数 ※2		99.3	95.3

※2 国の研究職俸給表適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

ウ 常勤役員の年間報酬

平成 30 年度実績

項目	国立美術館
法人の長	18,510 千円
理事	15,481 千円

※「独立行政法人の役職員の給与水準等の公表（平成 30 年度）」（総務省公表資料）では常勤役員にかかる平均報酬額が公表されていないため当法人の実績のみ記載。

③ 令和元年度の役職員の報酬・給与等について

別紙 1 「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

6 情報通信技術を活用した業務の効率化

法人内で VPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いたグループウェア及びテレビ会議システムを引き続き採用しており、特にテレビ会議システムについては定期的な会議等に積極的に活用している。

また、外部データセンターが提供するサーバ機能を利用し、多重化した光回線による VPN の二重化等ネットワーク構成を刷新した。これにより安定したネットワーク稼働を維持することを可能とし、併せてネットワーク障害の回避策についてプロバイダーとの調整に努めた。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

1 自己収入の確保

入場料収入 874 百万円，公募展事業収入 281 百万円，不動産賃貸収入 118 百万円，その他事業収入 156 百万円等により，1,437 百万円の展示事業等収入を獲得できた。

2 保有資産の有効利用・処分

保有する資産について，美術館の事業・運営に影響のない範囲で積極的な講堂等の外部貸出やエントランスロビーの活用に努めた。また，保有する資産のうち不要な資産はない。

3 予算

（単位：百万円）

区 分	計画額	決算額	増△減額
収入			
運営費交付金	7,392	7,392	0
展示事業等収入	1,581	1,437	△144
施設整備費補助金	1,381	1,544	163
文化芸術振興費補助金	—	206	206
受託収入		313	313
寄附金収入	650	738	88
計	11,004	11,631	626
支出			
運營業業費	8,973	8,742	231
管理部門経費	1,070	1,224	△154
うち人件費	424	425	△1
うち一般管理費	646	798	△153
事業部門経費	7,903	7,519	385
うち人件費	754	749	6
うち美術振興事業費	3,110	2,928	183
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	3,511	3,304	207
うちナショナルセンター事業費	528	538	△10
施設整備費	1,381	1,544	△163
文化芸術振興費	—	206	△206
受託事業費	—	313	△313
寄附金事業費	650	441	209
計	11,004	11,246	△242

※金額は単位未満四捨五入のため，合計等が合致しない場合がある。

特記事項

一般管理費，美術振興事業費，ナショナルコレクション形成・継承事業費及びナショナルセンター事業費を合わせた物件費は，次年度に繰り越した作品購入に係る運営費交付金債務等により，予算に比べ 231 百万円の支出減となった。

展示事業等収入は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館等から，予算に比べ 144 百万円の収入減となった。

施設整備費補助金は，前年度から繰り越された工事の完了により，計画額より 163 百万円の支出増となった。

寄附金については、738百万円を獲得した。前年度からの繰越額2,121百万円と合わせた2,859百万円のうち、令和元年度に441百万円を支出した。

4 収支計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	決算額	増△減額
費用の部			
経常費用	6,394	6,555	△161
管理部門経費	1,049	1,189	△140
うち人件費	424	442	△18
うち一般管理費	625	747	△122
事業部門経費	4,537	4,822	△285
うち人件費	754	867	△113
うち美術振興事業費	3,084	3,300	△216
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	391	353	38
うちナショナルセンター事業費	308	301	7
寄附金事業費	650	387	263
減価償却費	158	158	—
収益の部			
経常収益	6,394	6,437	43
運営費交付金収益	4,005	3,722	△283
展示事業等の収入	1,581	1,429	△152
受託収入		313	313
寄附金収益	650	387	△263
資産見返負債戻入	158	162	4
補助金等収益	—	206	206
施設費収益	—	19	19
引当金見返に係る収益		191	191
雑益		8	8
経常損益		△118	
臨時損益		△8	
当期純損益		△126	
前中期目標期間繰越積立金取崩額・目的積立金取崩額		179	
当期総利益		53	

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

5 資金計画

(単位：百万円)

区分	計画額	決算額	増△減額
資金支出	11,004	11,435	431
業務活動による支出	9,555	9,506	△49
投資活動による支出	1,449	1,929	480
財務活動による支出	—	—	—
資金収入	11,004	12,130	1,126
業務活動による収入	9,623	10,117	494
運営費交付金による収入	7,392	7,392	0
展示事業等による収入	1,581	1,334	△247
受託収入	—	451	451
補助金等収入	—	202	202
寄附金収入	650	738	88
投資活動による収入	1,381	2,013	632
施設整備補助金による収入	1,381	2,013	632
資金増減額		697	
資金期首残高		3,963	
資金期末残高		4,660	

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

6 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
I 流動資産	5,455	I 流動負債	4,524
II 固定資産		II 固定負債	1,265
1. 有形固定資産	198,137		
2. 無形固定資産	28	負債合計	5,789
3. その他の固定資産	680		
固定資産合計	198,845	純資産の部	
		I 資本金	81,019
		II 資本剰余金	116,193
		III 利益剰余金	1,300
		純資産合計	198,512
資産の部 合計	204,300	負債及び純資産の部 合計	204,300

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

7 短期借入金

実績なし。

8 重要な財産の処分等

実績なし。

9 剰余金

(1) 当期末処分利益の処分計画

(単位：円)

区分	金額
I 当期末処分利益	53,382,382
当期総利益	53,382,382
II 利益処分額	
積立金	53,382,382

(2) 利益の生じた主な理由

支出の抑制及び目的積立金の取崩による。

(3) 目的積立金の使用状況

目的積立金について、令和元年度は以下のとおり使用した。

区 分	金額 (円)	使用内容
前中期目標期間繰越積立金	48,053,869	展示事業に係る経費、資料収集事業に係る経費、教育普及事業に係る経費、施設の整備に係る経費、固定資産の取得
展示事業積立金	92,553,475	展示事業に係る経費
教育普及事業積立金	3,500,000	教育普及事業に係る経費
来館者サービス積立金	7,549,200	来館者サービスに係る経費
施設設備積立金	70,348,505	施設の整備に係る経費、固定資産の取得
計	222,005,049	

(4) 積立金（通則法第 44 条第 1 項）の状況

(単位：円)

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	309,409,819	79,326,145	0	388,735,964
前中期目標期間繰越積立金	474,547,398	0	48,053,869	426,493,529
目的積立金	420,488,167	184,557,091	173,951,180	431,094,078

平成 30 年度未処分利益 263,883,236 円のうち 184,557,091 円が目的積立金として承認を受けた。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 内部統制・ガバナンスの強化

(1) 内部統制の充実・強化

① 理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備するため、前年度に引き続き理事長裁量経費を計上している。また、理事長のガバナンスを強化するため、理事長及び理事をもって組織し、国立美術館の運営に関する基本方針のほか、中期計画・業務評価・予算・人事等の重要事項を審議し、理事長の意思決定を補佐する理事会を5回開催した。

そのほか、平成29年度に制定された「独立行政法人国立美術館内部統制規則」に基づき、国立美術館に対する社会的信頼の確保及び国立美術館における内部統制の推進のため、国立美術館内部統制委員会を2回開催した。本委員会では、国立美術館各館の内部統制実施状況や課題を共有し、内部統制機能の強化に努めた。

更に、外部の有識者で組織し、国立美術館の管理運営に関する重要事項について理事長の諮問に応じて審議し、理事長に対して助言する独立行政法人国立美術館運営委員会を2回開催し、平成30年度事業実績並びに、令和元年度事業の実施状況及び令和2年度事業計画(案)について説明聴取の上、意見交換を行った。また、外部有識者で構成し、国立美術館の単年度ごとの業務の実績に関する評価を行う独立行政法人国立美術館外部評価委員会を2回開催し、平成30年度事業実績について説明聴取の上、審議し外部評価報告書を取りまとめている。外部評価報告書については法人ホームページにて公表している。

② 組織全体で取り組むべき重要な課題(リスク)の把握

法人内の会議(館長等会議、研究系管理職を中心とした学芸課長会議、事務系管理職を中心とした運営管理会議)において情報共有及びリスクの把握に努めているほか、法人全体で取り組むべき重要な課題(リスク)に対応するため、リスク管理委員会を2回開催し、法人として優先して対応すべきリスク5件について、法人としてのリスク管理計画を策定した。今後、それぞれのリスク管理計画を実施するとともに、優先度の低いリスクについても順次管理計画を立ててゆくこととなっている。

そのほか、外部有識者で構成する運営委員会や外部評価委員会の開催を通じて、外部の視点からのリスクの把握に努めるとともに、監事や会計監査人との意見交換を通じて法人運営に影響を及ぼすリスクの把握に努めている。

(2) 情報管理の安全性向上

情報資産の安全な運用管理実現のために、平成30年度に改定された「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」に基づき、本部情報企画室に必要な指示を出して法人の情報セキュリティ体制の整備を進めるとともに、情報セキュリティ委員会を開催し、国立美術館の情報セキュリティ対策実施状況の把握・情報セキュリティ対策実施計画の協議及び推進を行うなど、情報セキュリティの実現に取り組んだ。

令和元年度は、不審メール受信時の報告・対応手順を整備し、各館内からのみアクセスできるイントラネットのポータルサイトに不審メール報告窓口を設置したほか、「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」への準拠度を把握するため、国立西洋美術館及び国立映画アーカイブにおいて情報セキュリティ自己監査を実施した。自己監査の結果については、法人内役職員を対象とした説明会において報告され、現状の情報セキュリティ対策上の課題等を共有した。

また、頻発している情報漏えい、情報改ざん等につながる悪意のあるソフトウェアが添付されたメール等への注意喚起等を適時適切に行うとともに、全職員を対象に情報セキュリティ研修として集合研修及び標的型メール訓練を実施した。

(3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況の検証

① 監事監査

監事 2 名が館長等会議その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、財務及び業務についての状況を調査している。また、会計監査人から会計監査人の監査方法及びその結果について説明を受け、会計帳簿等の調査を行い、財務諸表、事業報告書及び決算報告書について検討を加え、いずれも適正であることを確認するとともに、業務の執行に関する法令遵守等の状況についても確認している。

令和元年度においては 6 月 20 日に定期監査を実施したほか、各館に対し臨時監査を以下のとおり実施した。

令和元年 11 月 13 日：東京国立近代美術館

令和元年 12 月 10 日：京都国立近代美術館

令和元年 11 月 8 日：国立映画アーカイブ

令和元年 11 月 7 日：国立西洋美術館

令和元年 10 月 30 日：国立国際美術館

令和元年 11 月 5 日：国立新美術館

なお、監査結果報告については速やかに法人内に周知している。また、報告書において意見が付された場合には、各館における対応状況を随時監事に報告している。

このほか、「独立行政法人、特殊法人等監事連絡会」第 3 部会へ監事 2 名が参加している。

② 内部監査

本部事務局、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を対象として、契約方法の妥当性、固定資産等の管理、債権・債務の管理、前年度指摘事項のフォローアップ等について、監査員が以下のとおり実地監査に当たった。

令和元年 9 月 3 日：本部事務局、東京国立近代美術館

令和元年 8 月 23 日：京都国立近代美術館

令和元年 8 月 27 日：国立映画アーカイブ

令和元年 8 月 15 日：国立西洋美術館

令和元年 8 月 22 日：国立国際美術館

令和元年 8 月 19 日：国立新美術館

なお、監査結果報告については速やかに理事長、監事、理事及び各館長へ周知している。また、監査結果報告書において意見が付された場合には、改善措置を講じている。

2 施設・設備に関する計画

平成 19 年度から継続している国立新美術館の土地購入を予算措置に応じて行った。

3 人事に関する計画

(1) 職員の研修等

① 職員研修の実施（括弧内は参加人数）

- ・「令和元年度ハラスメント研修」（267 人）
- ・「情報セキュリティ研修」（276 人）
- ・「令和元年度接遇・クレーム対応研修」（27 人）
- ・「令和元年度メンタルヘルス・ハラスメント研修」（27 人）

このほか、産業医による個別面談により、職員のメンタルヘルスケアを実施した。

② 外部の研修への派遣（括弧内は参加人数）

ア 東京国立近代美術館

- ・東京大学主催「2019 年度東京大学次世代リーダー育成研修」（1 人）

- ・国立公文書館主催「平成 31 年度（令和元年度）公文書管理研修Ⅰ」（2人），
 - ・一般財団法人公務人材開発協会人事行政研究所主催「勤務時間・休暇関係実務研修会」（1人），「給与実務研修会」（1人），「非常勤職員雇用の人事実務研修会」（1人）
 - ・文化庁主催「令和元年度博物館長研修」（1人）
 - ・会計検査院主催「第 38 回政府出資法人等内部監査業務講習会」（1人）
 - ・一般社団法人国立大学協会主催「2019 年度東京地区及び関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」（1人）
- イ 京都国立近代美術館
- ・日進サイエンティア主催「第 12 回人事・給与統合システム（U-PDS）研修会」（3人）
 - ・近畿管区行政評価局主催「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」（1人）
 - ・国立公文書館主催「令和元年度公文書管理研修Ⅰ」（1人）
 - ・国立公文書館主催「令和元年度公文書管理研修Ⅱ」（1人）
 - ・経済調査会主催「印刷費積算講習会（スタンダード編）」（1人）
 - ・文化庁著作権課主催「2019 年度図書館等職員著作権実務講習会」（1人）
 - ・人事院主催「第 53 回近畿地区係長研修」（1人）
 - ・国立情報学研究所主催「CAT2020 説明会」（1人）
 - ・中小企業庁主催「令和元年度官公需確保対策地方推進協議会」（1人）
 - ・京都地方方法務局主催「京都地方方法務局管内行政庁訴訟事務担当者会議」（1人）
 - ・奈良先端科学技術大学院大学主催「メンタルタフネス研修」（6人）
 - ・京都市主催「京都観光おもてなし講習会」（2人）
- ウ 国立西洋美術館
- ・一般財団法人公務人材開発協会主催「勤務時間・休暇関係実務研修会」（1人）
 - ・一般財団法人公務人材開発協会主催「給与実務研修会（諸手当関係）」（1人）
 - ・公益財団法人財団法人文化財虫菌害研究所主催「第 9 回文化財 IPM コーディネータ資格取得のための講習会と試験」（1人）
 - ・警視庁上野警察署主催「パートナーシップ関係者に対する研修会」（2人）
 - ・警視庁上野警察署主催「テロ対処合同訓練」（1人）
 - ・東京消防庁上野消防署主催「消防演習」（1人）
- エ 国立国際美術館
- ・人事院主催「第 42 回近畿地区課長研修」（1人）
 - ・文化庁主催「2019 年度図書館等職員著作権実務講習会」（1人）
 - ・財務省会計センター主催「第 57 回政府関係法人会計事務職員研修」（1人）
 - ・国立公文書館主催「令和元年度公文書管理研修Ⅰ」（1人）
 - ・国立公文書館主催「令和元年度公文書管理研修Ⅱ」（1人）
 - ・国立公文書館主催「令和元年度アーカイブズ研修Ⅰ」（1人）
 - ・大阪労働局、大阪府主催「公正採用選考人権啓発推進員新任・基礎研修」（1人）
 - ・日本博物館協会近畿支部主催「日本博物館協会近畿支部第 23 期後期研修会」（1人）
 - ・近畿管区行政評価局主催「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」（1人）
- オ 国立新美術館
- ・放送大学「科目履修生」（1人）
 - ・警視庁麻布警察署主催「テロ対策合同訓練」（1人）
 - ・警視庁麻布警察署主催「「麻布パートナーシップ」研修会」（1人）
 - ・一般財団法人公務人材開発協会人事行政研究所主催「育児休業制度等研修会」（1人）

(2) 人員に係る指標

職種別人員の増減状況（過去5年分）

（単位：人）

職種	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
定年制研究系職員	49	55	54	56	57
定年制事務系職員	49	48	50	53	57
定年制技能・労務系職員	2	1	1	1	1
指定職相当職員	2	2	4	5	4

「公務員の給与改定に関する取扱いについて（平成18年10月17日閣議決定）」に基づき、公務員の例に準じて措置、対処している。

事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

4 関連公益法人

該当なし

5 東京国立近代美術館工芸館の移転に向けた準備

令和2年度の石川県金沢市への移転・開館へ向けて、以下の取組を行った。

- ・令和元年12月1日に石川県及び金沢市が整備中の東京国立近代美術館工芸館が移転する施設内に仮事務所を設置し、令和2年4月1日からの本格的な移転業務の事前準備、並びに石川県及び金沢市が実施している施設整備（令和2年3月31日竣工）の調整・協議を行った。
- ・東京国立近代美術館工芸館の石川県移転のために通称として決定した「国立工芸館」のロゴタイプ等を策定するために「東京国立近代美術館工芸館の石川移転に係る通称「国立工芸館」ロゴタイプ等選定委員会」を設置し、指名制コンペティションを開催し、移転後に使用するロゴタイプを決定した。
- ・令和2年2月28日で東京国立近代美術館工芸館の東京での展示活動を終了した。
- ・移転開館後の地域との連携協力のために「国立工芸館・いしかわ・かなざわ連携協力者会議」を設置。地元の有識者11名を委嘱の上、3月3日に会議を開催し、移転開館後の事業連携や協力等についての意見交換を行った。
- ・開館に向けて美術館活動に必要となる展示ケースや作品収蔵棚等について整備を開始した。
- ・東京国立近代美術館工芸館の石川県への移転に向けた機運醸成のため、石川県内の美術館との共催等による連携展覧会を実施し、移転先地域との連携を強化した（再掲）。詳細は別表5のとおり。

※新型コロナウイルス感染症予防対策のため、令和元年度は令和2年2月29日から年度末まで、全館で臨時休館（以下「感染症予防対策臨時休館」という。）を行った。

別表1 所蔵作品展

館名	開催日数	展示替回数		出品数 (点)	入館者数		満足度※		
		実績 (回)	目標 (回程度)		実績	目標	実績	目標	
東京国立近代美術館	本館	注1 262	5	4	1,385	218,664	184,000	79.9%	88.4%
	工芸館	注2 137	3	3	561	38,292	40,500	84.3%	88.5%
京都国立近代美術館		注3 269	6	5	982	200,077	118,000	70.2%	54.8%
国立西洋美術館		注4 258	7	5	1,152	507,994	321,500	86.0%	89.0%
国立国際美術館		注5 229	3	3	338	165,320	102,500	68.7%	55.7%
計		1,155	24	20	4,418	1,130,347	766,500	75.5%	67.4%

※「満足度」とは、アンケートによる満足度調査における「良い」以上の回答率を指す。以下同じ。

【注1】感染症予防対策臨時休館（2月29日～3月31日）、臨時休館（10月12日、10月13日）及び臨時開館（12月2日）のため、開催日数が当初予定の291日から変更となった。

【注2】感染症予防対策臨時休館（2月29日～3月8日）のため、開催日数が当初予定の193日から変更となった。

【注3】感染症予防対策臨時休館（2月29日～3月31日）、臨時休館（10月12日）及び開催日数の変更のため、開催日数が当初予定の289日から変更となった。

【注4】感染症予防対策臨時休館（2月29日～3月31日）、臨時休館（10月12日、10月13日）及び会期の変更のため、開催日数が当初予定の287日から変更となった。

【注5】感染症予防対策臨時休館（2月29日～3月15日）及び臨時休館（10月12日）のため、開催日数が当初予定の244日から変更となった。

別表2 企画展

※以下の表の（ ）内は会期全体の数値、（継続）は平成30年度に継続開催する展覧会を意味する。

館名	展覧会名	開催日数	入館者数		満足度		企画 観点	共催者
			実績	目標	実績	目標		
東京国立近代美術館 (本館)	①福沢一郎展 このどうし ようもない世界を笑いと ばせ	50 (69)	18,288	14,000	86.0%	89.8%	ニ	—
	②高畑勲展—日本のアニメ ーションに遺したもの	84	136,868	130,000	91.6%		ハ	NHK, NHKプロモーション
	④鏑木清方 幻の《築地明 石町》特別公開【注1】	40	57,684	25,000	85.0%		ニ ホ	文化庁, 独立行政法人日 本芸術文化振興会
	③窓展：窓をめぐるアート と建築の旅【注2】	78	53,861	35,000	86.1%		ロ ハ	一般財団法人窓研究所
	⑤ピーター・ドイグ展【注 3】	3 (継続)	2,136 (継続)	22,000 (継続)	未実施		イ	読売新聞社, ぴあ
	計	255	268,837	226,000	88.4%	89.8%		開催数5回 (目標：5回程度)
東京国立近代美術館 (工芸館)	①イメージコレクター・杉 浦非水展	49 (94)	24,025 (39,645)	21,000 (40,000)	87.0%	88.0%	ニ ホ	毎日新聞社
	②The 備前—土と炎から 生まれる造形美—	33 (67)	10,232 (16,977)	6,000 (12,000)	79.0%		ホ	NHK, NHKプロモーション
	③竹工芸名品展：ニューヨ ークのアビー・コレクシ ョン—メトロポリタン美 術館所蔵【注4】	74	21,960	20,000	87.7%		ニ	NHK, NHKプロモーション
	計	156	56,217	47,000	85.1%	88.0%		開催数3回 (目標：4回程度)

京都国立近代美術館	①京都の染織 1960年代から今日まで	12	6,654 (13,131)	4,000 (10,000)	80.3%	77.6%	ニ	京都新聞
	②京都新聞創刊140年記念 川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎	34	17,300	20,000	91.5%		ニ	京都新聞
	③トルコ文化年 2019 トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美	39	76,490	70,000	79.1%		イ ロ	トルコ共和国大使館, 日本経済新聞社, BS-TBS, 京都新聞
	④ドレス・コード?—着る人たちのゲーム【注5】	57	38,281	40,000	88.3%		ロ ハ	公益財団法人 京都服飾文化研究財団
	⑤円山応挙から近代京都画壇へ	38	60,122	81,000	91.9%		ニ ホ	朝日新聞社、京都新聞、NHK京都放送局
	⑥記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ	38	10,378	9,000	81.0%		イ ニ	—
	⑦チェコ・デザイン100年の旅【注6】	0 (継続)	0 (継続)	13,000 (継続)	未実施		ニ	読売新聞社、チェコ国立ブラハ工芸美術館
	⑧ポーランドの映画ポスター【注7】	0 (継続)	0 (継続)	5,500 (継続)	未実施		ハ ホ	国立映画アーカイブ
	計	218	209,225	237,500	85.4%		77.6%	—
国立西洋美術館	①国立西洋美術館開館60周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代	43	113,310 (189,464)	85,000 (140,000)	81.3%	79.5%	イ	ル・コルビュジエ財団, 東京新聞, NHK
	②国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展	93	472,130	300,000	87.0%		イ	読売新聞社, NHK, NHKプロモーション
	③日本・オーストリア友好150周年記念 ハプスブルク展—600年にわたる帝国コレクションの歴史	82	391,845	185,000	82.0%		イ	ウィーン美術史美術館, TBS, 朝日新聞社
	④ロンドンナショナルギャラリー展【注8】	0 (継続)	0 (継続)	80,000 (継続)	未実施		イ	ロンドン・ナショナル・ギャラリー, 読売新聞社, 日本テレビ放送網
	計	218	977,285	650,000	83.1%		79.5%	—
国立国際美術館	①クリスチャン・ボルタンスキー—Lifetime	32	27,640	8,000	79.9%	71.0%	イ	朝日新聞社
	②抽象世界	62	24,516	17,000	71.9%		イ ロ ニ	—
	③日本・オーストリア外交樹立150周年記念 ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道【注9】	89	136,205	154,000	83.7%		イ	ウィーン・ミュージアム, 読売新聞社、読売テレビ
	④インボッシブル・アーキテクチャー—建築家たちの夢【注10】	46	21,386	21,000	78.2%		ハ	読売新聞社、美術館連絡協議会
	計	229	209,747	200,000	79.6%		71.0%	—

国立新美術館	①イクムラレイコ 土と星 Our Planet	1	629	1,000	91.7%	86.6%	イ	バーゼル美術館
	②トルコ文化年 2019 ト ルコ至宝展 チューリップ の宮殿 トプカプの美	44	146,165	92,000	90.2%		イ ロ	トルコ共和国大使館, 日 本経済新聞社, TBS, BS- TBS
	③日本・オーストリア外交 樹立150周年記念 ウィ ーン・モダン クリムト、 シーレ 世紀末への道	91	232,289	311,000	83.7%		イ ロ	ウィーン・ミュージアム , 読売新聞社
	④クリスチャン・ボルタン スキー - Lifetime	72	103,761	106,000	81.1%		イ	朝日新聞社
	⑤話しているのは誰? 現 代美術に潜む文学【注 11】	64	26,758	21,000	82.3%		ロ ハ	—
	⑥カルティエ、時の結晶【注 11】	64	145,182	121,000	70.0%		イ ロ	日本経済新聞社
	⑦日本・ハンガリー外交関係 開設 150 周年記念 ブダペ スト国立西洋美術館&ハン ガリー・ナショナル・ギャラ リー所蔵 ブダペストヨー ロッパとハンガリーの美 術 400 年【注 12】	63	85,574	115,000	89.0%		イ	駐日ハンガリー大使館, ブダペスト国立西洋美術 館 & ハンガリー・ナシ ョナル・ギャラリー, 日本 経済新聞社, テレビ東京, BSテレビ東京, TBS, BS- TBS
	⑧DOMANI・明日 2020 傷ついた風景の向こうに	32	16,061	15,000	91.1%		ホ	文化庁
	⑨古典×現代 2020—時空 を超える日本のアート 【13】	0 (継続)	0 (継続)	37,000	未実施		ロ ハ	國華社, 朝日新聞社, 文化 庁, 独立行政法人日本芸 術文化振興会
	計	431	756,419	819,000	86.6%		86.6%	開催数8回 (目標: 9回程度)
合計	1,507	2,477,730	2,179,000	86.0%	82.1%	開催数29回 (目標: 34回程度)		

【注 1】 臨時開館（12月2日）のため、開催日数が当初予定の39日から変更となった。

【注 2】 臨時開館（12月2日）のため、開催日数が当初予定の77日から変更となった。

【注 3】 感染症予防対策臨時休館（2月29日～3月31日）のため、開催日数が当初予定の31日から変更となった。

【注 4】 臨時休館（10月12日、10月13日）及び臨時開館（12月2日）のため、開催日数が当初予定の75日から変更となった。

【注 5】 臨時休館（10月12日）のため、開催日数が当初予定の58日から変更となった。

【注 6】 感染症予防対策臨時休館（3月6日～3月31日）のため、開催日数が当初予定の22日から変更となった。

【注 7】 感染症予防対策臨時休館（3月17日～3月31日）のため、開催日数が当初予定の17日から変更となった。

【注 8】 感染症予防対策臨時休館（3月3日～3月31日）のため、開催日数が当初予定の26日から変更となった。

【注 8】 感染症予防対策臨時休館（3月3日～3月31日）のため、開催日数が当初予定の26日から変更となった。

【注 9】 臨時休館（10月12日）のため、開催日数が当初予定の90日から変更となった。

【注 10】 感染症予防対策臨時休館（2月29日～3月15日）のため、開催日数が当初予定の60日から変更となった。

【注 11】 臨時休館（10月12日、10月13日）のため、開催日数が当初予定の66日から変更となった。

【注 12】 感染症予防対策臨時休館（2月29日～3月29日）及び会期変更のため、開催日数が当初予定の78日から変更となった。

【注 13】 感染症予防対策臨時休館（3月11日～3月31日）及び会期変更のため、開催日数が当初予定の18日から変更となった。

別表 3 映画上映会（国立映画アーカイブ）

タイトル	会場	上映 日数	上映 回数	入館者数		満足値		企画 観点	共催者
				実績	目標	実績	目標		
①映画監督 深作欣二	OZU ホール	30	90	13,215	15,000	87.3%	85.4%	ニ	—

②EU フィルムデーズ 2019	OZU ホール	24	48	10,200	10,000	96.0%	ニ	駐日欧州連合代表 部、EU 加盟国大使 館・文化機関
③逝ける映画人を偲んで 2017- 2018	OZU ホール	56	112	16,189	16,000	88.9%	ニ	—
④第 41 回びあフィルムフェステ イバル	OZU ホール	13	50	5,320	4,500	96.4%	ロ ニ	一般社団法人 PFF, 公益財団法人川喜多 記念映画文化財団, 公益財団法人ユニジ ャパン
⑤日墺洪国交樹立 150 周年 オース トリア映画・ハンガリー映画 特集	OZU ホール	10	20	2,746	2,500	85.0%	ニ	駐日ハンガリー大使 館、駐日オーストリ ア大使館／オースト リア文化フォーラム 東京
⑥アメリカ議会図書館 映画コレ クション	OZU ホール	10	18	3,376	3,500	85.7%	ニ	東京国際映画祭、モ ーション・ピクチャ ー・アソシエーショ ン、アメリカ議会図 書館
⑦サイレントシネマ・デイズ 2019	OZU ホール	6	12	1,674	1,500	65.5%	ニ	—
⑧オリンピック記録映画特集— より速く、より高く、より強く	OZU ホール	24	47	5,698	6,500	86.0%	ニ	—
⑨映画監督 河瀬直美	OZU ホール	18	36	5,857	3,500	82.8%	ニ	—
⑩戦後日本ドキュメンタリー映画 再考【注】	OZU ホール	34	68	8,254	8,000	83.7%	ニ	—
⑪アンコール特集：2018 年度上映 作品より	小ホール	9	18	1,575	2,000	85.3%	ホ	—
⑫シネマ・エッセンシャル 2019	小ホール	12	24	2,488	2,500	92.3%	ニ	—
計		246	543	76,592	75,500	88.4%	85.4%	開催数12回 (目標：13回程度)

【注】感染症予防対策臨時休館（2月29日～3月8日）のため、開催日数が当初予定の42日から変更となった。

別表 4 展覧会（国立映画アーカイブ）

展覧会名	日数	入館者数		満足度		企画 観点	共催者
		実績	目標	実績	目標		
①キネマ旬報創刊 100 年記念 映画イラ ストレーター宮崎裕治の仕事	108	7,005	7,000	95.0%	86.4%	ロ ホ	—
②映画雑誌の秘かな愉しみ	66	4,436	4,000	91.3%		ロ	—
③日本・ポーランド国交樹立 100 周年記 念 ポーランドの映画ポスター【注】	61	4,332	4,500	88.3%		ロ ニ	京都国立近代美術館
計	235	15,773	15,500	95.3%	86.4%		開催数3回 (目標：3回程度)

【注】感染症予防対策臨時休館（2月29日～3月8日）のため、開催日数が当初予定の69日から変更となった。

別表5 地方巡回展・巡回上映等

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
国立美術館 (担当館：東京国立近代美術館)	①東京国立近代美術館所蔵品展 きっかけは「彫刻」 。一近代から現代までの日本の彫刻と立体造形	①熊本市現代美術館	56	7,936
東京国立近代美術館 (工芸館)	①東京国立近代美術館工芸館巡回展 20世紀の工芸 日本×西洋 —新しい表現を求めて—	①川崎市立美術館	45	5,236
	②東京国立近代美術館工芸館巡回展 20世紀の工芸 日本×西洋 —新しい表現を求めて—	②身延町なかとみ現代 工芸美術館	51	884
	①東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 絵付け の魅力	③石川県九谷焼美術館	40	3,093
	②東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 人間国 宝を中心に・陶磁器の美と技	④石川県七尾美術館	46	2,008
	①東京国立近代美術館工芸館名品展 漆・木・竹工芸 のみかた	⑤石川県立美術館	31	6,391
	計			213
合計			269	25,548
企画館	タイトル	会場数	開催日数	入館者数
国立映画アー カイブ	①MoMAK Films 2019	1	8	224
	②令和元年度優秀映画鑑賞推進事業	134	255	49,967
	③東京国際フォーラム+国立映画アーカイブ 月曜 シネサロン&トーク	1	3	1,084
	④山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019「現実の創 造的劇化」：戦時期日本ドキュメンタリー再考	1	8	492
	⑤神戸発掘映画祭 2019 連携プログラム「発掘と研 究」：NFAJ ボーンデジタル映画のアーカイビング	1	5	48
	⑥Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーン で見る日本アニメーション！	3	9	276
	⑦オリンピック記録映画特集——より速く、より高 く、より強く【注】	1	13	1,061
計		142	301	53,152

【注】プログラムの一部を「①MoMAK Films 2019」として実施しているため、重複する分については会場数、開催日数及び入館者数をそれぞれの合計に含めていない。

別表6 調査研究一覧

ア 東京国立近代美術館 (本館)			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	福沢一郎と戦前の前衛美術	企画展「福沢一郎展 このどうしようもない世 界を笑いとばせ」開催	富岡市立美術博物館・福沢一郎記念 美術館、(財)福沢一郎記念美術財 団
2	高畑勲と日本のアニメーション映画草創期	企画展「高畑勲展—日本のアニメーションに遺 したもの」開催	三鷹の森ジブリ美術館、叶精二(映 像研究家)

3	美術と建築の両分野から見た窓	企画展「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」開催	一般財団法人 窓研究所
4	鏑木清方	企画展「鏑木清方 幻の《築地明石町》特別公開」開催、小冊子発行	—
5	ピーター・ドイグと 90 年代以降の絵画動向	企画展「ピータードイグ展」開催	ピーター・ドイグ
6	2000 年代の建築における公共性	企画展「ピータードイグ展」開催	隈研吾建築都市設計事務所
7	美術における眠りと夢	企画展「眠りの理由（仮称）」開催予定	国立国際美術館
8	幕末から昭和初期における女性イメージの調査研究—エロ・グロ・ナンセンスの視点から	企画展「あやしい絵」開催予定	大阪歴史博物館
9	MOMAT コレクション	所蔵作品展「MOMAT コレクション」を開催	—
10	MOMAT コレクション 特集：美術館の春まつり	所蔵作品展「MOMAT コレクション 特集：美術館の春まつり」を開催	—
11	コレクションによる小企画「解放され行く人間性」	コレクションによる小企画「解放され行く人間性」を開催	—
12	コレクションによる小企画「北脇昇」	コレクションによる小企画「北脇昇 一粒の種に宇宙を視る」を開催し小冊子を発行	—
13	ソル・ルウィットのウォール・ドローイング	ウォール・ドローイング設置に向けてルウィット財団と折衝	—
14	近代から現代までの日本の彫刻と立体造形	国立美術館巡回展「きっかけは「彫刻」。近代から現代までの日本の彫刻と立体造形」を開催し図録を発行	熊本市現代美術館
15	デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	作品の調査撮影とデータ比較を実施	西川茂（写真家）
16	アーカイブ構築のための速水御舟アトリエ、資料調査	アーカイブの構築	京都国立近代美術館、東京文化財研究所
17	装演分野の修理における旧修理材料のクリーニング・剥落止め方法の検討	献納画の作品修復	東京文化財研究所
18	児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進に関する調査研究	東京都の高校生と教員に向けた 1 日研修 [2019 年 7 月]	東京都高校美術工芸研究会
19	英語による対話型異文化交流プログラムの実施に向けた調査研究	英語による異文化交流プログラム「let's Talk Art!」実施	大高 幸
20	ビジネスパーソン対象鑑賞プログラムの実施に向けた調査研究	“Dialogue in the Museum”の実施	山口 周
21	小中学生向け所蔵作品鑑賞教材セルフガイドのデジタル端末プログラムの開発	所蔵品解説ツールの多様化	大岡寛典事務所
22	国立美術館の公開情報情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイ・システムの開発、並びに国立国会図書館サーチ(NDL Search)及び文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続維持	国立美術の公開情報資源の多面的かつ広範な検索可能性の実現	—
23	アート・ディスカバリー・グループ目録(Art Discovery Group Catalogue) への参加可能性の検討	国立美術館所蔵図書資料等の書誌情報の世界発信	—
24	所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充（独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムでの公開を目標に）	国立美術館所蔵作品情報の精緻化と世界標準化	—
25	エントランスホール等共用部の環境整備	発達年齢に沿った教育プログラムの展開	西澤徹夫建築事務所
26	美術館非来館者層に関する動向調査をもとにした分析と広報計画の策定	分析結果の法人内共有と広報戦略立案および活動での活用	株式会社インテージ
27	海外向け広報に関する調査	海外向けプレスリリース配信及びウェブ広告等での活用	共同通信 PR ワイヤー

28	夜間開館PRと複数館連携施策に関する調査研究	国立・都立・東京メトロ連携による謎解き鑑賞プログラム「ミステリーラリー2019」(2019年7-9月)の実施	公益財団法人東京都歴史文化財団, 東京地下鉄株式会社
29	現代美術の保存と修復(科研費 基盤 A 研究代表者: 岡田温司, 平成27年~令和元年)	同科研費による研究成果報告書にて研究成果の一部を発表	—
30	美術館の所蔵作品を活用した探求的な鑑賞教育プログラムの開発(科研費 基盤 B 研究代表者: 一條彰子, 平成28年~30年※延長)	国立美術館アートカードに準じた教材ウェブプログラム「鑑賞素材BOX」の制作 https://box.artmuseums.go.jp/	国立教育研究所, 日本体育大学, 国立西洋美術館, 京都国立近代美術館, 国立国際美術館
31	戦後日本の前衛美術のクロス・レファレンス的研究 1945-1955 (科研費 基盤 C 研究代表者: 大谷省吾, 平成30年~令和3年)	作家の日記, 書簡等自筆資料の調査, 『近代画説』28号(明治美術学会)及び『東京国立近代美術館研究紀要』24号にて研究成果の一部を発表	筑波大学, 神奈川県立近代美術館
32	1990年代から2000年代のロンドンにおける具象絵画に関する研究(科研費若手研究)	ピーター・ドイグ展カタログにて研究成果の一部を発表	—
(工芸館)			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	杉浦非水と近代の図案	企画展「イメージコレクター・杉浦非水展」を企画構成, 開催, 図録発行	愛媛県美術館
2	備前焼の歴史と作品	共催・巡回展「The 備前一土と炎から生まれる造形美」を企画構成, 開催, 図録発行	益子陶芸美術館, 山口県立萩美術館・浦上記念館, MIHO MUSEUM, 兵庫陶芸美術館, 岡山県立美術館, 愛知県陶磁美術館
3	近代デザインと近・現代工芸の関係	所蔵作品展「デザインの(居)場所」を企画構成, 開催	—
4	児童生徒成果物(『図鑑カード』)と各発達段階の検証	所蔵作品展「みた?—こどもからの挑戦状」及び関連を企画構成, 開催, セルフガイドを発行	—
5	近・現代の竹工芸の歴史と展開	共催・巡回展「竹工芸名品展: ニューヨークのアービー・コレクション—メトロポリタン美術館所蔵」を企画構成, 開催, 図録発行	メトロポリタン美術館, 大分県立美術館, 大阪市立東洋陶磁美術館
6	児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	所蔵作品展「みた?—こどもからの挑戦状」関連イベントの開催	東京都図画工作研究会
7	日本の美術・デザインにおけるバウハウスの影響	MOMAT コレクション展「バウハウス特集」の開催	ミサワバウハウスコレクション
8	鈴木長吉と明治期の金工	鈴木長吉《十二の鷹》の成分調査について意見交換会を開催	文化庁, 東京文化財研究所, 東京国立博物館, 東京藝術大学
9	近・現代工芸の歴史と展開	工芸館巡回展「20世紀の工芸 日本×西洋—新しい表現を求めて—」開催	川越市美術館, 身延町なかとみ現代工芸美術館
10	近・現代陶磁の歴史と作品	工芸館移転連携事業「絵付けの魅力」開催	石川県九谷焼美術館
11	近・現代工芸(漆工・木工・竹工)の歴史と作品	工芸館移転連携事業「東京国立近代美術館工芸館名品展 漆・木・竹工芸のみかた」開催	石川県立美術館
12	近・現代陶磁の歴史と作品	工芸館移転連携事業「人間国宝を中心に・陶磁器の美と技」開催	石川県七尾美術館
13	近代における工芸の歴史と展開	所蔵品の新たな活用方法の検討	武蔵野美術大学
14	工芸館石川移転に伴う環境整備	国立工芸館の建設	石川県, 金沢市
15	工芸館石川移転後の現工芸館建物利用計画の検討	現工芸館建物の利用についての検討	—
イ 京都国立近代美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	1960年以降の京都の染織動向研究	企画展「京都の染織 1960年代から今日まで」の開催	染・清流館
2	河井寛次郎	企画展「川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎」の開催	河井寛次郎記念館

3	トルコのアート工芸と文化史	企画展「トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」の開催	国立新美術館
4	ファッションと美術・マンガ・映画等における表象	企画展「ドレス・コード?—着る人たちのゲーム」の開催	京都服飾文化研究財団, 熊本市現代美術館, 東京オペラシティ アートギャラリー
5	円山・四条派と近代京都画壇 系譜と刷新について	企画展「円山応挙から近代京都画壇へ」の開催	東京藝術大学大学美術館
6	ニーノ・カルーソ研究 イタリア現代陶芸における古代建築と記憶	企画展「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ」の開催	ファエンツァ国際陶芸美術館, 岐阜県現代陶芸美術館
7	チェコ・デザイン	企画展「チェコ・デザイン 100年の旅」の開催	世田谷美術館, 神奈川県立近代美術館, 岡崎市美術博物館, 富山県美術館
8	チェコ・ブックデザイン	小企画「キュレトリアル・スタディズ 13: チェコ・ブックデザインの実験場 1920s-1930s 大阪中之島美術館のコレクションより」の開催	大阪中之島美術館, 立命館大学
9	「ポーランド派」研究—1950s—1990sのポーランドにおける映画とグラフィック	企画展「ポーランドの映画ポスター」の開催	国立映画アーカイブ, 神奈川県立近代美術館, 武蔵野美術大学 美術館・図書館
10	児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	展覧会に関連したワークショップの開催	京都市図画工作教育研究会
11	ユニバーサルな美術館体験プログラムに関する調査研究	ユニバーサルな美術鑑賞プログラムの企画実施など	京都教育大学, 京都市立芸術大学, 京都府立盲学校等
12	視覚障害者に向けた触察鑑賞ツールに関する調査研究	点字による美術館パンフレット, 所蔵作品紹介ツールの作成など	京都教育大学, 国立民族学博物館
13	感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 (「平成31年度文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業博物館を中核とした文化クラスター形成事業」採択事業 <実施中核館: 京都国立近代美術館>	ユニバーサルな美術鑑賞プログラムの企画実施, 盲学校と連携した鑑賞教育の研究, さわって学ぶ所蔵品紹介ツールの作成など	国立民族学博物館, 京都府立盲学校, 京都教育大学, 京都市立芸術大学ほか
14	郷土資料館のたてられた時代の再検証—建築はどのように集められ・展示されてきたか— (科研費 若手研究 研究代表者: 本橋仁, 平成31年度~令和2年度)	展示手法についての調査成果を展示 (チェコ・デザイン 100年の旅) に反映	高知県馬路村ほか
ウ 国立映画アーカイブ			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	映画の保存と活用	特集上映「逝ける映画人を偲んで2017-2018」「戦後日本ドキュメンタリー映画再考」「映画監督 河瀬直美」等に反映	—
2	映画監督 深作欣二の映画	特集上映「映画監督 深作欣二」を企画, 開催	—
3	ヨーロッパ諸国の映画	特集上映「EUフィルムデーズ2019」を企画, 開催	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関
4	近年逝去した映画人にかかわる映画	特集上映「逝ける映画人を偲んで2017-2018」を企画, 開催	—
5	日本の自主映画	特集上映「第41回びあフィルムフェスティバル」を企画, 開催	一般社団法人 PFF, 公益財団法人ユニジャパン, 公益財団法人川喜多記念映画文化財団
6	オーストリア映画およびハンガリー映画	特集上映「日澳洪国交樹立 150周年 オーストリア映画・ハンガリー映画特集」を企画, 開催	—
7	アメリカ議会図書館の所蔵映画	特集上映「アメリカ議会図書館 映画コレクション」を企画, 開催	アメリカ議会図書館
8	欧州を中心とする無声映画	特集上映「サイレントシネマ・デイズ 2019」を企画, 開催	—
9	オリンピック記録映画の歴史	特集上映「オリンピック記録映画特集—より高く, より早く, より強く」を企画, 開催	オリンピック文化遺産財団
10	戦後日本のドキュメンタリー映画	特集上映「戦後日本ドキュメンタリー映画再考」を企画, 開催	—

11	映画監督 河瀬直美の映画	特集上映「映画監督 河瀬直美」を企画、開催	—
12	映画イラストレーター宮崎祐治	展覧会「キネマ旬報創刊 100 年記念 映画イラストレーター宮崎祐治の世界」を企画、開催	—
13	日本の映画雑誌の歴史	展覧会「映画雑誌の秘かな愉しみ」を企画、開催	—
14	ポーランドの映画ポスター文化	展覧会「日本・ポーランド国交樹立 100 周年記念 ポーランドの映画ポスター」を企画、開催	京都国立近代美術館
15	映画資料の館外における展示	2つの小展示「映画ポスターにみるロシア・アヴァンギャルド」「モダン東京と映画館」を企画、開催	—
16	国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAP) 会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在調査	英国映画協会が所蔵する『かぐや姫』（田中喜次監督、1935 年）の複製購入等に反映	FIAP 会員、国内外の同種機関、現像所
17	可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録、アナログ及びデジタル技術を活用した復元及び映写	『日本南極探検』や『日本の娘』のデジタル復元等に反映	FIAP 会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等
18	映画におけるデジタル保存と活用	WEB サイト「映像でみる明治の日本」の開設等に反映	FIAP 会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、IT 関連研究教育機関、映画製作会社、映画関連団体、放送局、映像機器メーカー、現像所、IT 関連会社等
19	映画の収集のための原版の所在ならびに権利帰属等の情報収集と調査	上映企画「戦後ドキュメンタリー映画再考」等企画上映に伴う新規フィルム購入	映画製作会社等諸団体
20	映画資料を整理するとともに、その画像をデジタル化し、活用することを目的とする事業	「デジタル資料閲覧システム」の充実、館外における 2 展示企画（上記 15）の開催等に反映	—
21	東京を描いた文化・記録映画とホームムービー	東京国際フォーラム+国立映画アーカイブ月曜シネサロン&トーク	東京国際フォーラム
22	こどもを対象にした映画鑑賞プログラム	こども映画館、V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭、F シネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！	一般社団法人コミュニティシネマセンター
23	社会人を対象にした映画教室プログラム	映画の教室	—
24	映写技術・映画復元をテーマにした教育プログラム	NFAJ&J.S.A. アーカイブセミナー	協同組合日本映画・テレビ録音協会
25	映画に関わる若手クリエイターの育成支援プログラム	神戸発掘映画祭 2019 連携プログラム「発掘と研究」:NFAJ ボーンデジタル映画のアーカイビング第 2 回 Rising Filmmakers Project 次世代を拓く日本映画の才能を探して	神戸映像アーカイブ実行委員会
26	日本における 70 ミリ劇映画文化の受容とそのイメージの復元（科研費 基盤 B 研究代表者：富田美香、平成 31 年度～平成 33 年度）	フィルム及び文献調査	—
27	大正期から昭和初期における「皇室映画」の研究活用に向けた基礎調査（科研費 基盤 C 研究代表者：紙屋牧子、平成 30 年～令和 3 年）	資料収集及び所蔵資料の文献調査並びに研究成果の一部を、国立映画アーカイブ（相模原分館）で開催された研究機関等公開講座「国立映画アーカイブコース」における講座「映像遺産の保存と活用 - 昭和天皇の欧州旅行（1921 年）」において発表した。	—
エ 国立西洋美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	ル・コルビュジエとピュリスム	展覧会及び講演会等の開催、図録の刊行	ル・コルビュジエ財団
2	旧松方コレクションを含む松方コレクション全体	展覧会及び講演会等の開催、図録の刊行	—

3	フィンランド美術	展覧会及び講演会等の開催、図録の刊行	アテネウム美術館
4	ハプスブルク家のコレクションニズム	展覧会及び講演会等の開催、図録の刊行	ウィーン美術史美術館
5	イギリスにおけるヨーロッパ美術のコレクション形成	展覧会及び講演会等の開催、図録の刊行	ロンドン・ナショナル・ギャラリー
6	中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術	作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等	—
7	所蔵版画作品	作品収集、作品及び文献調査、展覧会の開催、刊行物、講演発表、解説等	—
8	美術館教育	教育普及プログラムの実施、鑑賞教育教材制作、インターンシップ、ボランティア指導、解説等	—
9	ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	教育普及プログラムの実施、文献及び図面調査	ル・コルビュジエ財団
10	在外松方コレクション資料の学術調査と美術品来歴研究（科研費 基盤B 研究代表者：馬淵明子，平成28～令和元年）	作品及び文献調査	—
11	近現代日本における人形とジェンダー（科研費 特別研究員奨励費 研究代表者：吉良智子，平成 29 年～令和元年）	作品及び文献調査	—
12	美術作品や歴史資料中の膠着剤の同定法の構築—方法の改善・発展と実践（科研費 基盤 C 研究代表者：高嶋美穂，令和元年～令和 5 年）	所蔵作品の保存のための基礎調査	—
オ 国立国際美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵作品	所蔵作品展の企画構成，作品の収集活動	—
2	日本の現代美術の動向	所蔵作品展の企画構成，作品の収集活動	—
3	海外の現代美術の動向	所蔵作品展の企画構成，作品の収集活動	—
4	抽象作品について	企画展「抽象世界」を企画構成，開催，図録を発行	—
5	ボルタンスキーについて	企画展「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」を企画構成，開催，図録を発行	国立新美術館，長崎県美術館
6	ウィーン世紀末の美術とデザイン	企画展「日本・オーストリア外交樹立 150 周年記念 ウィーン・モダン クリムト，シーレ 世紀末への道」を企画構成，開催，図録を発行	ウィーン・ミュージアム
7	20 世紀以降の先鋭的建築設計に関する研究	企画展「インポッシブル・アーキテクチャー—建築家たちの夢」を企画構成，開催，図録を発行	東北大学五十嵐太郎研究室，埼玉県立近代美術館，広島市現代美術館，新潟市美術館
8	久保田成子及び 1970 年代以後のビデオ・アートについて	展覧会の企画検討	東京都現代美術館，新潟県立近代美術館，Shigeko Kubota Video Art Foundation
9	写真家 鷹野隆大について	展覧会の企画検討	—
10	松澤宥について	展覧会の企画検討	長野県信濃美術館
11	所蔵作品のキュレーションについて	「They Do Not Understand Each Other」展（大館美術館（中国・香港））を共同研究・共同開催予定	大館美術館（香港），シンガポール美術館（シンガポール）
12	アジア圏におけるタイムベースド・メディアの研究	「They Do Not Understand Each Other」展（大館美術館（中国・香港））を共同研究・共同開催予定	大館美術館（香港），シンガポール美術館（シンガポール）
13	パフォーマンスについて	「They Do Not Understand Each Other」展（大館美術館（中国・香港））を共同研究・共同開催予定	大館美術館（香港），シンガポール美術館（シンガポール）

14	ヤン・ヴォーについて	企画展「ヤン・ヴォー ーオヴ・ンヤ」を企画構成、開催、図録を発行予定	—
15	児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	「美術館と学校がつながる学習プログラム開発研究会」の開催、大阪府教育センター、大阪市教育センターとの連携	—
16	美術館教育	「スクール・プログラムガイド」の作成、ワークショップ、鑑賞ツアー、各種鑑賞支援プログラムの実施	—
17	所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充、整備	独立行政法人国立美術館 所蔵作品総合目録検索システムにおける所蔵作品情報の充実	—
オ 国立新美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	日本の現代美術の動向	企画展「話しているのは誰？ 現代美術に潜む文学」を開催、企画展「古典×現代2020—時空を超える日本のアート」を開催	—
2	海外の現代美術の動向	企画展「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」を開催	—
3	オスマン帝国の美術工芸	企画展「トルコ文化年2019 トルコ至宝展 チュルリップの宮殿 トプカプの美」を企画構成、開催、図録発行、解説会等実施	トプカプ宮殿博物館
4	ウィーン世紀末の美術とデザイン	企画展「日本・オーストリア外交関係樹立150周年記念 ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」を企画構成、開催、図録刊行	ウィーン・ミュージアム
5	ボルタンスキーについて	企画展「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」を企画構成、開催、図録刊行、解説会等実施	国立国際美術館、長崎県美術館
6	ハイジュエリー研究	企画展「カルティエ、時の結晶」を企画構成、開催、図録発行、講演会等実施	カルティエ財団
7	ハンガリー美術とヨーロッパ美術	企画展「日本・ハンガリー外交関係開設 150 周年記念 ブダペスト国立西洋美術館 & ハンガリー・ナショナル・ギャラリー所蔵 ブダペスト—ヨーロッパとハンガリーの美術 400年」を企画構成、開催、図録発行、解説会等実施	ブダペスト国立西洋美術館 & ハンガリー・ナショナル・ギャラリー
8	日本のマンガ、アニメ、ゲーム	企画展「MANGA 都市 TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮 2020」開催予定	一般社団法人 マンガアニメ展示促進機構
9	日本のファッションとデザイン	企画展「ファッション イン ジャパン 1945-2020—流行と社会」開催予定	島根県立石見美術館
10	古典と現代	企画展「古典×現代 2020—時空を超える日本のアート」の企画構成、開催、図録発行	國華社
11	佐藤可士和	企画展「佐藤可士和展」開催予定	—
12	イヴ・サンローラン研究	企画展「イヴ・サンローラン展」(仮称) 開催予定	国立イヴ・サンローラン美術館
13	19世紀、20世紀のフランス美術	企画展「モロゾフ・シチューキン・コレクション展」(仮称) 開催予定	エルミタージュ美術館
14	アンリ・マティス	企画展「マティス展」(仮称) 開催予定	マティス美術館
15	具体と同時代美術	企画展「具体と同時代展」(仮称) 開催予定	—
16	Manga の展覧会企画運営と展示手法について	大英博物館のマンガ展「The Citi exhibition Manga」(2019年5月23日～8月26日)への企画協力、開催協力	大英博物館
17	美術館の教育普及事業(ワークショップ、鑑賞ガイド等)	企画展ジュニアガイドを制作・配布 夏休みこどもたんけんツアー、建築ツアー、アーティスト・ワークショップ、「かようびじゅつかん」等を開催	—

18	日本の近・現代美術資料	日本の近・現代美術に関する資料を収集し、公開に向けた整理を進めた	—
19	戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開	「日本の美術展覧会記録1945-2005」の公開	—
20	美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法	田中千代関係資料，秋山画廊関係資料，瀬木慎一関係資料，近藤竜男資料の整理と編成記述を進めた	—
21	美術情報の収集・提供システム	展覧会情報収集・提供システム「アートコモンズ」の公開	—
22	美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	国立美術館美術情報総合検索，「ジャパンサーチ」，「文化遺産オンライン」等外部連携の推進	—
23	写真・映像の「影響」から見た日本の前衛芸術——昭和戦前期を中心に（代表者・谷口英理 基盤研究C）	戦前期の作家資料に含まれる写真資料の保存・活用の方針を検討した	甲南学園長谷川三郎記念ギャラリー，福沢一郎記念館
24	戦後日本における野外彫刻の写真資料に関するデジタル化とデータベース構築（代表者・坂口英伸 公益財団法人ポーラ美術振興財団 美術館職員の調査研究助成）	戦後の写真資料のデジタル化・保存・データベース化を目指して実施した	太平洋セメント株式会社
25	近現代日本のセメント美術に関する研究（代表者・坂口英伸 科学研究費助成事業 挑戦的研究（萌芽））	近現代のセメント美術を通史的に捕捉する研究を行った	—

別表7 展覧会図録における執筆

本稿が国立美術館の実績報告書であることに鑑み、共同研究・共同発表・共同執筆等における氏名及び職名については、ここでは基本的に国立美術館所属者のもののみを記載することとする。以下同様とする。

ア 東京国立近代美術館			
(本館)			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	高畑勲の演出術—アニメーションにおける風景の美学	鈴木勝雄 (主任研究員)	高畑勲展—日本のアニメーションに遺したものの
2	窓からの眺め，リミックス	蔵屋美香 (美術課長)	窓展：窓をめぐるアートと建築の旅
3	東京でピーター・ドイグについて想像する	榊田倫広 (主任研究員)	ピーター・ドイグ展
4	「漂流」	榊田倫広 (主任研究員)	ピーター・ドイグ展
5	ピーター・ドイグ対談	榊田倫広 (主任研究員)	ピーター・ドイグ展
6	「東京国立近代美術館とその彫刻コレクションについて」	大谷省吾 (美術課長)	国立美術館巡回展 きっかけは「彫刻」。近代から現代までの日本の彫刻と立体造形
(工芸館)			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「土」のなかに「日本」はあった？／掘り起こしたあとに，何が建ったか	花井久穂 (主任研究員)	MOMAT コレクション 1950s-1960s 「土」のなかに「日本」はあった？／掘り起こしたあとに，何が建ったか
2	「竹工芸の周辺からみた近代工芸の歩み」，作家解説	中尾優衣 (主任研究員)	竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクション—メトロポリタン美術館所蔵
イ 京都国立近代美術館			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「河井寛次郎と川勝堅一 友情が生んだ珠玉のコレクション」，河井寛次郎年譜	大長智広 (研究員)	川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎

2	「陶工・河井寛次郎」	松原龍一 (特任研究員)	川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎
3	「発刊によせて」	柳原正樹 (館長)	川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎
4	作品解説	梶岡秀一 (主任研究員)	トルコ至宝展 チューリップの宮殿 ト ブカブの美
5	作品解説	松原龍一 (特任研究員)	トルコ至宝展 チューリップの宮殿 ト ブカブの美
6	「着る人たちのゲーム—登場人物紹介」, 作品解説	牧口千夏 (主任研究員)	ドレス・コード?—着る人たちのゲー ム
7	作品解説, 画家解説	小倉実子 (主任研究員)	円山応挙から近代京都画壇へ
8	「円山・四条派の系譜」, 章解説, 作品解説, 画家解説, 系 譜図	平井啓修 (研究員)	円山応挙から近代京都画壇へ
9	「ニーノ・カルーソと日本」, 解説	大長智広 (研究員)	記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の 巨匠 ニーノ・カルーソ
10	ポスター作家略歴	池田祐子 (学芸課長)	ポーランドの映画ポスター
ウ 国立映画アーカイブ			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	作品解説	岡田秀則 (主任研究員)	「ポーランドの映画ポスター」展
2	作品解説	濱田尚孝 (特定研究員)	「ポーランドの映画ポスター」展
エ 国立西洋美術館			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「重役私財提供と松方コレクション売立」	川口雅子 (主任研究員)	国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方コレクション展
2	「松方コレクション 百年の流転」 章解説, 作品解説	陳岡めぐみ (主任研究員)	国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方コレクション展
3	「ロダンの《地獄の門》の鑄造をめぐる物語」	馬淵明子 (館長)	国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方コレクション展
4	作品解説	袴田紘代 (主任研究員)	国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方コレクション展
5	作品解説	中田明日佳 (主任研究員)	国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方コレクション展
6	作品解説	新藤淳 (主任研究員)	国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方コレクション展
7	作品解説	渡辺晋輔 (主任研究員)	国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方コレクション展
8	「フィンランド近代美術のあゆみ 1870-1910」 コラム「素描・スケッチブック—フィンランド人女性芸術家 の美術教育をめぐる」	久保田有寿 (特定研究員)	日本・フィンランド外交関係樹立 100 周年記念 モダン・ウーマン—フィン ランド美術を彩った女性芸術家たち
9	作品解説	飯塚隆 (主任研究員)	日本・オーストリア友好 150 周年記念 ハプスブルク展 600 年にわたる帝国 コレクションの歴史
10	作品解説	川瀬祐介 (主任研究員)	日本・オーストリア友好 150 周年記念 ハプスブルク展 600 年にわたる帝国 コレクションの歴史
11	作品解説	新藤淳 (主任研究員)	日本・オーストリア友好 150 周年記念 ハプスブルク展 600 年にわたる帝国 コレクションの歴史
12	「ルドルフ 2 世の版画および銅版コレクション」, 章解 説, 作品解説	中田明日佳 (主任研究員)	日本・オーストリア友好 150 周年記念 ハプスブルク展 600 年にわたる帝国 コレクションの歴史

13	作品解説	袴田紘代 (主任研究員)	日本・オーストリア友好 150 周年記念 ハブスブルク展 600 年にわたる帝国 コレクションの歴史
14	作品解説	渡辺晋輔 (主任研究員)	日本・オーストリア友好 150 周年記念 ハブスブルク展 600 年にわたる帝国 コレクションの歴史
15	「スペイン絵画の発見」, 作品解説	川瀬祐介 (主任研究員)	ロンドン・ナショナル・ギャラリー展
16	コラム「ゴッホの「ひまわり」の連作を巡って」	久保田有寿 (特定研究員)	ロンドン・ナショナル・ギャラリー展
オ 国立国際美術館			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「「コレクション特集展示 ジャコモッティと」 解題 一矢 内原伊作を通じたジャコモッティの受容とその展開の試 み」	橋本梓 (主任研究員)	コレクション特集展示 ジャコモッティ と I, コレクション特集展示 ジャコ モッティと II
2	作家解説	池田あゆみ (研究補佐員)	抽象世界
3	「盛衰の抽象, 発見の芸術」, 作家解説	中西博之 (主任研究員)	抽象世界
4	「表現することの逆説」, 節解説	福元崇志 (主任研究員)	日本・オーストリア外交樹立 150 周年 記念 ウィーン・モダン クリムト, シ ーレ 世紀末への道
5	「メタボリズムの誕生とアジアへの敷衍」, プロジェクト解 説, 作家略歴	中井康之 (副館長兼学芸課長)	インポッシブル・アーキテクチャー ー 建築家たちの夢
6	プロジェクト解説, 作家略歴	尹志慧 (研究補佐員)	インポッシブル・アーキテクチャー ー建築家たちの夢
7	プロジェクト解説, 作者略歴	尹志慧 (研究補佐員)	インポッシブル・アーキテクチャー ー建築家たちの夢
カ 国立新美術館			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	節解説「ビーダーマイアー時代の絵画」, コラム, 作品解説 (翻訳), 年表, 参考文献	中江花菜 (研究補佐員)	ウィーン・モダン クリムト, シーレ 世 紀末への道
2	「エミーリエのドレスとクリムトのスモックはファッション だったのか?—総合芸術としてのリフォーム・ドレス (改 良服)」, コラム	本橋弥生 (主任研究員)	ウィーン・モダン クリムト, シーレ 世 紀末への道
3	略歴, 主要刊行物	勝田琴絵 (研究補佐員)	話しているのは誰? 現代美術に潜む文 学
4	略歴, 主要刊行物	瀧上華 (特定研究員)	話しているのは誰? 現代美術に潜む文 学
5	「現代美術に潜む文学」, 作家解説「田村友一郎」「ミヤギ フトシ」「小林エリカ」「豊嶋康子」「山城知佳子」「北島 敬三」	米田尚輝 (主任研究員)	話しているのは誰? 現代美術に潜む文 学
6	「カルティエの歩み—1970 年代から現代まで」	久松美奈 (研究補佐員)	カルティエ、時の結晶
7	「カルティエ、時の結晶」	本橋弥生 (主任研究員)	カルティエ、時の結晶
8	論文 (翻訳), 作品解説 (翻訳)	中江花菜 (研究補佐員)	ブダペスト国立西洋美術館 & ハンガ リー・ナショナル・ギャラリー所蔵ブダ ペスト—ヨーロッパとハンガリーの美 術 400 年
9	「フランツ・リストの『ハンガリー狂詩曲第 16 番』とムン カーチ・ミハイの《フランツ・リストの肖像》」, 「ハン ガリーの芸術家コロニー ソルノク, ナジバーニャ, ケチケ メート, センテンドレ」, 論文(翻訳), 作家解説 (翻訳)	宮島綾子 (主任研究員)	ブダペスト国立西洋美術館 & ハンガ リー・ナショナル・ギャラリー所蔵ブダ ペスト—ヨーロッパとハンガリーの美 術 400 年

10	作品解説（翻訳）	渡辺晋輔 （主任研究員）	ブダペスト国立西洋美術館 & ハンガリー・ナショナル・ギャラリー所蔵ブダペストヨーロッパとハンガリーの美術 400 年
11	作家解説，現代作家略歴	勝田琴絵 （研究補佐員）	古典×現代 2020 時空を超える日本のアート
12	「時を超えた対話—古典と現代」，章解説，作家解説	長屋光枝 （学芸課長）	古典×現代 2020 時空を超える日本のアート
13	作家解説，現代作家略歴	山田由佳子 （主任研究員）	古典×現代 2020 時空を超える日本のアート

別表 8 研究紀要における執筆

ア 東京国立近代美術館				
(本館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「資料紹介 瑛九から山田光春への書簡 1938-1955 年」	大谷省吾 (美術課長)	『東京国立近代美術館研究紀要』24 号	R2.3.31
2	「研究ノート 1977 年の中平卓馬」	増田玲 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』24 号	R2.3.31
(工芸館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1.	「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクション—メトロポリタン美術館所蔵」記念シンポジウム（編集）	中尾優衣 (主任研究員)	『東京国立美術館研究紀要』第 24 号	R2.3.31
2.	「世界のポスター展」について その 2: 出展作品研究	野見山桜 (客員研究員)	『東京国立美術館研究紀要』第 24 号	R2.3.31
イ 京都国立近代美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1.	「雑誌『カメラ・ワーク』における分離派的なるものと日本的なるものの交差について」	池田祐子 (学芸課長)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.9』	R1.10.15
2.	「ドレスデン工芸博物館における型紙コレクション—その足跡を探して」（翻訳・解説）	池田祐子 (学芸課長)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.9』	R1.10.15
3.	「オーダーメイド：それぞれの展覧会」	牧口千夏 (主任研究員)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.9』	R1.10.15
4.	「『感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業』について」	松山沙樹 (特定研究員)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.9』	R1.10.15
5.	巻頭あいさつ	柳原正樹 (館長)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.9』	R1.10.15
6.	「七彩に集った作家たち」	柳原正樹 (館長)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.9』	R1.10.15
7.	「記念対談『七彩を語る』＝藤井秀雪×柳原正樹」	柳原正樹 (館長)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.9』	R1.10.15
8.	「赤瀬川原平の千円札——『偽札事件の模倣』としての解釈の試み——」	渡邊くらら (研究補佐員)	京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS —Vol.9』	R1.10.15
ウ 国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日

1.	「国際シンポジウム『近代の女性芸術家たち：フィンランドと日本』報告」	久保田有寿 (特定研究員)	国立西洋美術館研究紀要 No.24	R2.3.31
ウ 国立新美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「マーク・ロスコの1940年代後半における造形理論と筆触—マルチフォーム絵画作品群の意義—」	勝田琴絵 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』第6号	R1.12.26
2	「フリードリヒ・フォン・アメリンク《東方の女性》：19世紀初頭におけるドメニキョノ受容の観点からの一試論」	中江花菜 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』第6号	R1.12.26
3	「マックス・クリンガーの〈間奏曲集〉Opus IVの構成と音楽との関連についての一考察—ローベルト・シューマンの〈間奏曲集〉Op.4との比較を通じて」	中村亮介 (情報研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』第6号	R1.12.26

別表9 館ニュースにおける執筆

ア 東京国立近代美術館				
(本館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「作品研究：近代日本の美術とワニス—岸田劉生の油絵修復から見えてきたもの」	都築千重子 (主任研究員)	『現代の眼』631号	H31.4.1
2	「新しいコレクション：野島康三《女》」	増田玲 (主任研究員)	『現代の眼』631号	H31.4.1
3	「新しいコレクション：横山大観《白衣観音》」	鶴見香織 (主任研究員)	『現代の眼』632号	R1.7.1
4	「作品研究：岡本太郎《コントロールポアン》をめぐるって」	岩田ゆづ子 (研究補佐員)	『現代の眼』633号	R1.10.1
5	「後記」(<On View>鏑木清方 幻の《築地明石町》特別公開)	鶴見香織 (主任研究員)	『現代の眼』633号	R1.10.1
6	「新しいコレクション：アンソニー・カロ《ラップ》」	三輪健仁 (主任研究員)	『現代の眼』633号	R1.10.1
7	「世界をひとつの「庭」として」	大谷省吾 (美術課長)	『現代の眼』634号	R2.1.1
8	「後記」(フランス窓はなぜ「未亡人」でなければならないのか)	藏屋美香 (企画課長)	『現代の眼』634号	R2.1.1
9	「新しいコレクション：丸木俊《解放され行く人間性》」	保坂健二郎 (主任研究員)	『現代の眼』634号	R2.1.1
10	「作品研究：写真の向きをめぐる謎—《ジョージア・オキーフ：ある肖像—手と指貫》について」	増田玲 (主任研究員)	『現代の眼』634号	R2.1.1
(工芸館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「作品研究：近代日本の美術とワニス—岸田劉生の油絵修復から見えてきたもの」	都築千重子 (主任研究員)	『現代の眼』631号	H31.4.1
2	「新しいコレクション：野島康三《女》」	増田玲 (主任研究員)	『現代の眼』631号	H31.4.1

3	「新しいコレクション：横山大観《白衣観音》」	鶴見香織 (主任研究員)	『現代の眼』632号	R1.7.1
4	「作品研究：岡本太郎《コントロールポアン》をめぐるって」	岩田ゆづ子 (研究補佐員)	『現代の眼』633号	R1.10.1
5	「後記」(<On View> 鎌木清方 幻の《築地明石町》特別公開)	鶴見香織 (主任研究員)	『現代の眼』633号	R1.10.1
6	「新しいコレクション：アンソニー・カロ《ラップ》」	三輪健仁 (主任研究員)	『現代の眼』633号	R1.10.1
7	「世界をひとつの「庭」として」	大谷省吾 (美術課長)	『現代の眼』634号	R2.1.1
8	「後記」(フランス窓はなぜ「未亡人」でなければならぬのか)	藏屋美香 (企画課長)	『現代の眼』634号	R2.1.1
9	「新しいコレクション：丸木俊《解放され行く人間性》」	保坂健二郎 (主任研究員)	『現代の眼』634号	R2.1.1
10	「作品研究：写真の向きをめぐる謎—《ジョージア・オキーフ：ある肖像—手と指貫》について」	増田玲 (主任研究員)	『現代の眼』634号	R2.1.1
イ 京都国立近代美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「新しい美術鑑賞のかたちをさがして」	松山沙樹 (特定研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』500号	R1.8.23
2	「2018年度収蔵作品について：ロヴィス・コリント《樫の木》」	池田祐子 (学芸課長)	『ZEPHYROS』第81号	R1.11.20
3	「新収蔵作品紹介 ローズマリー・トロッケル《I wonder》(2016年)」	牧口千夏 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』504号	R2.2.28
ウ 国立映画アーカイブ				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「シネマテーク上映のこれから」	岡島尚志 (館長)	『NFAJ ニュースレター』第5号	H31.4.1
2	「イラストを見た人が、その映画を観るきっかけになれば嬉しい。宮崎祐治インタビュー」	岡田秀則 (主任研究員) 濱田尚孝 (客員研究員)	『NFAJ ニュースレター』第5号	H31.4.1
3	「映画が歴史を語る時 ジャクソンとゴダール」	岡島尚志 (館長)	『NFAJ ニュースレター』第6号	R1.7.1
4	萩原憲治氏インタビュー「追悼：米田実 先輩には本当によくしてくれた」	岡田秀則 (主任研究員) 大澤浄 (主任研究員) 佐野亨 (客員研究員)	『NFAJ ニュースレター』第6号	R1.7.1
5	田口晴久氏インタビュー「追悼：米田実 怒った顔が般若のように怖かった」	岡田秀則 (主任研究員) 大澤浄 (主任研究員) 佐野亨 (客員研究員)	『NFAJ ニュースレター』第6号	R1.7.1
6	「フィルムアーカイブの諸問題 第105回 世界最古の映画会社ゴーモン、そしてパテにおける映画保存」	紙屋牧子 (特定研究員)	『NFAJ ニュースレター』第6号	R1.7.1

7	「アーネスト・リングドレンの夢」	岡島尚志 (館長)	『NFAJ ニュースレター』第7号	R1.10.1
8	「フレディ・ビュアシュを見送る—FIAF ローザ ンヌ会議報告」	岡田秀則 (主任研究員)	『NFAJ ニュースレター』第7号	R1.10.1
9	「議会図書館映画コレクションに見るアメリカ 精神史の記録」	大澤浄 (主任研究員) 玉田健太 (特定研究員)	『NFAJ ニュースレター』第7号	R1.10.1
10	ピーター・カーウィ「より速く、より高く、より 強く——オリンピック記録映画に寄せて」	篠儀直子 (客員研究員)	『NFAJ ニュースレター』第7号	R1.10.1
11	企画の見所 4 映画雑誌の秘かな愉しみ 日本の 映画雑誌、百年を超えて	佐崎順昭 (客員研究員)	『NFAJ ニュースレター』第7号	R1.10.1
12	「ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベ ント 『日本の娘』——その背後にあったもの」	富田美香 (主任研究員)	『NFAJ ニュースレター』第7号	R1.10.1
13	過ぎ去ったパレードの再来 ケヴィン・ブラウン ロウ著 『サイレント映画の黄金時代』の出版に寄せて	岡島尚志 (館長)	『NFAJ ニュースレター』第8号	R2.1.1
14	「私と世界をひらくために 河瀬直美監督イン タビュー」	佐野亨 (客員研究員) 大澤浄 (主任研究員) 岡田秀則 (主任研究員)	『NFAJ ニュースレター』第8号	R2.1.1
15	「河瀬直美監督作品一覧」	佐野亨 (客員研究員)	『NFAJ ニュースレター』第8号	R2.1.1

エ 国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「開館 60 周年を迎えて」	馬淵明子 (館長)	『ZEPHYROS』第79号	R1.5.20
2	企画展「国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方 コレクション展」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『ZEPHYROS』第79号	R1.5.20
3	特別展「日本・フィンランド外交関係樹立 100 周 年記念 モダン・ウーマン—フィンランド美術を 彩った女性芸術家たち」	久保田有寿 (特定研究員)	『ZEPHYROS』第79号	R1.5.20
4	企画展「日本・オーストリア友好 150 周年記念 ハプスブルク展 600 年にわたる帝国コレクシ ョンの歴史」	中田明日佳 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第80号	R1.8.20
5	小企画展 内藤コレクション展「ゴシック写本の 小宇宙—文字に棲まう絵、言葉を越えてゆく絵」	新藤淳 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第80号	R1.8.20
6	「2018 年度収蔵作品について ケル＝グザヴィ エ・ルーセル《小道の聖母マリア》」	袴田紘代 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第81号	R1.11.20
7	「五期ボランティア、ただいま養成研修中」	酒井敦子 (研究員)	『ZEPHYROS』第81号	R1.11.20
8	企画展「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」	川瀬佑介 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第82号	R2.2.20
9	小企画展 内藤コレクション展II「中世からルネ サンスの写本 祈りと絵」	中田明日佳 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第82号	R2.2.20
10	本館建物 Q&A	福田京 (専門員)	『ZEPHYROS』第82号	R2.2.20

オ 国立国際美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「兵庫県立近代美術館との協働 (一) 《MADO 或いは返信＝埒外のものを愛せよ》」	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』231号	H31.4.1
2	「館蔵品紹介：米田知子《空地Ⅰー市内最大の仮 設住宅跡地から震災復興住宅をのぞむ》」	中井康之 (副館長兼学芸課長)	『国立国際美術館ニュース』231号	H31.4.1
3	「兵庫県立近代美術館との協働 (二) 内から外へ、 外から内へ」	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』232号	R1.6.1
4	「館蔵品紹介：山崎つる子《Work》」	安來正博 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』232号	R1.6.1
5	「再び担ぐ」	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』233号	R1.8.1
6	「館蔵品紹介：田淵安一 (ヤス・タブチ) 《未完 の季節 No.7 ある午後》」	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』233号	R1.8.1
7	「ロバート・ラウシェンバーク《至点》の修復ー 展示をとおして保存を考える」	小川絢子 (特定研究員)	『国立国際美術館ニュース』234号	R1.10.1
8	「館蔵品紹介：饒加恩 (ジャオ・チアエン) 《レ ム睡眠》」	植松由佳 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』234号	R1.10.1
9	「異質な上映空間 ー中之島映像劇場について ①ー」	田中晋平 (客員研究員)	『国立国際美術館ニュース』235号	R1.12.1
10	「館蔵品紹介：池水慶一《象の足音》」	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』235号	R1.12.1
11	「閉鎖的映画 ー中之島映像劇場について②ー」	田中晋平 (客員研究員)	『国立国際美術館ニュース』236号	R2.2.1
12	「館蔵品紹介：榎尾正次《貌》」	安來正博 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』236号	R2.2.1

別表 10 館外の学術雑誌, 学会等における調査研究成果の発信

ア 東京国立近代美術館						
(本館)						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	シンポジウム「芸術は、あらゆる学問とつながり社会を拓いていく」	美術と教育 全国リサーチプロジェクト	一條彰子 (主任研究員)	R2.1.29	東京藝術大学	50
2	「「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」で伝えたかったこと」	福沢一郎記念美術財団	大谷省吾 (美術課長)	H31.4.27	福沢一郎記念館	50
3	「東京国立近代美術館コレクションから日本の「近代」の「彫刻」を考える」	国立美術館巡回展「きっかけは「彫刻」。近代から現代までの日本の彫刻と立体造形」	大谷省吾 (美術課長)	R1.9.21	熊本市現代美術館	60
4	「NYと東京、図書館の新しいかたち」	Booked x BIOCITY x studio-L	長名大地 (研究員)	R2.1.18	アーツ千代田 3331	15
5	「美術書翻訳の舞台裏」	アートミュージアム・アンヌアーレ 2019 フォーラム	長名大地 (研究員)	R1.11.14	パシフィコ横浜 (図書館総合展 内第5会場)	65

6	「作品の見方がわからないと美術はなかなか楽しくならない。美術の歴史を知らない現代美術も実は楽しくない。このへんを解消する講座」	THINK SCHOOL	蔵屋美香 (企画課長)	R1.9.7	THINK SCHOOL (さっぽろ駅前通まちづくり公社)	20
7	「地震のあとさき：過去と未来を見ることについて」	特別講義	蔵屋美香 (企画課長)	R.2.1.8	東京藝術大学壁画第一研究室	50
8	「くらしにアートの窓をひらこうー『窓展：窓をめぐるアートと建築の旅』から」	アトリエ MUJI	蔵屋美香 (企画課長)	R2.1.16	無印良品 銀座	40
9	「僕らの芸術時代 アラウンド 80's」	CADAN:現代美術	蔵屋美香 (企画課長)	R2.2.15	寺田倉庫 B&C Hall	60
10	「滞在クリエイターによるトーク」	オープンスタジオ 2019 - 2020	蔵屋美香 (企画課長)	R2.3.15	トーキョーアーツアンドスペースレジデンシー	感染症対策のため無観客開催
11	「東山魁夷の世界ーその生涯と作品」	日本経済新聞社主催連続講座	鶴見香織 (主任研究員)	R1.12.4	日本経済新聞東京本社セミナールーム	50
12	The New Role of Architects and Private Collectors for the Institution of Art	"Contemporary Curating Rethink: In the Context of Asia and Beyond," Curators' Intensive Taipei 19 (CIT 19)	保坂健二郎 (主任研究員)	R1.10.11	台北市立美術館	150
13	PLURALITY—ART BRUT, CONTEMPORARY ART, CITIZEN ART	2019 Thailand X Japan Project International Research Forum: Art Activities of Disabled People in Asia	保坂健二郎 (主任研究員)	R1.10.19	Bangkok Art and Culture Centre	30
14	(On the collection and architecture exhibitions at MOMAT)	M+ International × Mori Art Museum What do collections mean to museums?	保坂健二郎 (主任研究員)	R1.9.26	森美術館	20
15	(On the community and Japanese contemporary art)	The Harvard GSD Japan Urban Research Project – Preliminary Roundtable	保坂健二郎 (主任研究員)	R1.12.16	竹中工務店東京本店	20
16	「美術館の教育普及活動」	第10回東京学芸大学美術教育研究会(AEL)	細谷美宇 (特定研究員)	R1.11.3	東京学芸大学	20
17	「Awakenings: Art in Society in Asia 1960s-1990s」キュレーター・ラウンドテーブル・トーク	ナショナル・ギャラリー・シンガポール 主催トーク	榊田倫広 (主任研究員)	R.1.6.14	ナショナル・ギャラリー・シンガポール	100
18	「オープニングトーク」	トーキョーアーツアンドスペース	榊田倫広 (主任研究員)	R.1.7.20	トーキョーアーツアンドスペース	30
19	「公開講評会」	東北芸術工科大学	榊田倫広 (主任研究員)	R2.2.9	東北芸術工科大学	40
20	「作家とゲストによる対談／濱田祐史×増田玲」	「至近距離の宇宙：日本の新進作家 Vol.16」展関連イベント	増田玲 (主任研究員)	R1.12.20	東京都写真美術館	40
21	「墓場とゾンビ ミュージアムで映像を展示すること」	一般社団法人アーツプラス	三輪健仁 (主任研究員)	R1.11.28	Taguchi Art Collection	30
B. 雑誌等論文掲載						
学術書籍、研究報告書等の発行						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	発行者	発行年月日		
1	「美術館の所蔵作品を活用した探求的な鑑賞のためのデジタル教材」	一條彰子 (主任研究員)	美術家教育学会千葉大会概要集	R2.3.27		

2	「もっと知りたい 岸田劉生」	蔵屋美香 (企画課長)	東京美術	R1.8.31
3	「鏑木清方原寸美術館 100%KIYOKATA」	鶴見香織 (主任研究員)	小学館	R1.10.23
4	「保存と展示の葛藤—荒川修作《作品》のエクス線解析から」	榊田倫広 (主任研究員)	『現代美術の保存と修復—その理念・方法・情報のネットワーク構築のために』	R.2.3
【査読有り】論文掲載				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「第二次世界大戦下のアメリカにおける美術の変容: シュルレアリスム、素朴派、抽象表現主義」	長名大地 (研究員)	一橋大学, 博士(学術)	R2.3
2	「東京国立近代美術館における図書館業務: 美術館と図書館との連携への展望について」	長名大地 (研究員)	『大学図書館研究』112号	R1.8
【査読無し】論文掲載				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「日本アヴァンギャルド美術家クラブをめぐる」	大谷省吾 (美術課長)	『近代画説』28号(明治美術学会)	R1.12.14
2	「東京国立近代美術館のアーカイブズ資料と夢土画廊資料について」	長名大地 (研究員)	『平成30年度全国美術館会議: 第33回学芸員研修会報告書』(全国美術館会議情報資料部会)	R2.2
3	「第二次世界大戦下におけるピエール・マティス画廊の役割: ヨーロッパとアメリカの美術交流を中心に」	長名大地 (研究員)	『鹿島美術研究: 年報別冊』36号	R1.11
4	「国立国会図書館「ジャパンスーチ発進! ~連携拡大に向けて」参加記」	長名大地 (研究員)	『アート・ドキュメンテーション通信』123号(アート・ドキュメンテーション学会)	R1.10
5	「カタログ・レゾネ: 国立西洋美術館国際シンポジウム<報告>」	長名大地 (研究員)	『カレントアウェアネス E』377号(国立国会図書館)	R1.10
6	「図書館員の本棚: 権利処理と法の実務 福井健策監修, 数藤雅彦編」	長名大地 (研究員)	『図書館雑誌』113巻10号	R1.10
7	「美術館図書室 SIG 解題リレーレファレンスブック・ガイド20」	石川明子 (研究補佐員)	『アート・ドキュメンテーション通信』124号(アート・ドキュメンテーション学会)	R2.1
8	「第75回見学会国立国会図書館東京本館見学報告」	金子倫子 (研究補佐員)	『アート・ドキュメンテーション通信』123号(アート・ドキュメンテーション額会)	R1.10
9	「秘密の引き出し: ドローイングとは何なのか」	蔵屋美香 (企画課長)	『日高理恵子 村瀬恭子 吉澤美香 ドローイングから。』(多摩美術大学)	R2.3.10
10	「作品解説」	蔵屋美香 (企画課長)	The Life of Animals in Japanese Art, Washington National Gallery and Los Angeles County Museum	R2.7.2
11	「抽象ラジオ」	蔵屋美香 (企画課長)	田中功起作品《抽象家族》におけるラジオレクチャー(あいちトリエンナーレ)	R2.8.1
12	Art Brut Series No. 9, Art Work Description: On Kiyoshi Toya	保坂健二郎 (主任研究員)	Psychiatry and Clinical Neurosciences	R1.5~6
13	Art Brut Series No. 10, Art Work Description: On Koichi Yashima	保坂健二郎 (主任研究員)	Psychiatry and Clinical Neurosciences	R1.7~8
14	Art Brut Series No. 11, Art Work Description: On Koichi Yashima	保坂健二郎 (主任研究員)	Psychiatry and Clinical Neurosciences	R1.9~10
15	「建築展におけるグラフィック・デザインの役割について—ヴェネチア、ミュンヘン、モントリオールの展覧会調査をもとに」	保坂健二郎 (主任研究員)	『DNP 文化振興財団 学術研究助成紀要 vol. 2』(公益財団法人 DNP 文化振興財団)	R1.11.22

16	Art Brut Series No. 12, Art Work Description: On Makoto Fukui	保坂健二郎 (主任研究員)	Psychiatry and Clinical Neurosciences	R1.11~12
17	Art Brut Series No. 13, Art Work Description: On Yokota Isao	保坂健二郎 (主任研究員)	Psychiatry and Clinical Neurosciences	R2.1~2
18	座談会 ケアとは何か アール・ブリュットから受けとるもの	保坂健二郎 (主任研究員)	『看護管理』(医学書院)	R2.1.10
19	「Post について」	増田玲 (主任研究員)	田中崇嗣写真集『Post』(da大 in print)	R1.8
その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「美術館で行う、ビジネスパーソン向けの鑑賞セミナー」	一條彰子 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (Web)	R1.10.29
2	「東京国立近代美術館が対話鑑賞に注力」	一條彰子 (主任研究員)	Forbes Japan (Web)	R1.6.5
3	「アートに正解はない」。東京国立近代美術館がビジネスパーソン向けの対話鑑賞プログラムを行う理由」	一條彰子 (主任研究員)	美術手帖(Web)	R1.6.26
4	「井上直の絵画 時間、自然、生命」	大谷省吾 (美術課長)	『井上直』Art Space Kimura	R1.8.6
5	「奥谷博 生と死をめぐる造形」	大谷省吾 (美術課長)	『美術の窓』432号(生活の友社)	R1.9.20
6	「『福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ』で伝えなかったこと」	大谷省吾 (美術課長)	『福沢一郎記念館ニュース』 50号	R1.10.8
7	「近代美術の眼 北脇昇《周易解理図(乾坤)》」	大谷省吾 (美術課長)	『読売新聞』都内版	R2.2.14
8	「第56回情報・資料研究部会合報告」	長名大地 (研究員)	全国美術館会議ホームページ	R2.1.31
9	「窓展:窓をめぐるアートと建築の旅」	藏屋美香 (企画課長)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (Web)	R1.12.23
10	「美術館が行う、ビジネスパーソン向けの鑑賞セミナー」	滝本昌子 (渉外・広報課長)	全国美術館会議機関誌 「ZENBI vol.17」	R2.1.31
11	「第87回日本版画協会展覧評」	都築千重子 (主任研究員)	『日本版画協会展覧会報』169号 (日本版画協会)	R2.1
12	<アート>「籙木清方 幻の《築地明石町》特別公開」	鶴見香織 (主任研究員)	『ミセス』12月号	R1.11.7
13	「籙木清方 幻の《築地明石町》特別公開」	鶴見香織 (主任研究員)	『新美術新聞』11月11日号	R1.11.7
14	「近代美術の眼 籙木清方《築地明石町》」	鶴見香織 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	R1.11.8
15	「近代美術の眼 村井正誠《URBAIN》」	古館遼 (任期付研究員)	『読売新聞』都内版	R1.10.11
16	「美術 百年の編み手たち」	保坂健二郎 (主任研究員)	『すばる』(集英社)	R1.5.6
17	「美術 中山英之」	保坂健二郎 (主任研究員)	『すばる』(集英社)	R1.7.6
18	「美術 あいちトリエンナーレ」	保坂健二郎 (主任研究員)	『すばる』(集英社)	R1.9.6
19	「美術 いのち耕す場所」	保坂健二郎 (主任研究員)	『すばる』(集英社)	R1.11.6
20	「農業から見えるこの国の課題。 「青森 EARTH2019:いのち耕す場所-農業がひらくアートの未来」」	保坂健二郎 (主任研究員)	『美術手帖(ウェブ版)』(美術出版社)	R1.11.30
21	「美術 ㊦展」	保坂健二郎 (主任研究員)	『すばる』(集英社)	R2.4.20
22	「美術 未来と芸術展」	保坂健二郎 (主任研究員)	『すばる』(集英社)	R2.3.6
23	「レビュー 谷崎桃子」	榊田倫広 (主任研究員)	TOKAS-Emerging 2019	R.1.12.20

24	「レビュー 砂田百合香」		梶田倫広 (主任研究員)	TOKAS-Emerging 2019	R.1.12.20	
25	「レビュー 小田原のどか」		梶田倫広 (主任研究員)	TOKAS-Emerging 2019	R.1.12.20	
26	「近代美術の眼 伊藤義彦《公園 - III》」		増田玲 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	R1.6.14	
27	「追悼・奈良原一高：撮ることで「今日生きること」を考えた」		増田玲 (主任研究員)	週刊読書人（読書人）	R2.2.21	
28	「近代美術の眼 安井曾太郎《奥入瀬の溪流》」		三輪健仁 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	R1.12.13	
(工芸館)						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「The 備前一土と炎から生まれる造形美」展ギャラリートーク	益子陶芸美術館	唐澤昌宏 (工芸課長)	R1.5.19	益子陶芸美術館 展示室	35
2	「つくり手の言葉から工芸を考える」	日本工芸会富山支部	唐澤昌宏 (工芸課長)	R1.5.24	高岡市美術館 ビートークホール	43
3	「近現代の備前陶芸一写しから創作へ」	山口県立萩美術館・浦上記念館	唐澤昌宏 (工芸課長)	R1.7.13	山口県立萩美術館・浦上記念館 講堂	55
4	総合討論「北海道における陶磁文化の歴史と特質、そして未来」	東洋陶磁学会第47回大会 江別大会	唐澤昌宏 (工芸課長)	R1.7.21	江別市セラミックアートセンター 講堂	60
5	講演会「瀬戸・美濃地方における陶磁のこま犬」と対談	備前市立備前焼ミュージアム、備前市教育委員会、備前市、山陽新聞社主催「獅子十六面相」展開連イベント	唐澤昌宏 (工芸課長)	R1.9.29	備前焼伝統産業会館3階 総合研修室	78
6	「備前焼の魅力と作風の展開」	MIHO MUSEUM	唐澤昌宏 (工芸課長)	R1.10.26	MIHOMUSEUM 講堂	44
7	「東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 絵付けの魅力」ギャラリートーク	加賀市・東京国立近代美術館	唐澤昌宏 (工芸課長)	R1.11.1	石川県九谷焼美術館 展示室	60
8	「石川・金沢に国立工芸館ができると何がかわるのか？」	工芸アートフェア金沢2019	唐澤昌宏 (工芸課長)	R1.11.15	KUMU 金沢1階	110
9	工芸館移転連携事業「東京国立近代美術館工芸館名品展 漆・木・竹工芸のみかた」ギャラリートーク	東京国立近代美術館名品展等実行委員会（石川県・金沢市・東京国立近代美術館工芸館）	唐澤昌宏 (工芸課長)	R1.11.22	石川県立美術館第5展示室	20
10	「東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 絵付けの魅力」スペシャル対談	加賀市・東京国立近代美術館	唐澤昌宏 (工芸課長)	R1.12.7	石川県九谷焼美術館 講堂	63
11	「東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 人間国宝を中心に・陶磁器の美と技」ギャラリートーク	東京国立近代美術館名品展等実行委員会（石川県・金沢市・東京国立近代美術館工芸館）	唐澤昌宏 (工芸課長)	R1.12.13	石川県七尾美術館 展示室	126
12	「第8回菊池ビエンナーレ展」受賞作家によるトーク	菊池寛実記念 智美術館	唐澤昌宏 (工芸課長)	R2.1.18	菊池寛実記念 智美術館 展示室	30
13	東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 人間国宝を中心に・陶磁器の美と技」スペシャルアーティストトーク	東京国立近代美術館名品展等実行委員会（石川県・金沢市・東京国立近代美術館工芸館）	唐澤昌宏 (工芸課長)	R2.1.19	石川県七尾美術館 展示室	82

14	「杉浦非水の〈アフィッシュ〉について」	第 72 回 美術史学会全国大会シンポジウム「美術とデザインの邂逅」	中尾優衣 (主任研究員)	R1.5.18	京都工芸繊維大学	683
15	「杉浦非水が集めた／撮ったイメージ(映像)」	常設展特別イベント	中尾優衣 (主任研究員)	R1.7.6	国立映画アーカイブ	28
16	「東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 絵付けの魅力」ギャラリートーク	加賀市・東京国立近代美術館	成田暢 (特定研究員)	R1.12.15	石川県九谷焼美術館 展示室	45
17	「東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 東京国立近代美術館工芸館名品展 漆・木・竹工芸のみかた」ギャラリートーク	「東京国立近代美術館工芸館名品展」等実行委員会、石川県、金沢市、東京国立近代美術館	成田暢 (特定研究員)	R1.12.22	石川県九谷焼美術館 展示室	30
18	「東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 人間国宝を中心に・陶磁器の美と技」ギャラリートーク	東京国立近代美術館名品展等実行委員会(石川県・金沢市・東京国立近代美術館工芸館)	成田暢 (特定研究員)	R2.2.11	石川県七尾美術館 展示室	40
19	「クーパー・ヒューイット国立デザイン美術館およびクーパー・ユニオン・ハーブ・ルバリン・センターの日本のグラフィックデザインコレクション」	2019 年度グラフィック文化に関する学術研究助成成果報告会	野見山桜 (客員研究員)	R1.11.22	DNP 銀座ビル内ホール	50
20	「岡本太郎と日本の伝統」展開催記念公開シンポジウム「日本美術にとって伝統とは何か」／「『日本の伝統』と埴輪」	主催：川崎市岡本太郎美術館、学習院大学人文科学研究共同研究プロジェクト「前近代日本の造形文化における古典知の構築」後援：ジャポニスム学会、美学会、美術史学会	花井久穂 (主任研究員)	R1.6.2	かわさき宙と緑の科学館	150
21	シンポジウム「学校資料の活用を考えるⅡー学校資料の価値と可能性ー」／「『お蔵入り』所蔵作品をいかに救い出すかー美術館の展示と学校資料の活用」	平成 31 年度文化庁地域の博物館を中核としたクラスター形成事業／京都文化施設クラスター実行委員会・京都市学校博物館	花井久穂 (主任研究員)	R2.1.11	京都市学校歴史博物館	100

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	発行者	発行年月日
1.	「それでは何をみるべきか？ 子どもと臨む工芸の深淵」	今井陽子 (主任研究員)	学術研究出版／今、ミュージアムにできることーせとうち美術館ネットワークの挑戦ー	R1.11.22
2.	「シンポジウム 学校資料の活用を考えるー学校資料の価値と可能性ーⅠ・Ⅱ」講演録	花井久穂 (主任研究員)	京都文化施設クラスター実行委員会	R.2.1.31
3.	「岡本太郎と日本の伝統」展開催記念公開シンポジウム「日本美術にとって伝統とは何か」報告書	花井久穂 (主任研究員)	川崎市岡本太郎美術館、学習院大学人文科学研究共同研究プロジェクト「前近代日本の造形文化における古典知の構築」	R.2.3.31
4.	「文化財修復の現状と近年の問題点 ～鈴木長吉作《十二の鷹》」を中心に」	北村仁美 (主任研究員)	東京文化財研究所／文化財修復の現状と諸問題に関する研究会 報告書	R.2.3.31

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「前田正博の『色絵磁器』ー色彩と模様ハーモニー」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「前田正博展」図録(池袋西武)	R1.5

2	「山田勘太の漆芸」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「山田勘太展」図録(池袋西武)	R1.5
3	「『唐津 安永頼山展』に寄せて」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「安永頼山展」リーフレット(福岡三越)	R1.6
4	「『天目』の古典と現代 日台交流『天目展』に寄せて」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「林恭助×羅森豪 天目展」図録(日本橋三越)	R1.10
5	石黒宗麿と磁州窯一戦中と戦後、モダンとクラシックの間	花井久徳 (主任研究員)	「アジアン・インパクト 日本近代美術の「東洋憧憬」展」図録(東京都庭園美術館)	R.2.10.11
6	「松田権六と楽浪漆器の発掘」	北村仁美 (主任研究員)	「アジアン・インパクト 日本近代美術の「東洋憧憬」展」図録(東京都庭園美術館)	R.2.10.11
その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「やきものの成形方法」 「白磁・青白磁」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「淡交テキスト やきものを知る12のステップ」4(淡交社)	H31.4.1
2	「装飾・化粧掛け」 「鉄釉」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「淡交テキスト やきものを知る12のステップ」5(株式会社淡交社)	R1.5.1
3	「下絵付けと上絵付け」 「黄瀬戸・瀬戸黒・志野」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「淡交テキスト やきものを知る12のステップ」6(株式会社淡交社)	R1.6.1
4	「型打ち成形」 「織部」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「淡交テキスト やきものを知る12のステップ」7(株式会社淡交社)	R1.7.1
5	「器の名称—碗・椀・壺・壜・盃—」 「染付」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「淡交テキスト やきものを知る12のステップ」8(株式会社淡交社)	R1.8.1
6	「器の名称—壺・甕・瓶(瓶子)—」 「萩焼」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「淡交テキスト やきものを知る12のステップ」9(株式会社淡交社)	R1.9.1
7	「文様・紋様・模様」 「唐津焼」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「淡交テキスト やきものを知る12のステップ」10(株式会社淡交社)	R1.10.1
8	「吉祥の文様—動物」 「高取焼・上野焼」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「淡交テキスト やきものを知る12のステップ」11(株式会社淡交社)	R1.11.1
9	「吉祥の文様—植物」 「楽焼・大樋焼」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「淡交テキスト やきものを知る12のステップ」12(株式会社淡交社)	R1.12.1
10	「近代美術の眼 杉浦非水《東洋唯一の地下鉄道 上野浅草間開通》」	中尾優衣 (主任研究員)	読売新聞 4月12日	H31.4.12
11	「[特集 東京国立近代美術館工芸館] 工芸に会う場所の誕生」	中尾優衣 (主任研究員)	「宗桂会だより」43号	H31.5.30
12	「工芸とアートのあいだ① 赤の存在感(黒田辰秋《赤漆流稜文飾箱》)」	中尾優衣 (主任研究員)	「ミセス」2020年1月号(No.781)	R1.12.7
13	「工芸とアートのあいだ② 藍色の神秘(志村ふくみ《絨織着物 水瑠璃》)」	中尾優衣 (主任研究員)	「ミセス」2020年2月号(No.782)	R2.1.7
14	「工芸とアートのあいだ③ 光を包む(板谷波山《葆光彩磁牡丹文様花瓶》)」	中尾優衣 (主任研究員)	「ミセス」2020年3月号(No.783)	R2.2.7
15	「工芸とアートのあいだ④ 柔らかなフォルム(平田郷陽《長閑》)」	中尾優衣 (主任研究員)	「ミセス」2020年4月号(No.784)	R2.3.6
16	「近代美術の眼 岡部嶺男《練込志野縄文花器》」	花井久徳 (主任研究員)	読売新聞朝刊 東京都民版 9月13日	R1.9.13

イ 京都国立近代美術館						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「バウハウスの女性たち」	『バウハウス 100 年映画祭』講演会	池田祐子 (学芸課長)	R1.12.8	出町座	22
2	「世紀末ウィーンのグラフィック」	NHK 文化センター講演会	池田祐子 (学芸課長)	R1.10.11	NHK 文化センター京都教室	15
3	「ベルリン工芸博物館と日本—東洋美術館設立をめぐる」	国際シンポジウム『ドイツ・モダニズムの黎明期とベルリン』	池田祐子 (学芸課長)	R1.5.25	立命館大学創思館カンファレンスルーム	40
4	「私ハ先代善華に教へられた—魯山人の陶磁器とその魅力—」	碧南市藤井達吉現代美術館主催講演会	大長智広 (研究員)	R1.5.18	碧南市藤井達吉現代美術館	60
5	「もっと知りたい関西のミュージアム 京都国立近代美術館への招待—河井寛次郎展—」	京都新聞総合研究所提携講座	大長智広 (研究員)	R1.5.20	仏教大学四条センター	80
6	河井寛次郎と川勝堅—友情が生んだ珠玉のコレクション—	愛知県陶磁美術館主催講演会	大長智広 (研究員)	R1.9.28	愛知県陶磁美術館	80
7	‘Painters of the Nanpin school in Osaka and Kyoto and their Networks’ (「大坂・京都の南蘋派画家とその交流」)	‘Creative Collaboration’: Kyoto-Osaka Pictorial Arts and Salon Culture, 1750-1900’ Workshop	平井啓修 (研究員)	H31.4.11	ロンドン大学 SOAS	40
8	「長崎派の概要と南蘋派について」	一茶庵講座	平井啓修 (研究員)	R1.8.24	一茶庵	15
9	「四条派展をやりました vs やりますよ —学芸員は観た！」	「画家「呉春」—池田で復活(リボン)！」展	平井啓修 (研究員)	R1.9.15	逸翁美術館マグノリアホール	52
10	学芸員の領分	シンポジウム「タイムライン展をふりかえる—現代美術の保存・修復・記録をめぐる」	牧口千夏 (主任研究員)	R1.6.8	京都大学総合博物館	約 80 名
11	About the Project "Open Senses- Developing New Way of Art Appreciation"- how can museums support individuals for better society?	ICOM (国際博物館会議) 京都大会 2019 CECA (教育・文化活動国際委員会)	松山沙樹 (特定研究員)	R1.9.2	稲盛記念会館	100
12	「触図活用の ABC—アーティスト、視覚障害者、学芸員の協働」	みんなく公開シンポジウム「日本におけるユニバーサル・ミュージアムの現状と課題~2020 オリパラを迎える前に」	松山沙樹 (特定研究員)	R1.11.4	国立民族学博物館	200
13	「様式のない時代は可能か—世紀末ウィーンの建築から考える」	目黒区美術館主催 大人のための美術カフェ(特別編)	本橋仁 (特定研究員)	R1.5.26	目黒区美術館	70
14	「建築資料的価値を持った映像資料の発見と活用方法の研究 —NHK 教育「テレビの旅」を事例として—」	日本建築学会大会(北陸)	本橋仁 (特定研究員)	R1.9.6	金沢工業大学	50
15	「建築がいる美術と写真」	ミサワホーム主催	本橋仁 (特定研究員)	R1.10.20	徳正寺	30
16	「建築史家が見る”映画の中のオフィス”」	イメーজフォーラム映像研究所主催	本橋仁 (特定研究員)	R2.1.24	シアター・イメージフォーラム	30

17	「“みんな”の劇場って？ —劇場へのアクセシビリティを考える」	ロームシアター京都	本橋仁 (特定研究員)	R2.3.8	ロームシアター 京都	0
B. 雑誌等論文掲載						
【査読有り】論文掲載						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)		掲載誌名(発行者)	発行年月日
1.	YAGU KAZUO'S MR. SAMSA'S WALK: A TRULY SEMINAL JAPANESE CERAMIC ART OBJECT?		大長智広 (研究員)		『TAASA Review』Vol28 No.4 (The Asian Arts Society of Australia Inc.)	R1.12
2.	「河井寛次郎と李朝白磁」		松原龍一 (特任研究員)		アジアン・インパクト 日本近代美術の東洋憧憬 (東京美術)	R1.10
【査読無し】論文掲載						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)		掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「ベルリン工芸博物館と日本—東アジア美術館設立をめぐる」		池田祐子 (学芸課長)		立命館大学国際言語文化研究所(編)『立命館言語文化研究』31巻4号	R2.3.31
2	「ユリウス・マイアー=グレーフェと〈装飾芸術〉」		池田祐子 (学芸課長)		『美術フォーラム21』第40号(醍醐書房)	R1.11.30
3	「忘れられたコレクター、忘れられたコレクション」		池田祐子 (学芸課長)		『須田記念 視覚の現場』第01号(一般財団法人 きょうと視覚文化振興財団)	R1.11.25
4	「鉄とガラスのユートピア(?)からの解放を求めて」		池田祐子 (学芸課長)		『バウハウス 100年映画祭』パンフレット(トレノバ)	R1.11.23
5	「クリムトとその伴走者たち」		池田祐子 (学芸課長)		『芸術新潮』6月号(新潮社)	R1.6.25
6	「江戸で人気を博した今治出身の画家 沖冠岳」		梶岡秀一 (主任研究員)		『今治史談』100周年記念特別号(今治市教育委員会・今治史談会)	R1.7
7	「友情が生んだ大コレクション 陶工・河井寛次郎展から①」		大長智広 (研究員)		京都新聞	R1.5.13
8	「友情が生んだ大コレクション 陶工・河井寛次郎展から②」		大長智広 (研究員)		京都新聞	R1.5.14
9	「友情が生んだ大コレクション 陶工・河井寛次郎展から③」		大長智広 (研究員)		京都新聞	R1.5.16
10	「友情が生んだ大コレクション 陶工・河井寛次郎展から④」		大長智広 (研究員)		京都新聞	R1.5.17
11	「友情が生んだ大コレクション 陶工・河井寛次郎展から⑤」		大長智広 (研究員)		京都新聞	R1.5.20
12	「鯉江良二の茶碗」		大長智広 (研究員)		『なごみ』2019年9月号(淡交社)	R1.8.28
13	「ニーノ・カルーソ展に寄せて」		大長智広 (研究員)		岐阜新聞	R2.3.21
その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表						
	タイトル		執筆者氏名 (職名)		掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	特集「応挙にはじまる。「日本画」誕生！」		平井啓修 (研究員)		『芸術新潮』(新潮社)	R1.9.25
2	「展覧会レビュー」		平井啓修 (研究員)		毎日新聞	H31.4.3~ R2.3.18
3	「いきいきミュージアム~エデュケーションの視点から~047「感じる・深める・気づきあう~新しい美術鑑賞のかたちを求めて~」		松山沙樹 (特定研究員)		「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁)(Web)	R1.5.17
4	「裏庭が、客を招く入口になった」		本橋仁 (特定研究員)		TOTO株式会社/TOTO通信	H31.4.1
5	「借景の柳と、坪庭のヒメシャラの協奏」		本橋仁 (特定研究員)		TOTO株式会社/TOTO通信	R1.8.1

6	「蒐集は、即効性のない薬」		本橋仁 (特定研究員)	公益社団法人日本建築士会連 合会 / 建築士	R2.1.1	
ウ 国立映画アーカイブ						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	True Voice Left on Film: Sound Restoration/presentation of the Japanese Mina Talkie Sound System	San Francisco Silent Film Festival	岡島尚志 (館長)	R1.5.2	カストロ・シア ター (サンフラ ンシスコ)	500
2	Japanese Girls at the Harbor (「港の日本娘」、 1933年、清水宏監督)	San Francisco Silent Film Festival	岡島尚志 (館長)	R1.5.5	カストロ・シア ター (サンフラ ンシスコ)	500
3	Digitization of Materials at the National Film Archive of Japan	Film Librarians Conference 2019	紙屋牧子 (特定研究員)	R1.5.15	映画芸術科学ア カデミー ピッ クフォード映画 研究センター	300
4	「ギィ・ジル〜見出された 映画作家」	アンスティチュ・フランセ 横浜	岡田秀則 (主任研究員)	R1.6.29	アンスティチ ュ・フランセ横 浜	50
5	「国立映画アーカイブ資料 室の仕事」	京都大学大学院人間・環境 学研究科 SPIRIT 産学官 協働プロジェクト「東映京 都撮影所資料を基盤とした 日本映画史研究の国際的拠 点」	紙屋牧子 (特定研究員)	R1.8.19	東映京都太秦映 画村	10
6	「越境するアフリカ映画— —新たな連携をめざして」	国際交流基金、外務省、ユ ネスコ	岡島尚志 (館長)	R1.8.29	横浜ブルク 13	300
7	「山形における新たなフィ ルムアーカイブ設立へ向け て」	山形国際ドキュメンタリー 映画祭	岡島尚志 (館長)	R1.10.13	山形まなび館	20
8	「映画を創る人／護る人」	日本大学芸術学部	岡島尚志 (館長)	R1.10.16	同学部映画学科	150
9	「NFAJ ボーンデジタル映 画のアーカイビング 『嗚呼 満蒙開拓団』」	神戸発掘映画祭 2019	三浦和己 (主任研究員)	R1.10.20	神戸映画資料館	50
10	「映像遺産の保存と活用 —昭和天皇の欧州旅行 (1921年)」	研究機関等公開講座「国立 映画アーカイブコース」	紙屋牧子 (特定研究員)	R1.11.6	国立映画アーカ イブ	60
11	The forerunners of Japanese animation	Japan Classics Screening and Talk #5	大傍正規 (主任研究員)	R1.11.07	The Japan Foundation, Yangon	50
12	「『日本南極探検』とは何か —最長版のデジタル復元を 終えて」	NPO 法人白瀬南極探検 100周年記念会 調査専門 委員会	大傍正規 (主任研究員)	R1.11.11	SHIRASE5002	20
13	牧野省三—独立プロダクシ ョンの奮闘:「私の資本家は ファン」—	大阪・京都文化講座「大阪・ 京都<偉人伝>—近世・近 代編—」(共催:大阪大学 大学院文学研究科・立命館 大学文学部)	富田美香 (主任研究員)	R1.11.11	立命館大阪梅田 キャンパス	100
14	「記録映画の中の子どもた ち」	日本ユニセフ協会	岡田秀則 (主任研究員)	R1.11.15	ユニセフハウス	30
15	「映画監督ネルソン・ペレ イラ・ドス・サントスにつ いて」	アテネ・フランセ文化セン ター	岡田秀則 (主任研究員)	R1.11.16	アテネ・フラン セ文化センター	60

16	「デジタル復元最新事例報告1『白蛇伝』（1958年 監督：藪下泰司）」	映画の復元と保存に関するワークショップ 2019 IN KYOTO	三浦和己 (主任研究員)	R1.11.17	京都経済センター	100
17	「サイレント映画のデジタル・シミュレーション—色再現・粒状性・フレームレート」	デジタル時代のサイレント映画 映画『カツベン!』を手がかりに / 第2部 シンポジウム「デジタル技術と「過去の映画」の再現」	大傍正規 (主任研究員)	R1.11.23	早稲田大学 小野記念講堂	60
18	「高崎と映画—和田本次郎の足跡をたどる」	第67回青雲塾講演会	大傍正規 (主任研究員)	R1.12.5	青雲塾会館	30
19	Japanese Princes goes to Europe: Media Strategy of Imperial household from 1910s to 1920s	International Workshop “Media History of Japan in the Twentieth Century: Mass Media and Monarchy in Comparison and Beyond	紙屋牧子 (特定研究員)	R1.12.13	ルーヴエン・カトリック大学	25
20	「映画監督サンティアゴ・アルバレスについて」	アテネ・フランセ文化センター	岡田秀則 (主任研究員)	R1.12.15	アテネ・フランセ文化センター	80
21	座談会「エノケン喜劇の音楽とその時代」(公開研究会「エノケン喜劇の音楽とその時代 瀬川昌久先生を囲んで」)	早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点公募研究「栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究」(研究代表者：中野正昭)主催公開研究会	紙屋牧子 (特定研究員)	R1.12.26	早稲田大学	50
22	「映画ポスターにみるロシア・アヴァンギャルド」	国立国際美術館	岡田秀則 (主任研究員)	R2.2.8	国立国際美術館	30
23	「白瀬轟の『日本南極探検』—南極探検活動写真の巡回興行を中心に」	郷土史市民講座	大傍正規 (主任研究員)	R2.2.8	にかほ市金浦公民館	50

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍, 研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	発行者	発行年月日
1	Hisashi Okajima on Ray Edmondson	岡島尚志 (館長)	Journal of Film Preservation/International Federation of Film Archives	H31.4
2	「制御から零れ落ちる過剰さ：京マチ子の身体」	紙屋牧子 (特定研究員)	『ユリイカ』2019年8月号	R1.8
3	「時代と作品で読み解く 映画ポスターの歴史」(監修)	岡田秀則 (主任研究員)	玄光社	R1.9.12
4	「藤森照信のクラシック映画館」(映画史監修)	岡田秀則 (主任研究員)	青幻舎	R1.9.30
5	「『紙の映画』から見えてくるもの」	岡田秀則 (主任研究員)	井上由一(編)『オードリー・ヘプバーン ポスター・コレクション』(DU BOOKS)	R1.11.22
6	「ケヴィン・ブラウンロウと『サイレント映画の黄金時代』」	岡島尚志 (館長)	国書刊行会	R1.12.20

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「国立映画アーカイブ：その現状と展望」	岡島尚志 (館長)	『デジタルアーカイブ学会誌』(デジタルアーカイブ学会)	R1.10.1
2	「書評『川島雄三は二度生まれる』」	大澤浄 (主任研究員)	『日本映画学会会報』第57号	R2.1.21
3	「書評『美と破壊の女優 京マチ子』」	紙屋牧子 (特定研究員)	『映像学』第103号	R2.1
4	「時よとまれ、映画(きみ)は美しい—近代オリンピックと映画」	岡田秀則 (主任研究員)	「日本映像学会 会報」187号(日本映像学会)	R2.2.1

その他（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、ウェブサイト等）の発表						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名（発行者）	発行年月日		
1	「再タイミング版作成プロジェクト後記」	大傍正規 (主任研究員)	『映画撮影』221号	R1.5		
2	「再タイミング版作成プロジェクト後記(2) こだわり抜いた先に見えた旧作復元の課題」	大傍正規 (主任研究員)	『映画撮影』222号	R1.8		
3	「キューブリック、過酷な教育者」	岡田秀則 (主任研究員)	「キネマ旬報」2019年11月下旬号 (No.1825)	R1.11.5		
4	和田誠追悼「いまだ出会えぬ映画を表現した人」	岡田秀則 (主任研究員)	「映画秘宝」2020年1月号(洋泉社)	R1.11.21		
5	アートダイアリー 064「オリンピック記録映画特集」	岡田秀則 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web)	R1.11.22		
6	「映画とアフリカと日本の「私」」	岡島尚志 (館長)	をちこち(国際交流基金)	R1.12.20		
7	アートダイアリー 067「ポーランドの映画ポスター」	岡田秀則 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web)	R2.2.10		
8	「オリンピック記録映画 社会の変化、映画の変遷も刻む」	篠儀直子 (客員研究員)	西日本新聞	R2.2.4		
エ 国立西洋美術館						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「松方コレクション全容解明の試み：西洋美術品総目録刊行に寄せて」	日仏文化講演シリーズ	川口雅子 (主任研究員)	R1.7.16	日仏会館	55
2	「収蔵品管理システムを用いたカタログ・レゾネの編纂：『松方コレクション 西洋美術全作品』を事例として」	アート・ドキュメンテーション学会第12回秋季研究会	川口雅子 (主任研究員)	R1.11.17	東京藝術大学美術学部中央棟第1講義室	80
3	パネルディスカッション「アートコンテンツ活用の将来像：その課題と解決の方向性」	アートコンテンツ活用シンポジウム「デジタルアーカイブで拓くアートの未来」	川口雅子 (主任研究員)	R1.12.23	東京大学本郷キャンパス ダイワビキタス学術研究館石橋信夫記念ホール	120
4	「私たちが読む軌跡とその収集」	Timeline Project「WOMEN Artists & History」	吉良智子 (リサーチフェロー)	R1.12.6	トーキョーアーツアンドスペース本郷 スペースA (1F)	30
5	「ピカソの1917年バルセロナ滞在」	スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会冬季研究会：招聘講演・シンポジウム「ピカソとバルセロナ」	久保田有寿 (特定研究員)	R1.12.7	国立西洋美術館講堂	65
6	「ミュージアム・ドキュメンテーションと『松方コレクション 西洋美術全作品』編纂」	国際シンポジウム「カタログ・レゾネ デジタル時代のアーカイブとドキュメンテーション」	陳岡めぐみ (主任研究員) 川口雅子 (主任研究員)	R1.7.4	国立西洋美術館講堂	100
7	<i>La collection Matsukata: Une Odyssée d'un Siècle</i>	Symposium international « Formation et circulation des collections artistiques modernes : études historiques et sur la base de données »	陳岡めぐみ (主任研究員)	R1.12.17	東京大学総合文化研究科	40
8	「国立西洋美術館所蔵作品《聖ヤコブ伝》における材料と技法」	文化財保存修復学会	高嶋美穂 (特定研究員)	R1.6.22	帝京大学	500

9	「国立西洋美術館コレクションにおけるナビ派」	日仏美術学会主催「ナビ派の現在・近年の展覧会と研究動向の回顧」	袴田紘代 (主任研究員)	R1.6.30	日仏会館	120
10	「ヴュイヤール、ケル＝グザヴィエ・ルーセルをめぐる近年の展覧会」	一橋大学博物館研究会主催「ナビ派の2019年」	袴田紘代 (主任研究員)	R1.12.16	一橋大学	15
11	A Diagnostic Study of the Cast-Bronze Great Buddha Statue in the Kotoku-in Temple, Japan	ICOM-CC Metal2019	邊牟木尚美 (研究員)	R1.9.2	Haute Ecole Art, Neuchatel, Switzerland	200
12	「ツァラとミロー芸術の幼年期」	公開研究会「トリスタン・ツァラ『反頭脳』とエルンスト、ミロ、タンギー」	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	R1.7.1	筑波大学総合交流会館マルチメディアルーム	20
13	「全国美術館会議の災害時救援活動」	文化遺産防災ネットワーク有識者会議	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	R1.8.22	東京国立博物館平成館第一会議室	30
14	Guercino in Giappone	Il centro studi internazionali "Il Guercino"	渡辺晋輔 (主任研究員)	R.1.11.21	Palazzo Comunale (イタリア, チェント市)	70

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「パブロ・ピカソとモノクローム—《ゲルニカ》の無彩色表現の意味と機能をめぐって」	久保田有寿 (特定研究員)	大高保二郎・永井隆則(編)『ピカソと人類の美術—模倣と創造』(三元社)	R2.3.31
2	「国立西洋美術館 名画の見かた」	陳岡めぐみ (主任研究員) 渡辺晋輔 (主任研究員)	集英社	R2.1
3	「美術館における鑑賞ツールの活用—国立西洋美術館のびじゅつ—を例として」	寺島洋子 (リサーチフェロー)	『女子美術大学美術館コレクション展 作品と授業をつなぐ試み 報告書』女子美術大学美術館	R2.2

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「美術館で専門図書館が担う役割は何か: 国立西洋美術館研究資料センターの事例から」	川口雅子 (主任研究員)	『現代の図書館』(日本図書館協会)	R1.11
2	「ツァラとミロー芸術の幼年期」	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	『石井コレクション研究 7 トリスタン・ツァラ『反頭脳』』筑波大学芸術系	R2.3.31

その他(研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、ウェブサイト等)の発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「日本の美術館はコレクション情報をどう扱っていくべきか」(シリーズ: これからの美術館を考える(10))	川口雅子 (主任研究員)	『美術手帖』(株式会社BTCCompany)(Web)	H31.4.20
2	「日本・フィンランド外交関係樹立100周年記念 モダン・ウーマン—フィンランド美術を彩った女性芸術家たち」	久保田有寿 (特定研究員)	『うえの』8月号, 第724号(上野のれん会)	R1.8.1
3	「国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『うえの』6月号, 第722号(上野のれん会)	R1.6.1
4	「オーギュスト・ルノワール《アルジェリア風のパリの女たち》」	陳岡めぐみ (主任研究員)	読売新聞	R1.12.10
5	今月の名作「睡蓮、柳の反映」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『ノジュール』	R1.7.30
6	「国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『小原流挿花』	R1.6.1

7	「国立西洋美術館開館 60 周年記念 松方コレクション展」	陳岡めぐみ (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (Web)	R1.7.17		
8	「(巨匠の画材研究) モネの「かけら」が語ること」	高嶋美穂 (特定研究員)	美術の窓 No.430 (生活の友社)	R1.6.20		
9	「ムンクとフランス美術」	袴田紘代 (主任研究員)	花美術館 vol. 67 (株式会社花美術館)	R1.9.20		
10	「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」	川瀬佑介 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (Web)	R2.3.17		
オ 国立国際美術館						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「所蔵作品情報の公開—国立国際美術館の事例」	2019 年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会	植松由佳 (主任研究員)	R1.6.8	成安造形大学	70
2	「風景画として見る境内図—歩く眼、佇む眼—」	「特別展 聖域の美—中世寺社境内の風景—」	山梨俊夫 (館長)	R1.11.10	大和文華館講堂	130
B. 雑誌等論文掲載						
学術書籍, 研究報告書等の発行						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日		
1	『絵画逍遥』	山梨俊夫 (館長)	水声社	R2.1.30		
【査読無し】 論文掲載						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日		
1	「未知との遭遇」	中井康之 (副館長兼学芸課長)	「シェル美術賞展 2019」カタログ	R1.12.11		
2	「最後に望んだ表現 —追悼 田中信太郎—」	中井康之 (副館長兼学芸課長)	『月刊アートコレクターズ』 2019 年 11 月号	R1.11.25		
3	現代の「浮世」絵師 —谷原菜摘子の絵画—	中井康之 (副館長兼学芸課長)	谷原菜摘子展 「まつろわぬもの」 (同個展リーフレット) MEM ギャラリー	R1.10.15		
4	「互いのための死」	橋本梓 (主任研究員)	『ベアトリス・バルクー×奥村雄樹 心中熊楠城』	R1.5.25		
5	学校と美術館をつなぐスクール・プログラム	藤吉祐子 (主任研究員)	『初等教育資料』 (編集: 文部科学省教育課程課、発行: 東洋館出版社)	R2.1.25		
6	「加藤巧」	福元崇志 (主任研究員)	『VOCA 展 2020 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』カタログ	R2.3.2		
7	É coulement, gonflement, remplissage: « Sans cela, ce ne serait pas mon oeuvre »	山梨俊夫 (館長)	松谷武判展図録 (ポンピドゥー・センター)	R1		
その他 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等) の発表						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日		
1	広島市現代美術館 開館 30 周年記念特別展「美術館の七燈」を解題する (キュレーターズ・ノート)	中井康之 (副館長兼学芸課長)	「アートスケープ」 (大日本印刷) (Web)	R1.7.15		
2	「もの派」事始めを探る—関根伸夫、李禹煥、郭仁植 (キュレーターズ・ノート)	中井康之 (副館長兼学芸課長)	「アートスケープ」 (大日本印刷) (Web)	R2.2.15		
3	アートダイアリー058「抽象世界」	中西博之 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (Web)	R1.5.21		
4	アートダイアリー063「ようこそジャコメッティさん」	橋本梓 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (Web)	R1.10.28		
5	「保存修復を問い直す: 展覧会「タイムライン 時間に触れるためのいくつかの方法」」	福元崇志 (主任研究員)	『大阪日日新聞』	R1.5.28		
6	「収集の論理と情熱」	福元崇志 (主任研究員)	『ARTRANBLE』 vol.64、兵庫県立美術館	R1.9.25		

7	美術館館長の方々の「私が選ぶ1点」	山梨俊夫 (館長)	第2回コーポレート・アート・コレクション「なにわの企業が集めた絵画の物語」展 (Web)	R2.1.9		
カ 国立新美術館						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	適応型階段関数系による展開を用いた 絵画画像の色変化ベクトルによる 特徴分析の一試行	日本色彩学会第 50 回全国大会	室屋泰三 (主任研究員)	R1.6.2	東京工芸大学	40
2	絵画画像の「デジタル復元」と「フォトレタッチ」における色変化量の「保存」に関する予備的考察	日本色彩学会画像色彩研究会 2019 年度研究発表会	室屋泰三 (主任研究員)	R2.3.14	国立新美術館	13
3	Art in Japan and Asian countries in the Postcolonial Era	Platform Asia 主催イベント	米田尚輝 (主任研究員)	R1.10.29	Royal College of Art, London	200
4	Art in Japan and Asian countries in the Postcolonial Era	Platform Asia 主催イベント	米田尚輝 (主任研究員)	R1.10.30	Nottingham Contemporary, Nottingham	20
5	Art in Japan and Asian countries in the Postcolonial Era	Platform Asia 主催イベント	米田尚輝 (主任研究員)	R1.10.31	John Hansard Gallery, Southampton	15
B. 雑誌等論文掲載						
【査読有り】論文掲載						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日		
1	「小野田セメント株式会社の芸術支援活動に関する考察：買上寄贈、受託制作、児童造形教育の観点から」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『文化資源学』第 17 号 (文化資源学会)	R 1.6		
2	「小野田セメント株式会社によるセメント彫刻の設置とメンテナンス活動に関する考察」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『屋外彫刻調査保存研究会会報』第 6 号 (屋外彫刻調査保存研究会)	R2.1		
3	「研究ノート ウィーン世紀末の寓意図案集『アレゴリーとエンブレム』」	中江花菜 (研究補佐員)	『Aspects of Problems in Western Art History (東京芸術大学西洋美術史研究室紀要)』17 号 (東京芸術大学)	R2.3		
【査読無し】論文掲載						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日		
1	「桜画廊とその周辺—1960-70 年代の名古屋の現代美術をめぐって」	小野寺奈津 (特定研究員)	『アイチアートクロニクル 1919-2019』図録 (愛知県美術館)	H31.4		
2	「日本の前衛美術における写真・映像の「影響」に関する研究 —1930 年代後半～40 年代初を中心に—」	谷口英理 (特定研究員)	『鹿島美術研究 年報 別冊』36 号 (鹿島美術財団)	R 1.11		
3	「“資料群”としての整理・記述方法と所在情報の発信 —「アーカイブズ資料所在調査」の実施に向けて」／「パネルディスカッション」	谷口英理 (特定研究員)	『平成 30 年全国美術館会議 第 33 回学芸員研修会報告書 美術館のアーカイブズ資料の可視化とさらなる活用に向けて』	R 2.2.25		
4	論文(翻訳)、作家解説 (翻訳)	中江花菜 (研究補佐員)	『ロンドン・ナショナル・ギャラリー展』 (国立西洋美術館)	R2.3.3		
5	Leiko Ikemura and the Genesis of Images / Leiko Ikemura und die Entstehung der Bilder	長屋光枝 (学芸課長)	Leiko Ikemura: Toward New Seas / Leiko Ikemura: Nach neuen Meeren (Kunstmuseum Basel, Prestel Verlag, Munich-London-New York)	R.1.5.11		

その他（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、ウェブサイト等）の発表				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	PUGMENT 2020SS「Purple Plant」レビュー「T シャツから紐解く日本の戦後ファッション史」	小野寺奈津 (特定研究員)	美術手帖 (Web)	R1. 12. 25
2	「研究者と巡るセメント美術① タコの滑り台」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『コンクリート新聞』第 2524 号 (コンクリート新聞社)	R1.11
3	「1954 (昭和 29) 年に水上公園 (福岡市) で開催された野外彫刻展に関する覚え書き」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『美術運動史研究会ニュース』第 176 号 (美術運動史研究会)	R1.12
4	「研究者と巡るセメント美術② セメント彫刻と公園」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『コンクリート新聞』第 2535 号 (コンクリート新聞社)	R2.2.13
5	「身の丈にあったミュージアム・アーカイブズの確立に向けて」	谷口英理 (特定研究員)	『全美フォーラム』16 号 (全国美術館会議機関誌)	R1.9
6	「エゴン・シーレの男性裸体画」	中江花菜 (研究補佐員)	「月刊アートコレクターズ」7 月号 (生活の友社)	R1. 7. 25
7	「古典×現代 2020—時空を超える日本のアート」	長屋光枝 (学芸課長)	『新美術新聞』2020 年 3 月 1 日号	R2.2.26
8	階層的な色彩計量手法によるダ・ヴィンチ作品の色彩分析～《モナ・リザ》の修復画像を通して	室屋泰三 (主任研究員)	ダ・ヴィンチ没後 500 年「夢の実現」展 (※パネル展示)	R2.1.6～ R2.1.26
9	アートダイアリー 059「クリスチャン・ボルタンスキー—Lifetime」	山田由佳子 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web)	R1.6.13
10	「クリスチャン・ボルタンスキー—Lifetime 展の見どころ」	山田由佳子 (主任研究員)	『ふらんす』第 94 巻第 7 号 (白水社)	R1.7.1
11	「第 52 回教育普及研究部会合報告」	吉澤菜摘 (主任研究員)	「全国美術館会議ホームページ」(全国美術館会議) (Web)	R1.12.26
12	「部会報告 教育普及」	吉澤菜摘 (主任研究員)	『ZENBI 全国美術館会議機関誌』第 17 号 (全国美術館会議)	R2.1.31

別表 11 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館			
(工芸館)			
セミナー・シンポジウム名	工芸作品鑑賞研究会	開催年月日	令和 1 年 7 月 13 日 (土)
場所	東京国立近代美術館工芸館	聴講者数	54 人 (工芸館ガイドスタッフ 26 人含む)
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	レクチャー：今井陽子 (東京国立近代美術館工芸課主任研究員) ワークショップ：西岡梢 (東京国立近代美術館工芸課研究補佐員) ディスカッション (進行)：今井陽子 (東京国立近代美術館工芸課主任研究員)		
内容	レクチャーでは過去の子どもの向けプログラムの成果分析と今後の検討課題を提示。それを踏まえ、ワークショップ並びにディスカッションでは各発達段階に応じた鑑賞プログラムのあり方と工芸分野における専門知識の適切なバランスを検証した。		
セミナー・シンポジウム名	スペシャル対談	開催年月日	令和 1 年 12 月 7 日 (土)
場所	石川県九谷焼美術館 2 階ホール	聴講者数	63 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	武腰 潤 (石川県九谷焼美術館館長, 陶芸家) 唐澤昌宏 (東京国立近代美術館工芸課長)		
内容	東京国立近代美術館工芸館移転連携事業「絵付けの魅力」の関連イベントとして、石川県九谷焼美術館館長であり絵付けを主体に作家活動を展開している武腰潤氏と対談を行った。武腰氏の陶芸家としての経験を通して、展示室に並べられた絵付け作品の技法について解説するとともに九谷焼の歴史や絵付けの特徴などにも触れながら、絵付けされた陶磁器の魅力について紹介した。		
セミナー・シンポジウム名	スペシャルアーティストトーク	開催年月日	令和 2 年 1 月 19 日 (日)

場所	石川県七尾美術館 展示室	聴講者数	82 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：吉田美統（重要無形文化財「釉裏金彩」の保持者），十四代今泉今右衛門（重要無形文化財「色絵磁器」の保持者） 司会：唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸課長）		
内容	東京国立近代美術館工芸館移転連携事業「人間国宝を中心に・陶磁器の美と技」の関連イベントとして，展示作品に関わる 2 人の人間国宝から日本の近代以降の陶磁器の歴史や技法，制作の歩みについて紹介した。また，展示された作品の鑑賞の方法や見どころについても，作り手の目線から紹介してもらい，鑑賞者への一助となるようにした。		
イ 京都国立近代美術館			
セミナー・シンポジウム名	美術館ってどんな音 つくって鳴らそう建築楽器	開催年月日	令和元年 8 月 20 日（火）、 同月 21 日（水）
場所	京都国立近代美術館 1 階エントランス，1 階講堂	聴講者数	47 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：山田宮土理（近畿大学建築学部建築学科 講師 博士（工学））		
内容	音を頼りに建築を鑑賞することで，美術館の空間と建築素材について学ぶことを目的とした。実際に美術館の建物を叩くことで建築素材ごとの音の違い・響き方を感じ取った後，建築素材を用いた楽器を制作した。音という鑑賞方法の可能性及び美術館の建物を鑑賞対象とするという視点について，実践的に検証した。		
ウ 国立映画アーカイブ			
セミナー・シンポジウム名	NFAJ ボーンデジタル映画のアーカイビング	開催年月日	令和元年 10 月 20 日（日）
場所	神戸映画資料館	聴講者数	48 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	渡部真（全国映画教育協議会会長／名古屋学芸大学教授），橋本英治（神戸芸術工科大学教授），元村直樹（国立映画アーカイブ客員研究員），三浦和己（国立映画アーカイブ研究員），岡本直佐（国立映画アーカイブ特定研究員）		
内容	ボーンデジタル映画をいかに残していけるか，国内の芸術系大学で行われている現実的な対策方法の紹介とディスカッションを行い，ボーンデジタル映画『嗚呼 満蒙開拓団』の長期保存に向けた国立映画アーカイブの試みを紹介。		
セミナー・シンポジウム名	NFAJ&J.S.A. アーカイブセミナー 映画表現と音 NAGRAⅢ型による同時録音の表現	開催年月日	令和 2 年 1 月 30 日（木）
場所	国立映画アーカイブ小ホール	聴講者数	69 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	登壇者：紅谷愷一（『神々の深き欲望』録音担当），志満順一（協同組合日本映画・テレビ録音協会専務理事），小野寺修（協同組合日本映画・テレビ録音協会理事長）		
内容	主催：国立映画アーカイブ，協同組合日本映画・テレビ録音協会		

別表 12 シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア 東京国立近代美術館			
(本館)			
セミナー・シンポジウム名	スペシャル対談 カトリーヌ・ダヴィッド×イケムラレイコ	開催年月日	令和元年 4 月 5 日（金）
場所	地下 1 階講堂	聴講者数	100 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	登壇者：イケムラレイコ（アーティスト，女子美術大学大学院美術研究科客員教授） カトリーヌ・ダヴィッド（フランス国立近代美術館副館長） モデレーター：保坂健二郎（東京国立近代美術館 主任研究員）		

内容	イケムラレイコ氏（アーティスト）及びカトリーヌ・ダヴィッド氏（フランス国立近代美術館副館長）を招へいしスペシャル対談を開催した。		
セミナー・シンポジウム名	福沢一郎記念館の伊藤佳之氏による講演会「福沢一郎・造形のひみつー写真？メキシコ？ロマネスク？」	開催年月日	令和元年4月13日（土）
場所	地下1階講堂	聴講者数	72人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	伊藤佳之（福沢一郎記念館非常勤嘱託）		
内容	展覧会「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」の関連イベントとして、「福沢一郎・造形のひみつー写真？メキシコ？ロマネスク？」と題した講演会を開催した。		
セミナー・シンポジウム名	講演会「高畑勲の革新的アニメーション演出術」	開催年月日	令和元年7月21日（土）
場所	地下1階講堂	聴講者数	139人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	叶 精二（映像研究家・亜細亜大学講師）		
内容	展覧会「高畑勲展—日本のアニメーションに遺したもの」の関連イベントとして、「高畑勲の革新的アニメーション演出術」と題した講演会を開催した。		
セミナー・シンポジウム名	PASS the BATON 倉俣史朗を語ろう	開催年月日	令和元年11月10日（日）
場所	地下1階講堂	聴講者数	160人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	パネリスト：五十嵐久枝（インテリアデザイナー），桑山秀康（インテリアデザイナー），近藤康夫（インテリアデザイナー），田川欣哉（デザインエンジニア），田根剛（建築家），田村奈穂（デザイナー），保坂健二郎（東京国立近代美術館主任研究員） 司会：関康子（建築思考プラットフォーム代表）		
内容	クリエイターを招へいし1991年に急逝したデザイナー倉俣史朗についてのシンポジウムを実施した。		
セミナー・シンポジウム名	トークイベント 藤本壮介：窓と建築	開催年月日	令和元年11月30日（土）
場所	地下1階講堂	聴講者数	130人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	藤本壮介（建築家） モデレーター：五十嵐太郎（東北大学教授／建築史・建築批評家）		
内容	展覧会「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」の関連イベントとして、藤本壮介氏（建築家）を招へいしトークイベントを開催した。		
セミナー・シンポジウム名	トークイベント ホンマタカシ（写真家）	開催年月日	令和元年12月14日（土）
場所	地下1階講堂	聴講者数	58人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	ホンマタカシ（写真家） モデレーター：五十嵐太郎（東北大学教授／建築史・建築批評家）		
内容	展覧会「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」の関連イベントとして、ホンマタカシ氏（写真家）を招へいしトークイベントを開催した。		
セミナー・シンポジウム名	「人知れず表現し続ける者たち」トークセッション	開催年月日	令和2年2月11日（火・祝）
場所	地下1階講堂	聴講者数	60人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	パネラー：リン・クック（ワシントンナショナルギャラリー現代美術部門シニアキュレーター），秋元雄史（東京藝術大学大学美術館館長） モデレーター：保坂健二郎（東京国立近代美術館主任研究員）		

内容	リン・クック氏（ワシントンナショナルギャラリー現代美術部門シニアキュレーター）及び秋元雄史氏（東京藝術大学大学美術館館長）を招へいしトークセッションを開催した。		
(工芸館)			
セミナー・シポジウム名	シンポジウム「アビー・コレクションから考える竹工芸の現在（いま）」	開催年月日	令和1年9月14日（土）
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	130人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師及びパネリスト：モニカ・ビンチク氏（メトロポリタン美術館アジア美術部学芸員，ダイアン&アーサー・アビー日本工芸 担当アソシエイトキュレーター，本展監修者），諸山正則氏（工芸史家，前東京国立近代美術館主任研究員，本展監修者），藤沼昇氏（出品作家），本間秀昭氏（出品作家） 司会：中尾優衣（東京国立近代美術館主任研究員）		
内容	竹工芸名品展の開催を記念して，日本工芸研究者として知られるモニカ・ビンチク氏をはじめ，本展監修者および現在活躍中の出品作家を招いてシンポジウムを開催した。研究者と作家それぞれの立場からの発表と，竹工芸の未来を考えるディスカッションの2部構成とし，竹工芸名品展のみならず，竹工芸に対する理解を深める上で貴重な機会であったと参加者から好評を得た。		
セミナー・シポジウム名	コーダ美術館（オランダ） カリン・レインダース館長来日記念講演会	開催年月日	令和元年10月18日（金）
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	58人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：カリン・レインダース博士（コーダ美術館 館長） 進行：北村仁美（工芸課主任研究員）		
内容	現代ジュエリーに関してオランダ随一のコレクションを誇るコーダ美術館・館長として，数々の展覧会，教育プログラムを手掛けてきたこれまでの経験から，コレクションの収集方針や現代のコンテンポラリー・ジュエリーの傾向など多方面にわたる講演をいただいた。		
セミナー・シポジウム名	撒蠟デモ&トーク	開催年月日	令和2年1月12日（日）
場所	東京国立近代美術館工芸館	聴講者数	62人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：福本繁樹（染色家・前大阪芸術大学教授） 進行：今井陽子（工芸課主任研究員）		
内容	日本における蠟染めの歴史と近代の展開を振り返り，撒蠟という特殊な技法をデモンストレーションした。また，ローザンスタビスリービエンナーレの事例を通して，世界における「染め」概念を検証した。		
イ 京都国立近代美術館			
セミナー・シポジウム名	特別講演会「祖父・河井寛次郎と川勝堅一の絆」	開催年月日	平成31年4月26日（金）
場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	49人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：鷺珠江（河井寛次郎記念館学芸員）		
内容	展覧会「川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎」の関連イベントとして，河井寛次郎記念館学芸員の鷺珠江氏を講師に迎え，講演会を実施した。		
セミナー・シポジウム名	講演会「トプカブ宮殿の織物」	開催年月日	令和元年6月15日（土）
場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	100人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：奥村純代（トルコ・イスラーム美術史家）		
内容	展覧会「トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカブの美」の関連イベントとして，トルコ・イスラーム美術史家の奥村純代氏を講師に迎え，講演会を実施した。		
セミナー・シポジウム名	講演会「トプカブ宮殿とチューリップ文化」	開催年月日	令和元年6月23日（日）
場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	100人

講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：ヤマンラール水野美奈子（トルコ至宝展監修者，元龍谷大学教授，国際トルコ美術史学会理事）		
内容	展覧会「トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」の関連イベントとして，トルコ至宝展監修者，元龍谷大学教授，国際トルコ美術史学会理事のヤマンラール水野美奈子氏を講師に迎え，講演会を実施した。		
セミナー・シンポジウム名	講演会「トプカプ宮殿からドルマバフチェ宮殿へ：オスマン宮廷と明治の日本美術工芸品」	開催年月日	令和元年 6 月 26 日（水）
場所	京都国立近代美術館 1 階講堂	聴講者数	100 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：ジラルデッリ青木美由紀（美術史家）		
内容	展覧会「トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」の関連イベントとして，美術史家のジラルデッリ青木美由紀氏を講師に迎え，講演会を実施した。		
セミナー・シンポジウム名	シンポジウム「ドレス・コード？——それぞれのファッション学の視点から」	開催年月日	令和元年 8 月 31 日（土）
場所	京都国立近代美術館 1 階講堂	聴講者数	100 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	登壇者：内村理奈（日本女子大学家政学部 准教授），平芳裕子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授），井上雅人（武庫川女子大学生活環境学部 准教授），小形道正（京都服飾文化研究財団 アシスタント・キュレーター）		
内容	展覧会「ドレス・コード？——着る人たちのゲーム」の関連イベントとして，日本女子大学家政学部准教授の内村理奈氏，神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授の平芳裕子氏，武庫川女子大学生活環境学部准教授の井上雅人氏，京都服飾文化研究財団アシスタント・キュレーターの小形道正氏を迎え，シンポジウムを実施した。		
セミナー・シンポジウム名	「ドレス・コード？——着る人たちのゲーム」展関連イベント 岡田利規，《The Fiction Over the Curtains》について語る	開催年月日	令和元年 9 月 23 日（月・祝）
場所	京都国立近代美術館 1 階講堂	聴講者数	30 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：岡田利規（チェルフィッチュ主宰・劇作家） 聞き手：水野大二郎（芸術博士（ファッションデザイン），京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 特任教授）		
内容	展覧会「ドレス・コード？——着る人たちのゲーム」の関連イベントとして，チェルフィッチュ主宰・劇作家の岡田利規氏を講師に迎え，芸術博士（ファッションデザイン），京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 特任教授の水野大二郎氏を聞き手としてイベントを実施した。		
セミナー・シンポジウム名	講演会「近代京都画壇—美術と産業—」	開催年月日	令和元年 11 月 2 日（土）
場所	京都国立近代美術館 1 階講堂	聴講者数	88 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：並木誠士（京都工芸繊維大学教授，同美術工芸資料館館長）		
内容	展覧会「円山応挙から近代京都画壇へ」の関連イベントとして，京都工芸繊維大学教授，同美術工芸資料館館長の並木誠士氏を講師に迎え，講演会を実施した。		
セミナー・シンポジウム名	講演会「京都画壇と千總—岸竹堂を中心に—」	開催年月日	令和元年 11 月 9 日（土）
場所	京都国立近代美術館 1 階講堂	聴講者数	63 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：加藤結理子（千總文化研究所所長）		
内容	展覧会「円山応挙から近代京都画壇へ」の関連イベントとして，千總文化研究所所長の加藤結理子氏を講師に迎え，講演会を実施した。		
セミナー・シンポジウム名	記念講演会「空を描く」	開催年月日	令和元年 11 月 30 日（土）

場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	100人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：山唄眞應(大乘寺副住職)		
内容	展覧会「円山応挙から近代京都画壇へ」の関連イベントとして、大乘寺副住職の山唄眞應氏を講師に迎え、講演会を実施した。		
セミナー・シンポジウム名	講演会「父 ニーノ・カルーソ」	開催年月日	令和2年1月11日(土)
場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	61人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：アンドレア・カルーソ(彫刻家)		
内容	展覧会「記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ」の関連イベントとして、彫刻家のアンドレア・カルーソ氏を講師に迎え、講演会を実施した。		
セミナー・シンポジウム名	京都国立近代美術館オープンデー2020「ひらきまつり！」トークセッション「点字でチラシを作るとは」	開催年月日	令和2年2月7日(金)
場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	39人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会：本橋仁(京都国立近代美術館学芸課特定研究員) 登壇者：西村祐一(Rimishuna)，北原和規(UMMM)，坂田佐武郎(Neki inc.)，広瀬浩二郎(国立民族学博物館)，福井哲也(日本ライトハウス)		
内容	京都国立近代美術館が視覚障害のある方や大学等と連携して進めている「感覚をひらく」事業のなかで制作したイベントのチラシに着目し、制作に関わったデザイナー、視覚障害の当事者を招き、点字の入ったチラシをデザインする中で考えたことや、点字を入れたチラシをつくることの意味について議論を深めた。		
セミナー・シンポジウム名	京都国立近代美術館オープンデー2020「ひらきまつり！」萌えいずる声 百瀬文《聞こえない木下さんに聞きたいいくつかのこと》上映+シンポジウム	開催年月日	令和2年2月9日(日)
場所	京都国立近代美術館 1階講堂	聴講者数	123人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	登壇者：岡田温司(京都大学大学院教授)，木下知威(日本社会事業大学)，黒寄想(批評家)，百瀬文(映像作家) 司会：本橋仁(京都国立近代美術館)		
内容	近年ますます複層的に捉えられるようになりつつある「声」をテーマに、声と身体・意思のありようを新たな角度で検証することを目的に、百瀬文「聞こえない木下さんに聞きたいいくつかのこと」の上映及び4名のパネリストに登壇いただき、シンポジウムを開催した。なお、本プログラムは京都大学大学院 人間・環境学研究所 岡田温司研究室との共催事業である。		
ウ 国立映画アーカイブ			
セミナー・シンポジウム名	オリンピック記録映画の歴史と映画復元プロジェクト	開催年月日	令和元年11月30日(土)
場所	国立映画アーカイブ長瀬記念ホール OZU	聴講者数	99人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：エイドリアン・ウッド(オリンピック記録映画復元担当者，映画復元専門家)		
内容	企画上映「オリンピック記録映画特集—より速く，より高く，より強く」で，オリンピック記録映画の歴史と，記録映画の復元プロジェクトについて映画アーキビストの視点から解説。		
エ 国立西洋美術館			
セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム「近代の女性芸術家たち：フィンランドと日本」	開催年月日	令和元年6月21日(金)
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数	65人

講師・パネリスト等の氏名（職名）	司会：久保田有寿（国立西洋美術館学芸課特定研究員） 登壇者：アヌ・ウトリアイネン（フィンランド国立アテネウム美術館上級研究員），アンナ＝マリア・フォン・ボンズドルフ（フィンランド国立アテネウム美術館主席学芸員），アンナ＝マリア・ウィルヤネン（フィンランドセンター所長），児島薫（実践女子大学教授）		
内容	20世紀初頭におけるフィンランド美術界の女性たち，および近代日本の女性画家たちにおける教育，地位等について		
セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム「カタログ・レゾネ——デジタル時代のアーカイヴとドキュメンテーション」	開催年月日	令和元年7月10日（水）
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数	130人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	司会：渡辺晋輔（国立西洋美術館主任研究員） 登壇者：エリザベス・ゴレイエブ（ウィルデンスタイン・プラットナー研究所所長），フロランス・ソニエ（ウィルデンスタイン・プラットナー研究所パリ事務所長），ソフィ・ピエトリ（ウィルデンスタイン・プラットナー研究所アーカイヴ部門長），ポール＝ルイ・デュラン＝リュエル（デュラン＝リュエル画廊アーカイヴ），陳岡めぐみ（国立西洋美術館主任研究員），川口雅子（国立西洋美術館主任研究員），山梨絵美子（東京文化財研究所副所長），竹内順一（東京芸術大学名誉教授／茶道美術史家）		
内容	カタログ・レゾネ編纂におけるアーカイヴ資料及びドキュメンテーション資料の重要性について		
セミナー・シンポジウム名	日本・ギリシャ修好120周年記念講演会 「日本とギリシャ：それぞれの文化遺産の保存と修復 コルフ島とサラミナ島」	開催年月日	令和元年8月31日（土）
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数	123人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	司会：飯塚隆（国立西洋美術館主任研究員） 登壇者：デスピナ・ゼルニオティ（国立コルフ・アジア美術館長），木戸雅子（共立女子大学教授）		
内容	国立コルフ・アジア美術館における日本美術作品の保存について，及びバナギア・ファネロメニ修道院聖堂壁画の修復と保存について		
セミナー・シンポジウム名	ジャポニスム学会国際シンポジウム2019 「人の移動とジャポニスム」	開催年月日	令和元年10月5日（土）
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数	130人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	司会：遠藤望（世田谷美術館 学芸員・企画担当課長），石井元章（大阪芸術大学教授），井戸桂子（駒沢女子大学教授） 登壇者：井戸桂子，フィリス・フロイド（ミシガン州立大学准教授），鈴木順二（慶應義塾大学名誉教授），落合桃子（福岡大学講師），ウェイン・E.アーノルド（北九州市立大学准教授），モニカ・ブラウ（文筆家），ステーファノ・トゥリーナ（美術史家），稲賀繁美（国際日本文化研究センター教授，総合研究大学院大学教授），ドヴ・ビング（ワイカト大学名誉教授），ジル・マスタルスキ（東京国際フランス学園歴史学教諭）		
内容	人の移動とジャポニスムについて		
セミナー・シンポジウム名	スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会冬季研究会：招聘講演・シンポジウム 「ピカソとバルセロナ」	開催年月日	令和元年12月7日（土）
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数	65人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	司会：木下亮（昭和女子大学教授） 登壇者：木下亮，アドゥアル・バジェス（カタルーニャ美術館近現代美術主任学芸員），松田健児（慶應義塾大学准教授），久保田有寿（国立西洋美術館特定研究員），塚田美香子（実践女子大学非常勤講師）		
内容	ピカソとムダルニズマ，ピカソのバルセロナ滞在，およびピカソと戦前の日本について		

オ 国立国際美術館			
セミナー・シポジウム名	講演会「クリスチャン・ボルタンスキー—— 〈モニュメント〉から〈神話〉へ」	開催年月日	平成31年4月6日(土)
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数	98人
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	講師:湯沢英彦(明治学院大学文学部フランス文学科教授)		
内容	「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」展の関連イベントとして開催。ブルーストを中心にフランス文学を研究している湯沢氏から、ブルーストの代表作『失われた時を求めて』が記憶にまつわる小説である様に、ボルタンスキーの作品も「この世から消えてしまった人々の記憶」に捧げられているものである、という観点からご講演いただいた。		
セミナー・シポジウム名	コレクション特集展示 ジャコモッティと I 講演会	開催年月日	令和元年6月22日(土)
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数	81人
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	講師:武田昭彦(美術評論家)		
内容	ジャコモッティのモデルとなった哲学者・矢内原伊作の教え子であり、日仏においてジャコモッティと矢内原に関連する書籍の編集・執筆に数多く携わりジャコモッティ研究の大きな前進を導いた武田氏に、矢内原直筆の手帖(本展示に出品)を長年にわたって調査・整理したご経験をもとにお話いただいた。		
セミナー・シポジウム名	講演会「歴史哲学のなかの抽象: A・ダントーの 批判的検討から」	開催年月日	令和元年7月6日(土)
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数	134人
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	講師:佐藤一進(神戸学院大学法学部准教授)		
内容	「抽象世界」展の関連イベントとして開催。政治思想史の研究者であり、アーサー・C・ダントーの美学および歴史哲学について造詣の深い佐藤氏に、美術の終焉論と抽象絵画の現在について、ダントーの思想を手がかりにお話しいただいた。		
セミナー・シポジウム名	記念講演会「ウィーン・ミュージアムとそのコレ クション」	開催年月日	令和元年8月27日(火)
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数	144人
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	講師:ウルズラ・シュトルク(ウィーン・ミュージアム副館長)		
内容	「日本・オーストリア外交樹立150周年記念 ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」展関連イベントとして開催。本展の監修者であるウィーン・ミュージアムのウルズラ・シュトルク副館長に、オーストリア随一のコレクションを誇るウィーン・ミュージアムについて、19世紀末に花開いたウィーンの文化や展覧会の見どころなどを交えながらご講演いただいた。		
セミナー・シポジウム名	講演会「永遠の勾配——荒川修作+マドリン・ギ ンズ作品のなかの建築ドローイング」	開催年月日	令和2年2月24日(月・休)
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数	113人
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	講師:アイリーン・ソヌ(コロンビア大学アーサー・ロス建築ギャラリー 展示ディレクター)		

内容	「インポッシブル・アーキテクチャー―建築家たちの夢」関連イベントとして開催。コロンビア大学の建築ギャラリーで展示ディレクターを務めるアイリーン・ソヌ氏から、同ギャラリーでインポッシブル・アーキテクチャー展に出品された荒川修作とマドリン・ギンズ作「天命反転の橋」のドローイングを中心とした展覧会を開催した経緯を元に、荒川とギンズにとってのこの新たな取り組みと、その意味について講演していただいた。		
カ 国立新美術館			
セミナー・シポジウム名	オスマン帝国の帝都イスタンブルとトプカプ宮殿	開催年月日	平成31年4月13日(土)
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	260人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	鈴木董(東京大学名誉教授, トルコ歴史学協会名誉会員)		
内容	企画展「トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美」の関連イベントとして、トルコ史研究の第一人者である東京大学名誉教授の鈴木董氏を迎え、イスタンブルとトプカプ宮殿の歴史についてご講演いただいた。		
セミナー・シポジウム名	ウィーン・ミュージアムとそのコレクション	開催年月日	平成31年4月24日(水)
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	153人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ウルズラ・シュトルク(ウィーン・ミュージアム副館長)		
内容	企画展「ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」の関連イベントとして、ウィーン側の本展監修者であるウィーン・ミュージアム館長、ウルズラ・シュトルク氏を迎え、ウィーン・ミュージアムの歴史とコレクションについてご講演いただいた。		
セミナー・シポジウム名	クリスチャン・ボルタンスキー――〈痕跡〉から〈巡礼〉へ――	開催年月日	令和元年7月27日(土)
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	162人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	湯沢英彦(明治学院大学文学部フランス文学科教授)		
内容	企画展「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」の関連イベントとして、本展カタログにご執筆いただいた明治学院大学文学部フランス文学科教授の湯沢英彦氏を講師に迎え、ボルタンスキーの制作と作品の特質についてご講演いただいた。		
セミナー・シポジウム名	文化庁主催シンポジウム「グローバル化する美術界と『日本』:現状と未来への展望	開催年月日	令和元年9月11日(水)
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	194人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	登壇者:片岡真実(森美術館館長), 林道郎(美術評論家, 上智大学国際教養学部教授), 片山真理(アーティスト), 久門剛史(美術作家), 石井孝之(タカ・イシイギャラリー代表, 日本芸術写真協会代表理事), 田口美和(タグチ・アートコレクション)		
内容	政府成長戦略の観点でも注目されている「文化庁アートプラットフォーム事業」が果たすべき役割をテーマとし、様々な現代アート関係者(アーティスト, キュレーター, 批評家, コレクター, ギャラリスト)が集い、グローバルの最前線で起きていることを共有しながら、なぜ日本において現代アートのプラットフォーム形成が必要なのか、そのために何をすべきなのか、どのような可能性が啓けるのかについて議論を深めた。		
セミナー・シポジウム名	アーティストトーク	開催年月日	令和元年9月14日(土)
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	90人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	植本一子(写真家), 長島有里枝(写真家), ミヤギフトシ(本展出品作家)		

内容	企画展「話しているのは誰？ 現代美術に潜む文学」の関連イベントとして、出品作家のミヤギフトシ氏、そして写真家であり文筆家であるという点でミヤギ氏と共通点を持つ、植本一子氏、長島有里枝氏の2名を迎え、ミヤギ氏の作品を巡るトークイベントを開催した。		
セミナー・シンポジウム名	アーティストトーク	開催年月日	令和元年9月22日(日)
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	63人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	倉石信乃(詩人・評論家, 明治大学教授), 橋本一径(表象文化論, 早稲田大学教授), 北島敬三(本展出品作家)		
内容	企画展「話しているのは誰？ 現代美術に潜む文学」の関連イベントとして、出品作家の北島敬三氏、そして北島氏の作品について過去に論考を寄せている2名の研究者、倉石信乃氏と橋本一径氏を交えて、写真史における北島氏の位置づけについての議論していただいた。		
セミナー・シンポジウム名	オープニングフォーラム	開催年月日	令和元年10月3日(木)
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	150人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	登壇者: 本橋弥生(国立新美術館主任研究員, 本展監修者), ピエール・レネロ(カルティエ イメージ スタイル & ヘリテージ ディレクター), 榎田倫之(建築家, 新素材研究所代表)		
内容	企画展「カルティエ、時の結晶」の関連イベントとして、展示会のコンセプトや作品、会場構成・デザインについて、本展監修者、カルティエ社のディレクター、本展の空間構成を担当した建築家の鼎談を行った。		
セミナー・シンポジウム名	アーティストトーク	開催年月日	令和元年10月20日(日)
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	90人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	林道郎(美術史家・批評家, 上智大学教授), 松浦寿夫(画家・批評家, 武蔵野美術大学教授), 豊嶋康子(本展出品作家)		
内容	企画展「話しているのは誰？ 現代美術に潜む文学」の関連イベントとして、出品作家の豊嶋康子氏、そして豊嶋氏の仕事をよく知る美術史家・批評家の林道郎氏と画家・批評家の松浦寿夫氏を招聘して、豊嶋氏の作品について議論を行った。		
セミナー・シンポジウム名	タムラの空耳アワー	開催年月日	令和元年10月22日(火・祝)
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	70人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	第一幕: 郷原佳以(フランス文学, 東京大学准教授), 米田尚輝(本展企画者, 国立新美術館主任研究員) 第二幕: 三遊亭歌太郎(落語家) 第三幕: 家成俊勝(建築家, dot architects), 西澤徹夫(建築家, 西澤徹夫建築事務所), 田村友一郎(本展出品作家)		
内容	企画展「話しているのは誰？ 現代美術に潜む文学」の関連イベントとして、3部構成のイベントを行った。第一幕は、出品作家の田村友一郎氏の仕事について、フランス文学研究者の郷原佳以氏が分析を行い、本展企画者の米田尚輝氏が応答した。第二幕は、落語家の三遊亭歌太郎氏が田村氏の脚本による落語を披露した。第三幕は、建築家の家成俊勝氏と西澤徹夫氏、そして田村氏を交えて、建築家の視点から田村氏の作品について議論していただいた。		
セミナー・シンポジウム名	Style and Styles	開催年月日	令和元年10月25日(金)
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	60人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ピエール・レネロ(カルティエ イメージ スタイル & ヘリテージ ディレクター)		
内容	企画展「カルティエ、時の結晶」の関連イベントとして、長年カルティエ社に勤務してきたインターナショナル イメージ スタイル&ヘリテージ ディレクターのピエール・レネロ氏を迎え、カルティエのスタイルについてご講演いただいた。		
セミナー・シンポジウム名	アーティストトーク	開催年月日	令和元年10月26日(土)

場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	160人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	西加奈子(作家), 山崎ナオコーラ(作家), 小林エリカ(本展出品作家)		
内容	企画展「話しているのは誰? 現代美術に潜む文学」の関連イベントとして, 出品作家の小林エリカ氏に加えて, 小林氏の作品をよく知る二名の小説家, 西加奈子氏と山崎ナオコーラ氏をお招きし, 小説と視覚芸術について議論していただいた。		
セミナー・シンポジウム名	文化庁現代アートワークショップ トランス/ナショナル: グローバル化以降の現代美術を語る	開催年月日	令和元年11月29日(金)~12月1日(日)
場所	大阪大学中之島センター/京都造形芸術大学	聴講者数	招待制のため聴講者無し
講師・パネリスト等の氏名(職名)	パトリック・フローレス(フィリピン大学美術学部 教授, 同大学付属ヴァルガス美術館キュレーター)/アート・ウィンザー=タマキ(カリフォルニア大学アーバイン校)/ウンジー・ジュー(サンフランシスコ近代美術館)/ルーベン・キーハン(クイーンズランドアートギャラリー)/ガブリエル・リッター(ミネアポリス美術館)/龔卓軍(ゴン・ジョジュン)(Associate Professor / Director of Doctoral Program in Art reationand Theory, Tainan National University of the Arts)/ヨン・マ(ボンピドゥ)/マーティン・ジャーマン(インディペンデント・キュレーター)/ベ・ミョンジ(国立現代美術館, キュレーター)/Seng Yu Jin(シンガポール・ナショナルギャラリー, シニアキュレーター)/Maria Brewinska(ザヘンタ国立美術館, キュレーター)/ドリュン・チョン(M+, 副館長兼チーフ・キュレーター)/遠藤水城(Vincom Center for Contemporary Art [VCCA] 芸術監督)/赤井あずみ(鳥取県立博物館)/井關悠(水戸芸術館)/金澤韻(十和田市現代美術館 学芸統括)/藤田瑞穂(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(アクア)チーフキュレーター/プログラムディレクター)/牧口千夏(京都国立近代美術館 学芸課 主任研究員)/米田尚輝(国立新美術館 主任研究員)/小勝禮子(美術史家, 美術批評家)/柳幸典(アーティスト)/松井智恵(アーティスト)/三島喜美代(アーティスト)/加藤翼(アーティスト)/イム・ミヌク(アーティスト)/植松由佳(国立国際美術館主任研究員)/大館奈津子(芸術公社/一色事務所)/岡部美紀/片岡真実(森美術館館長)/中尾浩治(アートコレクター/アートプロデューサー)/アンドリュウ・マークル(ライター/編集者)/一般社団法人日本現代美術商協会(CADAN)/一般社団法人日本芸術写真協会(FAPA)		
内容	日本における現代アートの持続的発展のための基盤作りを目指す文化庁アートプラットフォーム事業の一環として現代アートの専門家の国際的相互ネットワーク構築を目指すもので, 2回目の開催。国内外からの参加者同士の深い議論を通して, 日本における制作を取り巻く環境やその認知度及び受容の状況に加え, 海外発信を文化政策の一環として行っていく際の課題や, 国境を越えて議論されている重要な課題についても掘り下げた。		
セミナー・シンポジウム名	19世紀・20世紀のハンガリー美術	開催年月日	令和元年12月4日(水)
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	90人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ゲルゲイ・マリアン(ハンガリー・ナショナル・ギャラリー 絵画部門長) プレスニヴィ・エディト(ハンガリー・ナショナル・ギャラリー 博物館学研究主任)		
内容	企画展「ブダペスト国立西洋美術館 & ハンガリー・ナショナル・ギャラリー所蔵 ブダペスト—ヨーロッパとハンガリーの美術400年」の関連イベントとして, ハンガリー・ナショナル・ギャラリーにおける本展担当者, 絵画部門長のゲルゲイ・マリアン氏と博物館研究主任のプレスニヴィ・ユディト氏を迎え, 19-20世紀のハンガリー美術についてご講演いただいた。		

独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。
 そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。
 理事においてもこれら多岐に渡る業務を遂行する理事長の職務を補佐するにあたり、相当の能力と専門性が求められる。
 以上により役員報酬の設定にあたっては、国家公務員の指定職、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の長を参考とした。

② 令和元年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則により、役員に支給される報酬のうち、期末特別手当においては、文部科学大臣が行う業績評価、役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案して理事長が決定する評価に基づき、期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。令和元年度においては、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

③ 役員報酬基準の内容及び令和元年度における改定内容

法人の長

役員報酬支給基準は、月額及び期末特別手当から構成されている。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(965,000円)及び地域手当(俸給月額の10%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の167.5、12月に支給する場合においては100分の172.5を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。
 令和元年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.05ヶ月分)を実施した。

理事

役員報酬支給基準は、法人の長と同様である。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(761,000円)及び地域手当(東京都特別区20%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の167.5、12月に支給する場合においては100分の172.5を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。
 令和元年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.05ヶ月分)を実施した。

理事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。なお、令和元年度においては改定は行っていない。

監事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。なお、令和元年度においては改定は行っていない。

2 役員の報酬等の支給状況

役名	令和元年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	報酬(給与)	賞与	その他(内容)		就任	退任	
法人の長	千円 18,587	千円 11,580	千円 5,151	千円 1,158 (地域手当) 146 (通勤手当) 552 (単身赴任手当)			
A理事	千円 15,548	千円 9,132	千円 4,373	千円 1,826 (地域手当) 217 (通勤手当)			◇
B理事 (非常勤)	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円 0 ()			
C理事 (非常勤)	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円 0 ()			
A監事 (非常勤)	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円 0 ()			
B監事 (非常勤)	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円 0 ()			

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

3 役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。
そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。
また、理事長の年間報酬額は、事務次官の年間給与額(2,337万円)と比較してもそれを下回っており、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の長の年間報酬額(約1,800万円)とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事

理事の職務においては、上記理事長の多岐に渡る業務を補佐するにあたり、相当の専門性を求めている。また、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の理事の年間報酬額(約1,500万円)とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事(非常勤)

理事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

監事(非常勤)

監事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

【主務大臣の検証結果】

職務内容の特性や国家公務員指定職適用官職、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする法人、民間企業との比較などを考慮すると、役員報酬水準は妥当であると考えられる。

4 役員の退職手当の支給状況(平成30年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間	退職年月日	業績勘案率	前職
法人の長	千円 該当なし	年 月			
理事	千円 該当なし	年 月			
理事 (非常勤)	千円 該当なし	年 月			
監事 (非常勤)	千円 該当なし	年 月			

注:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。
退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当なし
理事	該当なし
理事 (非常勤)	該当なし
監事 (非常勤)	該当なし

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

当法人においては、期末特別手当について、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

独立行政法人通則法第50条の10第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢(国家公務員の給与水準)に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定している。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

給与種目	制度の内容
俸給月額 (昇格)	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額 (昇給)	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与: 勤勉手当 (査定分)	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。

③ 給与制度の内容及び令和元年度における主な改定内容

独立行政法人国立美術館職員給与規則に則り、俸給及び諸手当(扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、超過勤務手当、休日出勤手当、夜勤手当、管理職手当、主任研究員手当、期末手当及び勤勉手当)としている。
期末手当については、期末手当基準額(俸給+扶養手当+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に100分の130を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合を乗じて得た額としている。
勤勉手当については、勤勉手当基準額(俸給+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に勤勉手当の支給基準に従って定める割合を乗じて得た額としている。
また、令和元年度においては国家公務員の給与改定に準拠し、①人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、俸給水準を平均0.1%引き上げ(令和2年2月期において平成31年4月に遡及して引き上げを実施)、②勤勉手当支給率の引き上げ(年間0.025ヶ月分)、③扶養手当額の改定等を実施した。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	令和元年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
常勤職員	人 94	歳 44.3	千円 7,944	千円 5,866	千円 164	千円 2,078
事務・技術	人 43	歳 40.2	千円 6,529	千円 4,810	千円 184	千円 1,719
研究職種	人 51	歳 47.8	千円 9,138	千円 6,757	千円 147	千円 2,381
技能・労務職種	人 -	歳 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -
任期付職員	人 3	歳 69.5	千円 17,033	千円 12,196	千円 94	千円 4,837
指定職種	人 3	歳 69.5	千円 17,033	千円 12,196	千円 94	千円 4,837
非常勤職員	人 29	歳 41.7	千円 5,776	千円 5,706	千円 147	千円 70
事務・技術	人 11	歳 46.2	千円 5,364	千円 5,180	千円 130	千円 184
研究職種	人 18	歳 39	千円 6,027	千円 6,027	千円 158	千円 0

注1:

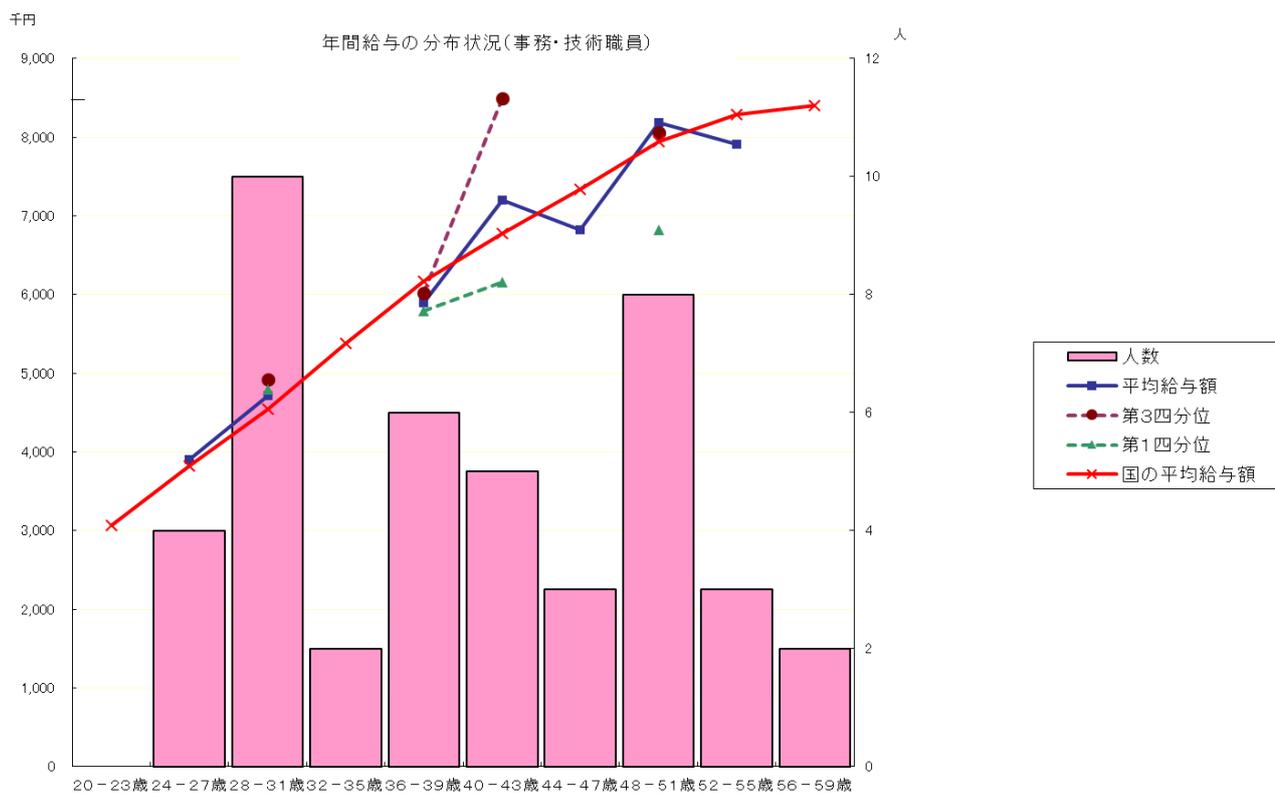
常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3: 技能・労務職種の該当者は2人以下の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、職種のみ記載している。

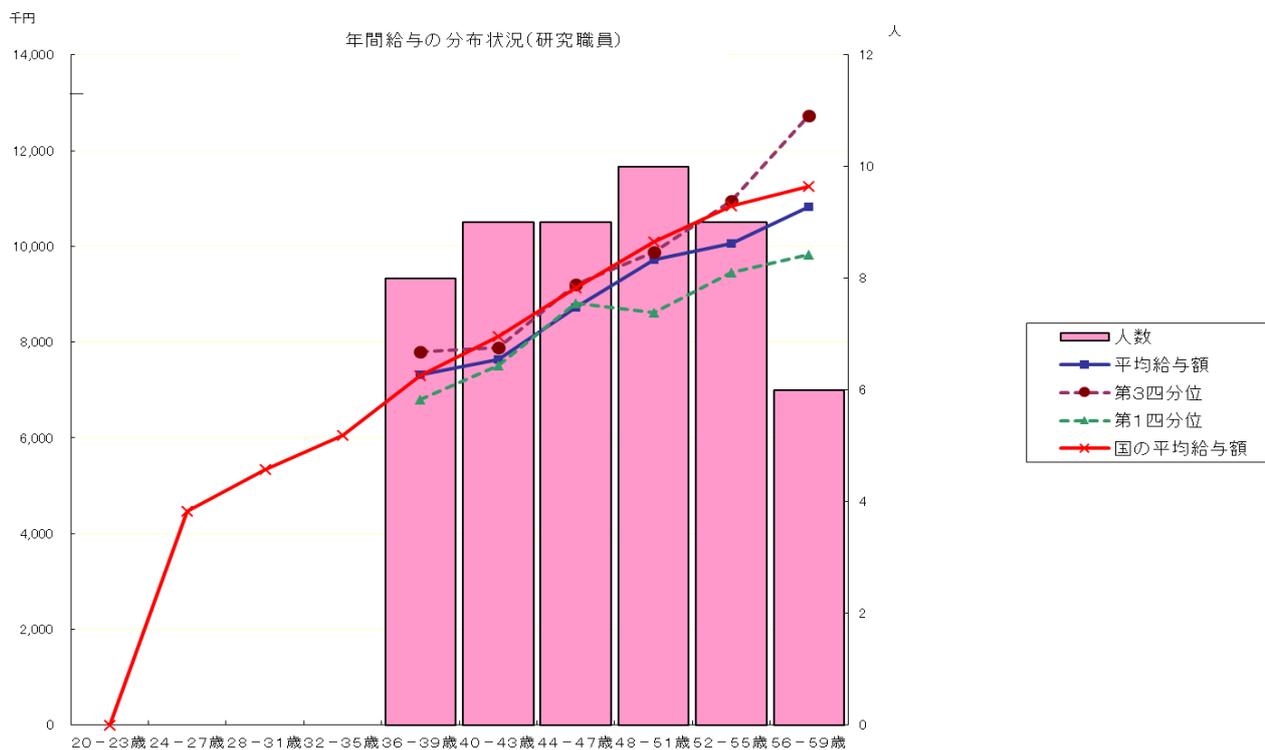
注4: 常勤職員、任期付職員、非常勤職員のうち医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)及び教育職種(高等専門学校教員)、在外職員並びに再任用職員については、該当する者がいないため欄を省略し

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)〔在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1: ①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2: 年齢24-27歳、32-35歳、40-43歳、52-55歳及び56歳-59歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、第1・第3四分位を表示していない。



③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部部長	1	-	-	-	-
本部課長	2	-	-	-	-
本部室長	2	-	-	-	-
本部係長	3	41.5	6,218	-	-
本部係員	5	29.3	4,584	5,031	3,877
地方課長	5	50.3	9,068	9,667	8,058
地方室長	4	48.3	7,358	-	-
地方係長	7	45.6	6,526	7,958	5,598
地方主任	4	37.5	5,573	-	-
地方係員	10	29.6	4,495	3,753	2,629

注1: 本部係長、地方室長、地方主任の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

注2: 本部部長、本部課長、本部室長の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

(研究職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
副館長	3	57.8	12,708	-	-
学芸課長	4	52.3	11,338	-	-
主任研究員	42	47.0	8,634	10,112	6,593
研究員	2	-	-	-	-

注1: 副館長、学芸課長の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

注2: 研究員の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

④ 賞与(令和元年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	58.3	57.0	57.6
	最高～最低	41.7	43.0	42.4
	最高～最低	46.4～38.4	47.5～34.5	44.3～37.8

注: 事務・技術職員の管理職員は2人以下のため、記載していない。

(研究職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	% 52.3	% 51.9	% 52.1
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 47.7	% 48.1	% 47.9
	最高～最低	% 49.8～42.9	% 50.9～41.3	% 50.3～42.1
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 58.5	% 57.2	% 57.8
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 41.5	% 42.8	% 42.2
	最高～最低	% 43.7～39.3	% 44.9～40.3	% 44.3～40.4

3 給与水準の妥当性の検証等

事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢勘案 101.2 ・年齢・地域勘案 93.1 ・年齢・学歴勘案 100.0 ・年齢・地域・学歴勘案 92.6
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	<p>当法人においては、本部事務局及び6館の美術館等のうち、4館が東京都特別区内に所在し、地域手当の1級地に勤務する職員数の割合が国を大きく上回る(国立美術館:72.2%, 国:31.7%)ため、年齢勘案の指数において、国の給与水準をわずかながら上回ったものと考えられる。なお、年齢・地域・学歴勘案の指数は国を7.4ポイント下回っている。</p> <p>※国家公務員の勤務地の比率については、「平成31年国家公務員給与等実態調査 適用俸給表別、地域手当支給区分」の行政職(一)を参照</p>
給与水準の妥当性の 検証	<p>【国からの財政支出について】</p> <p>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 79.7% (国からの財政支出額 8,773百万円、支出予算の総額 11,004百万円:令和元年度予算)</p> <p>累積欠損額 0円(令和元年度決算)</p> <p>支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 8.8% (支出総額(令和元年度決算ベース) 11,245,927千円、給与・報酬等支出総額 992,376千円)</p> <p>管理職の割合 2.3%(常勤職員数43名中1名) 大卒以上の割合 83.7%(常勤職員数43名中36名)</p> <p>(法人の検証結果)</p> <p>俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を1.2ポイント上回っているが、(年齢・地域・学歴勘案)では国を7.4ポイント下回っており、令和元年度の事務職員の給与水準は適切なものであると認識している。</p> <p>(主務大臣の検証結果)</p> <p>地域差及び地域・学歴差を是正した給与水準の比較指標では国家公務員の水準未滿となっていること等から給与水準は適正であると考え、引き続き適正な給与水準の維持に努めていただきたい。</p>
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

研究職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢勘案 95.6 ・年齢・地域勘案 94.8 ・年齢・学歴勘案 95.2 ・年齢・地域・学歴勘案 94.6
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の 検証	<p>【国からの財政支出について】</p> <p>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 79.7% (国からの財政支出額 8,773百万円、支出予算の総額 11,004百万円:令和元年度予算)</p> <p>累積欠損額 0円(令和元年度決算)</p> <p>支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 8.8% (支出総額(令和元年度決算ベース) 11,245,927千円、給与・報酬等支出総額 992,376千円)</p> <p>管理職の割合 5.9%(常勤職員数51名中3名) 大卒以上の割合 100%(常勤職員数51名中51名)</p> <p>(法人の検証結果)</p> <p>俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を4.4ポイント下回っており、令和元年度の研究職員の給与水準は適切なものであると認識している。</p> <p>(主務大臣の検証結果)</p> <p>給与水準の比較指標では国家公務員の水準未滿となっていること等から給与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めていただきたい。</p>
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

4 モデル給与

(扶養親族がない場合)

- 22歳(大卒初任給)
月額 182,200円 年間給与 2,732,000円
- 35歳(本部主任)
月額 317,640円 年間給与 5,241,000円
- 50歳(本部室長)
月額 443,880円 年間給与 7,524,000円

※扶養親族がいる場合には、扶養手当(配偶者6,500円、子1人につき10,000円)を支給

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の判定については、規則に基づく勤務の評定、または業務において特に優秀な成績を修めた職員の勤務成績を考慮している。

Ⅲ 総人件費について

区 分	平成28年 度	平成29年 度	平成30年 度	令和元年 度
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 947,002	千円 961,379	千円 978,610	千円 995,256
退職手当支給額 (B)	千円 119,129	千円 48,506	千円 62,137	千円 40,753
非常勤役員等給与 (C)	千円 415,260	千円 474,297	千円 515,028	千円 526,065
福利厚生費 (D)	千円 198,057	千円 205,032	千円 219,167	千円 227,097
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 1,679,448	千円 1,689,214	千円 1,774,942	千円 1,789,171

注: 中期目標管理法人及び国立研究開発法人については中期目標期間又は中長期目標期間の開始年度分から当年度分までを記載する。行政執行法人については当年度分を記載する。

総人件費について参考となる事項

人事院勧告を踏まえた俸給水準及び勤勉手当支給率の引き上げ等の影響、および常勤職員の欠員を補充したことにより「給与、報酬等支給総額」は対前年度比1.7%増となった。
また、上記の他、非常勤職員の人員増等による「非常勤職員等給与」(前年度比2.1%)の増加、これに伴う社会保険料額等による「福利厚生費」(前年度比3.6%)の増加があった。
一方で「退職手当支給額」は減少(前年度比△34.4%)しており、「最広義人件費」は対前年度比0.8%増にとどまった。

Ⅳ その他

特になし。